

令和6年度  
教育委員会の事務に関する点検・評価報告書  
(令和5年度 事務対象)

令和6年8月  
三田市教育委員会

# 目 次

## I 点検・評価制度の概要

- 1 点検・評価の経緯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2 点検・評価の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 3 点検・評価の対象・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 4 方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

## II 令和5年度三田市教育委員会の活動状況

- 1 教育委員会の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 2 教育委員会の主な活動内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
  - ① 教育委員会会議
  - ② 教育委員の主な活動（令和5年度実績）

## III 前年度の点検・評価委員の意見に対する令和5年度の取組・・・・・・・・・・ 5

## IV 令和5年度三田市教育委員会の主な施策・事業の取組実績の点検・評価

- 1 『さんだっ子かがやき教育プラン』に基づく教育施策の推進・・・・・・・・ 6
- 2 『さんだっ子かがやき教育プラン』施策の体系・・・・・・・・・・・・・・ 7
- 3 『さんだっ子かがやき教育プラン』5年間の目標に対する実績一覧・・・・・・・・ 8
- 4 『さんだっ子かがやき教育プラン』令和5年度施策・事業の取組【個票】・・・・ 11

## V 点検・評価委員の意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 99

## VI 参考資料

- 1 教育委員会会議（議案）の内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 108

# I 点検・評価制度の概要

## 1 点検・評価の経緯

平成18年12月の教育基本法の改正及び平成19年3月の中央教育審議会の答申等を踏まえ、平成19年6月に地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「地教行法」という。）が改正され、平成20年4月から施行されております。

その地教行法の改正目的である「教育委員会の責任の明確化」の一つとして、同法第26条の規定に基づき、教育委員会がその権限に属する事務の管理及び執行の状況について、教育に関し学識経験を有する者の知見を図りつつ、毎年、点検及び評価を行うとともに、その結果を議会へ報告し、公表することが義務づけられました。平成20年度より点検・評価を実施しております。

## 2 点検・評価の目的

教育委員会は首長から独立した立場で地域の教育に関する事務を担当する行政機関として、全ての都道府県及び市町村に設置されている行政委員会です。

その役割は、専門的な職員で構成される事務局を様々な属性を持った複数の委員による合議により、指揮監督し、中立的な意思決定を行うものとされています。

教育委員会は毎月、重要事項を審議決定する教育委員会議を開催するとともに教育施策に関する研修等を実施するなど、積極的な活動を通じて教育行政の推進に努めているところです。

地教行法の改正目的に基づき、教育委員会の責任体制の明確化を図るとともに市民に三田市教育行政を周知し、理解を得て、市民協働による教育を展開するために点検・評価を実施するものです。

## 3 点検・評価の対象

評価の対象は、令和5年度に実施した下記の内容です。

### ①教育委員会の活動

### ②さんだっ子ががやき教育プラン（三田市教育振興基本計画）に基づく施策・事業

※市長部局が所管している事務については、対象外としますが、教育プランの進捗管理も兼ねているため、各所管の自己評価を記載しています。（各シート内に『★』のマークがあるもの）

## 4 方法

点検・評価にあたっては、教育委員会が所管している事務の自己評価に対して、客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する者で構成する「三田市教育委員会点検・評価委員会」を開催し、評価及び意見をいただくものです。

氏名（敬称略）	区 分
吉田 礼子	校長経験者
齊藤 真理	社会教育経験者
下中 邦昭	P T A組織役員経験者

## Ⅱ 令和5年度三田市教育委員会の活動状況

### 1 教育委員会の概要

#### 【教育委員会制度の仕組み】

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、教育委員会は、政治的中立を確保し地域の実情にあった教育行政を行うことを目的として設置された行政委員会の一つであり、教育委員会の代表者である教育長と、4人の委員をもって構成される合議制の執行機関である。教育の政治的中立の立場から、地方公共団体の長が議会の同意を得て任命し、任期は教育長が3年、教育委員が4年となっている。

#### 【三田市教育委員会の定数】

5人 ※根拠：地方教育行政の組織及び運営に関する法律

#### 【三田市教育委員会（令和5年度）】

役職等	氏名	任期
教育長	鹿嶽 昌功	令和4年3月24日～令和7年3月23日（3期目）
委員 (職務代理者)	大野 裕己	令和2年12月22日～令和6年12月21日（1期目） 令和3年12月26日～職務代理者
委員	中上 之仁	令和元年12月22日～令和5年12月21日（2期目）
委員	中野 文雄	令和3年12月26日～令和7年12月25日（1期目）
委員	三木 尚美	令和4年12月25日～令和8年12月24日（2期目）
委員	中村 勇人	令和5年12月22日～令和6年6月30日

※中村 勇人委員は令和6年6月30日付で辞職し、ルーベツシュ 裕子委員が就任。  
(任期は令和6年7月1日から令和9年12月21日まで)

### 2 教育委員会の主な活動内容

#### ① 教育委員会会議

・教育委員会会議の開催回数

開催月	定例会	臨時会	協議会	開催月	定例会	臨時会	協議会
4月	1		1	10月	1		
5月	1		1	11月	1		1
6月	1		1	12月	1		
7月	1			1月	1		1
8月	1		1	2月	1		1
9月	1		1	3月	1	1	1
				合計	12	1	9
				会議合計数			22

・令和5年度 議決の状況（参考：P99参考資料）

付議事項数	30件	{ <主なもの> 議会提出議案に関する意見 8件 教育委員会規則・規程の制定・改廃 8件             }

② 教育委員の主な活動（令和5年度実績）

【学校園行事・会議等への出席状況】

開催日	行事名等	場 所	備 考
4月7日、11日	入学式	1小学校・1中学校・1特別支援学校	
4月19日	兵庫県市町村教育委員会連合会第1回常任委員会	兵庫県民会館	
4月25日～6月7日	学校訪問（春期）	10小学校・4中学校	
5月20日	三田市人権を考える会総会	まちづくり協働センター	
5月25日	兵庫県市町村教育委員会連合会理事会及び定時総会・全県教育委員会研修会	播磨町中央公民館	
5月27日、9月30日	小学校運動会	7小学校	
6月29日	令和5年度市町村教育委員会協議会	オンライン	
7月12日	令和6年度使用教科用図書採択に係る内覧会	三田市役所南分館	
8月2日	校園長及び教育委員研修会	三田市役所南分館	
8月3日	教育長・教育委員と生涯学習委員との意見交換会	三田市役所南分館	
8月17日～18日	全県夏季教育委員会研修会	ホテル北野プラザ六甲荘	
8月31日	阪神7市1町教育委員会連合会及び研修会	宝塚市立文化芸術センター	
9月12日～13日	中学校体育大会	2中学校	
10月10日～12月7日	学校訪問（秋期）	10小学校・4中学校・1特別支援学校	
10月12日～2月9日	小学校研究発表会	8小学校・1特別支援学校	
10月12日	第72回全国へき地教育研究大会 兵庫大会	アクエリひめじ	
10月13日		母子小学校	
10月28日～11月3日	三田市小学校音楽会	4小学校	
10月31日	阪神7市1町教育委員会連合会第2回研修会	宝塚市立中央公民館	
11月7日	近畿市町村教育委員会研修大会	オンライン	

11月7日	三田市中学校音楽会	郷の音ホール	
11月10日	三田市小学校連合音楽会	郷の音ホール	
11月13日	市長と教育委員との懇談会	三田市役所	
12月2日	人権と共生社会を考える市民のつどい	郷の音ホール	
12月26日	総合教育会議	三田市役所南分館	
1月15日	阪神7市1町教育委員会連合会第3回研修会	オンライン	
1月24日	教育懇談会	八景中学校	
2月15日	三田市教育研究グループ研究交流会及び学校指導員研修会	三田市総合福祉保健センター	
3月4日、5日、13日	教育委員会感謝状贈呈式	2幼稚園・1小学校・1中学校	
3月14日、22日	卒業式	3小学校・3中学校・1高等学校・1特別支援学校	
毎月	校長会への出席	三田市役所南分館等	毎月1回＋臨時会

### Ⅲ 前年度の点検・評価委員からの意見に対する令和5年度の取組

#### 『課題に関する主な意見』と『意見に対する取組』

項目	点検・評価委員の意見	取組状況
教育委員会の活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会情勢は激変しており、学校現場が直面する課題は多い。通常の活動に戻りつつあるが、コロナ禍前以上に現場に寄り添い迅速にサポートする必要がある。</li> </ul>	(教育総務課) <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年度は全29校(春期14校、秋期15校)への学校訪問を実施し、児童・生徒・教職員及び学校の状況把握、課題の共有を行った。</li> </ul>
「確かな学力」の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル技術を組み入れて対話を重視し、協働的な学びを創り出すと共に学習成果を生活に生かすことを意識した、現場の指導改善プラン・授業改善に期待する。</li> <li>・読書の機会の確保と、適切な働きかけのもとで情報リテラシーを学ぶためにも、学校司書の増配をお願いしたい。</li> </ul>	(教育研修所) <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合学習アプリ等を活用した協働的な学びにより、児童生徒が自らの考えを捉えなおしたり、再構築したりする授業の改善に資するため、各種研修・講座を行っている。学校司書に関しては、年7回の研修を通して実践力を高める取組を行っている。現在、中学校への増配に向けて取組を進めている。</li> </ul>
「健やかな体」の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地場野菜や特産品の使用を増やすことについては、経費の折り合いが難しいと思うが、進めるためにはある程度の財政的な援助が必要である。</li> </ul>	(学校給食課) <ul style="list-style-type: none"> <li>・「三田市学校給食のあり方について(答申)」(令和5年4月、学校給食運営協議会)で提言された地産地消の推進に基づき令和6年度より予算の拡充を行い、取組を進めていく。</li> </ul>
一人一人が大切にされる教育・支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校児童生徒の出現率がコロナ禍で増加していると同時にその子ども・保護者の3分の1が関係機関の相談・支援を受けていない事実を重く受け止めたい。早急に原因分析を行い対策を講じ、必要に応じてスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等と連携した支援を更に進められたい。</li> </ul>	(学校教育課) <ul style="list-style-type: none"> <li>特に90日以上の不登校児童生徒に、支援を受けていない状態が続かないように指導を行った。また、市費スクールカウンセラー事業を拡充し、三田市あすなろ教室にスクールソーシャルワーカーを配置し、アウトリーチ等の支援体制整備を図った。</li> </ul>
幼児期の教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三田市立幼稚園と三田保育所の人事交流をより一層進め、新たに開設する認定こども園への移行がスムーズに進められるよう協働していただきたい。</li> </ul>	(幼児教育振興課) <ul style="list-style-type: none"> <li>新たな認定こども園の生活、運営等について、職員研修やワーキングチームによる準備検討を重ねながらスムーズな移行を進めている。</li> </ul>
学び支える環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・床や壁などの老朽化が目立つ学校も多く、ピッチを上げて進めていただくことを希望する。</li> <li>・ICT機器やデジタル教材の導入・整備が図られたが、児童生徒のアンケートによると「ほぼ毎日使う」児童生徒は2割程度となっている。「勉強の役に立つ」と答えている子どもは6～7割いることから、自主的な活用ができるように教師の研修を更に進めていただきたい。</li> </ul>	(教育総務課) <ul style="list-style-type: none"> <li>計画的に大規模改修を行っており、令和5年度は三輪小大規模改修設計を行った。</li> </ul> (教育研修所) <ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度の教職員を対象としたアンケート調査から、現場のニーズに対応したGIGA端末の操作研修、各種アプリケーションの操作および活用研修を複数回実施した。</li> </ul>

## IV 令和5年度

### 三田市教育委員会の主な施策・事業の取組実績の点検・評価

#### 1 「さんだっ子かがやき教育プラン」に基づく教育施策の推進

本市においては、平成24年10月に「第1期三田市教育振興基本計画～さんだっ子かがやき教育プラン～」、平成29年4月に「第2期三田市教育振興基本計画からさんだっ子かがやき教育プラン～」を策定し、「子どもの夢と未来が輝くまち さんだ」の実現をめざし、学校・家庭・地域の連携により教育施策を進めてきました。

令和4年4月からスタートした第3期計画においては、その成果と課題を検証し、これからの時代を担う子どもたちに身に付けてほしい資質・能力の育成に必要な施策を盛り込むとともに、第1期計画及び第2期計画の基本理念を発展させ、めざす子ども像を継承しつつ、新たな課題への取り組みや中期的に取り組む施策等を総合的かつ体系的に推進していく必要があることから、その実現に向けて、以下の3つの基本目標を定めています。

基本目標1 「生きる力」を育む教育を推進します

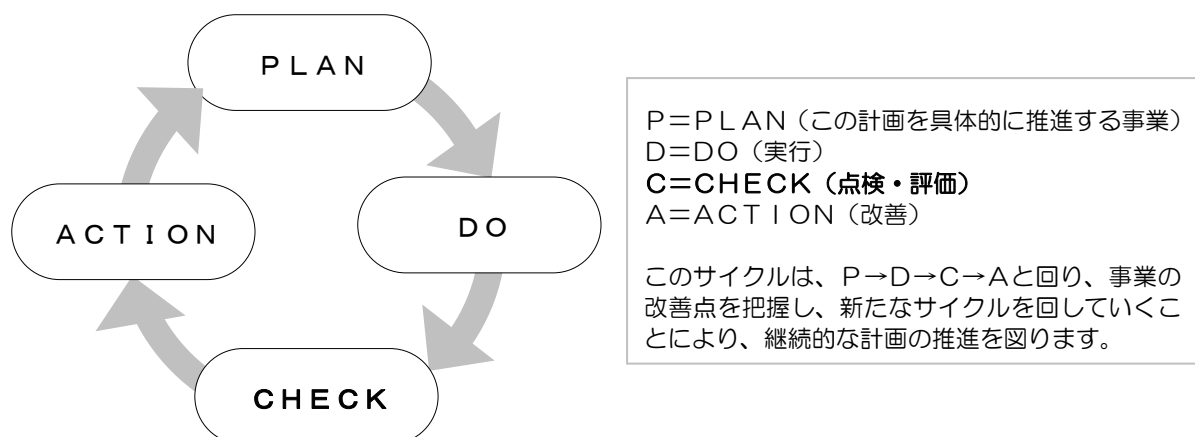
基本目標2 魅力ある学校をつくり家庭・地域と共に子どもの学びを支援します

基本目標3 学びを支える環境を整備します

この基本目標に沿った今後の市の教育の方向性や教育に関わる5年間の主な取組を第3期計画に記載しており、この計画に沿って教育施策を推進しています。

また、計画を効果的かつ着実に推進するために「PDCAサイクル」[計画(Plan)→実行(Do)→点検・評価(Check)→改善(Action)]を確立し、継続的に計画の進行管理を実施していきます。

この計画の進行管理にあたっては、計画の実施に向けた具体的な事業を毎年度策定する「三田の教育(指導の重点)」に反映させ、計画で設定した「5年間の目標」の指標や取組内容をもとに、事務事業の点検・評価を行い、その結果を踏まえて工夫・改善しながら計画の推進を図ります。この「CHECK」の部分で、今回の点検・評価にあたるものです。



## 2 「さんだっ子かがやき教育プラン」施策の体系

### 計画の体系

【基本理念】

夢を育て、人をはぐくむ学びのまち さんだ

【めざす子ども像】

自分が好き、人が好き、このまちが好き、  
夢に向かって歩むさんだっ子

【基本目標】

【基本施策】

【施策の方向性】



### 3 『さんだっ子かがやき教育プラン』5年間の目標に対する実績一覧（令和5年度実績）

「◎」計画2年度目が既に目標を達成している。  
 「○」目標は達成していないが、令和3年度実績から令和8年度目標に向けての進捗状況が順調である（※目標進捗率90%以上）。  
 「△」目標は達成していないが、令和3年度実績から令和8年度目標に向けての進捗状況が概ね順調である（同70%以上90%未満）。  
 「▼」目標を達成しておらず、令和3年度実績から令和8年度目標に向けての進捗状況が順調に進んでいない（同70%未満）。  
 「×」目標は達成しておらず、令和3年度実績を下回っている。  
 「－」調査対象外  
 ※目標進捗率…令和4年度から令和8年度（最終目標）までの5年間で均等分割して算出

1「確かな学力」の育成	進捗管理課	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和3年度 (実績)	目標 (令和8年度)	進捗 状況	該当する 取組(個 票)	掲載 頁
全国学力・学習状況調査における平均正答率の全国との比較 (全国学力・学習状況調査)	教育研修所	(小6)国語+5、 算数+6 (中3)国語+5、 数学+8	(小6)国語+3、 算数+5 (中3)国語+6、 数学+7				(小6)国語+1、 算数+3 (中3)国語+3、 数学+6	すべての教科において、+6ポイント以上	○	1	14
「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う」と答える子どもの割合 (全国学力・学習状況調査)	教育研修所	(小6)80.3% (中3)78.2%	(小6)82.7% (中3)80.3%				(小6)80.7% (中3)79.6%	(小6)83.0% (中3)82.0%	△	4	
「家で自分で計画を立てて勉強をしている」と答える子どもの割合 (全国学力・学習状況調査)	教育研修所	(小6)66.5% (中3)65.5%	(小6)69.0% (中3)65.0%				(小6)71.2% (中3)73.0%	(小6)77.0% (中3)79.0%	×	5	
「理科が好き」と答える子どもの割合 (全国学力・学習状況調査)	教育研修所	(小6)81.7% (中3)64.9%	実施なし				(小6)86.0% (中3)61.3% 【平成30年度】	(小6)92.0% (中3)65.0%	－	6	
2「豊かな心」の育成	進捗管理課	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和3年度 (実績)	目標 (令和8年度)	進捗 状況	該当する 取組(個 票)	掲載 頁
「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思う」と答える子どもの割合 (全国学力・学習状況調査)	教育研修所	(小6)73.6% (中3)78.0%	(小6)79.2% (中3)87.2%				(小6)78.7% (中3)84.3%	(小6)85.0% (中3)87.0%	▼	11	23
「人が困っているときは、進んで助けている」と答える子どもの割合 (全国学力・学習状況調査)	学校教育課	(小6)91.1% (中3)88.6%	(小6)92.8% (中3)91.4%				(小6)90.1% (中3)88.8%	(小6)92.0% (中3)90.0%	◎	14	
「自分には、よいところがあると思う」と答える子どもの割合 (全国学力・学習状況調査)	学校教育課	(小6)78.3% (中3)75.1%	(小6)85.8% (中3)81.7%				(小6)80.7% (中3)76.5%	(小6)90.0% (中3)85.0%	○	15	
「いじめを受けたり、嫌なことがあったりした時相談しない」と答える子どもの割合 (「いじめに関する生活アンケート」調査)	学校教育課	(小6)10.3% (中3)9.1%	(小6)10.6% (中3)11.3%				(小6)7% (中3)11% 【令和2年度】	(小6)0% (中3)0%	×	13	
3「健やかな体」の育成	進捗管理課	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和3年度 (実績)	目標 (令和8年度)	進捗 状況	該当する 取組(個 票)	掲載 頁
「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」の肯定的回答の割合 (全国体力・運動能力、運動習慣等調査)	教育研修所	(小5)94.1% (中2)85.6%	(小5)87.5% (中2)83.9%				(小5)88.6% (中2)83.0%	(小5)93.0% (中2)88.0%	▼	18	29
「朝食を毎日食べている」と答える子どもの割合 (全国学力・学習状況調査)	学校教育課	(小6)96.5% (中3)92.6%	(小6)95.8% (中3)93.7%				(小6)96.9% (中3)93.5%	(小6)98.0% (中3)96.0%	▼	22	
地場野菜使用率	学校給食課	28.6%	20.4%				31.3% 【令和2年度】	35.0%	×	23	

「◎」計画2年度目だが既に目標を達成している。  
「○」目標は達成していないが、令和3年度実績から令和8年度目標に向けての進捗状況が順調である(※目標進捗率90%以上)。  
「△」目標は達成していないが、令和3年度実績から令和8年度目標に向けての進捗状況が概ね順調である(同70%以上90%未満)。  
「▼」目標を達成しておらず、令和3年度実績から令和8年度目標に向けての進捗状況が順調に進んでいない(同70%未満)。  
「×」目標は達成しておらず、令和3年度実績を下回っている。  
「-」調査対象外  
※目標進捗率…令和4年度から令和8年度(最終目標)までの5年間で均等分割して算出

4 一人一人が大切にされる教育の充実	進捗管理課	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和3年度(実績)	目標(令和8年度)	進捗状況	該当する取組(個票)	掲載頁
特別支援教育研修講座受講者数(年間延べ人数)	教育支援課	270人	296人				131人【令和2年度】	300人	○	33	41
「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」と答える子どもの割合(全国学力・学習状況調査)	学校教育課	(小6)97.8% (中3)97.0%	(小6)97.9% (中3)95.8%				(小6)98.6% (中3)94.6%	(小6)100% (中3)100%	▼	36	
不登校児童生徒・保護者が関係機関に相談・支援を受けている割合	学校教育課	65.3%	55.9%				-	100%	▼	38	
5 社会的自立に向けた教育の推進	進捗管理課	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和3年度(実績)	目標(令和8年度)	進捗状況	該当する取組(個票)	掲載頁
「将来の夢や目標を持っている」と答える子どもの割合(全国学力・学習状況調査)	学校教育課	(小6)79.2% (中3)66.7%	(小6)79.9% (中3)62.7%				(小6)80.7% (中3)68.6%	(小6)90.0% (中3)80.0%	×	45	53
「授業では、英語で自分自身の考えや気持ちを伝え合うことができている」と答える子どもの割合(全国学力・学習状況調査)	教育研修所	実施なし	実施なし				(小6)75.3% (中3)70.5%	(小6)78.0% (中3)73.0%	-	51	
「今住んでいる地域の行事に参加している」と答える子どもの割合(全国学力・学習状況調査)	教育研修所	(小6)54.5% (中3)43.4%	(小6)63.9% (中3)40.7%				(小6)64.8% (中3)49.5%	(小6)74.0% (中3)55.0%	×	53	
6 幼児期の教育の充実	進捗管理課	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和3年度(実績)	目標(令和8年度)	進捗状況	該当する取組(個票)	掲載頁
「幼稚園は子どもの主体性を育み、活動を通して友達と協力したり、粘り強く取り組む力や自己肯定感などを高めている。」と答える保護者の割合(学校評価アンケート)	幼児教育振興課	84.6%	88.8%				84%【令和2年度】	90%	○	57	61
市立幼稚園の預かり保育の実施日の拡充	幼児教育振興課	週3日:全園	週3日:全園				週3日:2園 週2日:7園 週1日:1園【令和2年度】	週5日:全園	○	60	
7 信頼される学校づくりの推進	進捗管理課	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和3年度(実績)	目標(令和8年度)	進捗状況	該当する取組(個票)	掲載頁
学校ホームページの年間アクセス数が家庭数の3倍以上(月平均)の学校数	教育研修所	27校	26校				22校【令和2年度】	小中特別支援学校全校	○	61	66
教育研修所で研修した教職員数(年間延べ人数)※オンライン研修を含む	教育研修所	年間2,958人(内オンライン研修1,451人)	年間3,677人(内オンライン研修1,478人)				年間1,524人(内オンライン研修931人)【令和2年度】	年間2,000人	◎	67	
「研修内容を今後の指導に役立てたい」と回答した教職員の割合(三田市教育研修所に関するアンケート)	教育研修所	92.6%	99.2%				-	85%	◎	66	

「◎」計画2年度目だが既に目標を達成している。  
「○」目標は達成していないが、令和3年度実績から令和8年度目標に向けての進捗状況が順調である(※目標進捗率90%以上)。  
「△」目標は達成していないが、令和3年度実績から令和8年度目標に向けての進捗状況が概ね順調である(同70%以上90%未満)。  
「▼」目標を達成しておらず、令和3年度実績から令和8年度目標に向けての進捗状況が順調に進んでいない(同70%未満)。  
「×」目標は達成しておらず、令和3年度実績を下回っている。  
「-」調査対象外  
※目標進捗率…令和4年度から令和8年度(最終目標)までの5年間で均等分割して算出

教育研究グループの組織率	教育研修所	18.4%	17.8%					全教職員の18.3%	全教職員の20%以上	×	68	66
「教育効果を上げるために、コンピュータやインターネットなどの利用場面を計画して活用することができる」と回答する教職員の割合(教職員のICT活用指導力チェックリスト【文部科学省】)	教育研修所	84.1%	88.7%					83.4%【令和2年度】	100%	△	69	
ICT支援員の数	教育研修所	3人	3人					3人【令和2年度】	7人(4校に1人)	▼	71	
<b>8 地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり</b>	進捗管理課	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和3年度(実績)	目標(令和8年度)	進捗状況	該当する取組(個票)	掲載頁	
★学校支援ボランティアの年間延べ活動日数	子ども育成課	4,414日	4,984日				2,608日【令和2年度】	4,350日	◎	73	77	
「来年度以降も、協力したい」と答える事業所の割合(地域も学ぶ「トライやる・ウィーク」の実施に関するアンケート調査)	学校教育課	96.2%	97.2%				91.7%【令和元年度】	95.0%	◎	76		
★放課後子ども教室の年間延べ開催日数	子ども育成課	1,239日	1,377日				1,042日【令和2年度】	2,040日	△	79		
<b>9 子どもと大人の「学び」が循環する関係づくり</b>	進捗管理課	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和3年度(実績)	目標(令和8年度)	進捗状況	該当する取組(個票)	掲載頁	
★こうみん未来塾探究コースの小中学生の年間修了者数	子ども育成課	45人	36人				-	200人	▼	89	86	
★図書館見学及び移動図書館サービス(定期巡回以外)を利用した小中学校の数	文化スポーツ課	2校	3校				1校【令和2年度】	7校	○	93		
★学校訪問コンサート(アウトリーチ活動)を利用した小学校	文化スポーツ課	19校	19校				18校【令和2年度】	小学校全校	○	94		
<b>10 学びを支える環境の整備</b>	進捗管理課	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和3年度(実績)	目標(令和8年度)	進捗状況	該当する取組(個票)	掲載頁	
「前年度までに受けた授業で、コンピュータなどのICTをほぼ毎日使う」と答える子どもの割合(全国学力・学習状況調査)	教育研修所	(小6)20.5% (中3)12.0%	(小6)22.7% (中3)40.7%				(小6)10.3% (中3)5.8%	小学校・中学校ともに90.0%	▼	100	92	
校舎の洋式便器1基あたりの児童生徒数	教育総務課	(女子)12.5人 (男子)19.6人	(女子)11.1人 (男子)17.1人				(女子)14.4人 (男子)20.8人	(女子)10人以下 (男子)20人以下	○	96		
学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと答える子どもの割合(全国学力・学習状況調査)	教育研修所	(小6)70.2% (中3)58.3%	(小6)67.8% (中3)60.2%				(小6)71.1% (中3)64.2%	(小6)90.0% (中3)85.0%	×	100		
★こども110番の家年度末設置箇所数	子ども育成課	767箇所	767箇所				882箇所【令和2年度】	1,040箇所	×	99		

『★』のマークがあるものは、市長部局が所管している事務

# 4 『さんだっ子かがやき教育プラン』 令和5年度施策・事業の取組 ( 個 票 )

※取組項目に『★』のマークがあるものは、市長部局が所管している事務

PDCAサイクル		
サイクル	記載項目	記載箇所・状況等
Plan	取組内容	基本計画 P【○頁】
Do	R5年度指導の重点【○頁】	具体的取組 【D1】
	特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】
Check	R5年度指導の重点【○頁】	評価【C1】
	議題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】
Action	R7に向けた取組・改善策等	課題についての対策（案）【A】

①	R5指導の重点における「具体的取組【D1】」に対する「評価【C1】」を行う。	
②	「評価【C1】」は次の5段階で内部評価する。	
	◎	具体的取組が目標達成に大きく貢献した。
	○	具体的取組が目標達成に想定どおり貢献した。
	△	具体的取組が目標達成には期待していたよりも貢献しなかった。
	×	具体的取組を実行したが課題山積であった。
	－	具体的取組を実行しなかった。
③	「評価【C1】」により次の区分に分析・記載する。	
	◎	記載箇所
	○	特筆すべき取組・特筆すべき取組内容（成果） 【D2】
	△	課題等・上記具体的取組に関する主な課題（主な原因） 【C2】、【A】及び期待効果
	×	
－		

#### 4 『さんだっ子がやき教育プラン』令和5年度施策・事業の取組(個票)【目次】

基本施策1 「確かな学力」の育成		担当課	掲載頁
<b>(1) 子どもの可能性を拓く資質・能力の育成</b>			
1	「学力向上指導改善プラン」の実践	教育研修所	14
2	授業改善の促進	教育研修所	15
3	個別最適な学びと協働的な学びの充実	教育研修所	16
4	学力向上に向けた補充学習及び発展学習の充実	教育研修所	16
5	「ひとり学びへの手引き」の活用	教育研修所	17
6	理科教育の推進	教育研修所	17
7	読書活動の推進	教育研修所・文化スポーツ課	18
<b>(2) 育ちと学びをつなぐ教育の推進</b>			
8	小学校高学年における専科指導・教科担任制の推進	教育研修所	20
9	小中一貫した教育の推進	学校教育課	20
10	学校園所接続の推進	学校教育課・幼児教育振興課・保育振興課	21
基本施策2 「豊かな心」の育成		担当課	掲載頁
<b>(1) 道徳性を育む教育</b>			
11	道徳科を要とした道徳教育の推進	教育研修所	23
12	家庭や地域と連携した道徳教育の推進	教育研修所	24
<b>(2) 「共生」の心を育む教育</b>			
13	人権教育の充実	学校教育課	25
14	福祉教育の推進	学校教育課	25
15	多文化共生教育の充実	学校教育課	26
16	帰国・外国人児童生徒への支援	学校教育課	27
基本施策3 「健やかな体」の育成		担当課	掲載頁
<b>(1) 体力・運動能力の向上</b>			
17	★市立幼稚園における「しなやかな体と心づくり」の推進	幼児教育振興課	29
18	体力向上の取組の推進	教育研修所	30
19	★レベルの高い競技会等の開催と交流の機会づくり	文化スポーツ課	31
20	★スポーツを通じたコミュニケーションの機会づくり	文化スポーツ課	31
21	★地域スポーツ活動を通じたまちづくり	文化スポーツ課	32
<b>(2) 食育・健康教育</b>			
22	食育の推進	学校教育課・学校給食課	33
23	地産地消の推進	学校給食課	34
24	学校教育の安全・安心の確保	学校給食課	34
25	学校給食の異物混入未然防止	学校給食課	35
26	感染症予防のための能力・態度の育成	学校教育課	36
27	健康教育の充実	学校教育課	36
<b>(3) 安全・防災教育</b>			
28	安全教育の充実	学校教育課・教育総務課	38
29	防災・減災教育の充実	学校教育課	39
30	生命(いのち)を大切にする教育の推進	学校教育課	39
基本施策4 一人一人が大切にされる教育の充実		担当課	掲載頁
<b>(1) 特別支援教育</b>			
31	就学前から卒業後までを見通した個別の指導計画等の作成と活用	教育支援課	41
32	特別支援教育相談の充実	教育支援課・幼児教育振興課	42
33	特別支援教育研修の充実	教育支援課	42
34	通常の学級における指導・支援の充実	教育支援課	43
35	共に生きる教育の推進	教育支援課	44
<b>(2) 生徒指導・相談体制の充実</b>			
36	生徒指導の充実	学校教育課	45
37	教育相談の充実	学校教育課	46
38	不登校対策の充実	学校教育課	47
39	スクールソーシャルワーカーと連携した支援の推進	学校教育課	48
40	福祉部局と連携した効果的な支援	学校教育課・教育支援課	48
<b>(3) 保護者の経済的負担の軽減</b>			
41	就学援助費及び高等学校等入学支援金の支給	教育支援課	50
42	遠距離通園・通学費の補助	教育支援課・幼児教育振興課	51
43	特別支援教育就学奨励費の支給	教育支援課	51
基本施策5 社会的自立に向けた教育の推進		担当課	掲載頁
<b>(1) キャリア形成と自己実現を図る教育</b>			
44	キャリア教育推進体制の整備	学校教育課	53
45	キャリアノート、キャリア・パスポートの活用	学校教育課	53
46	キャリア教育に関わる体験活動の充実	学校教育課・教育研修所	54
47	家庭・地域と連携・協働したキャリア教育の推進	学校教育課	55
48	環境教育を通じた問題解決能力の育成	教育研修所	55
49	部活動による個性の伸長	学校教育課	56
<b>(2) グローバル化に対応した教育</b>			
50	国際理解教育推進	学校教育課	57
51	外国語(英語)教育の推進	教育研修所	57
52	伝統や文化に関する教育の推進	教育研修所	58
53	「ふるさと学習」の充実	教育研修所	59
54	地域のよさを活かした体験教育の推進	教育研修所・学校教育課	60

基本施策6 幼児期の教育の充実		担当課	掲載頁
<b>(1) 生きる力の基礎を育む教育</b>			
55	★市立幼稚園再編の推進	幼児教育振興課	61
56	★幼児教育に係る教職員研修の充実	幼児教育振興課・保育振興課	62
57	★市立幼稚園指定研究事業の推進	幼児教育振興課	62
58	★幼児期の教育と小学校教育との円滑な接続	幼児教育振興課	63
59	★市立幼稚園の子育て支援の推進	幼児教育振興課	64
60	★市立幼稚園の預かり保育の充実	幼児教育振興課	65
基本施策7 信頼される学校づくりの推進		担当課	掲載頁
<b>(1) 学校組織力の向上</b>			
61	開かれた学校園所づくりの推進	教育研修所・学校教育課・幼児教育振興課	66
62	学校評価を活用した教育活動の改善推進	学校教育課・幼児教育振興課	67
63	学校組織運営の改善	教育総務課	67
64	教育委員会と学校の連携強化	教育総務課・学校教育課	67
<b>(2) 教職員の資質・指導力の向上</b>			
65	教育公務員としての使命感の高揚と倫理観の確立	教育総務課・教育研修所	69
66	教育研修所機能の充実	教育研修所	69
67	教職員研修の推進	教育研修所	70
68	教育研究グループ活動の充実	教育研修所	71
69	ICTを活用した指導力の向上	教育研修所	72
<b>(3) 教職員の働き方改革</b>			
70	勤務時間適正化の推進	教育総務課	74
71	校務におけるデジタル技術の活用推進	教育研修所	75
72	教職員のメンタルヘルスの保持増進	教育総務課	75
基本施策8 地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり		担当課	掲載頁
<b>(1) 学校・家庭・地域の連携と協働</b>			
73	★学校・家庭・地域の連携による事業の推進	子ども育成課	77
74	コミュニティ・スクールの充実	学校教育課	78
75	PTA活動の支援	学校教育課	79
76	地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」の推進	学校教育課	79
77	★子どもたちが安心して過ごせる地域づくりの推進	子ども育成課	80
78	余裕教室の活用	教育総務課	80
79	★新・放課後子ども総合プランの推進	子ども育成課	81
<b>(2) 家庭・地域の教育支援</b>			
80	★家庭教育学級の充実	子ども育成課	82
81	★子育て世帯に対する包括的な支援のための体制強化及び事業の拡充	子ども家庭課	82
82	★青少年相談の充実	子ども育成課	83
83	★世代間交流活動の支援	子ども政策課	84
84	★子どもの人権やいのちの大切さの啓発	人権共生推進課	84
85	★人権に関する研修や学習機会の充実	人権共生推進課	84
基本施策9 子どもと大人の「学び」が循環する関係づくり		担当課	掲載頁
<b>(1) 学習成果を活かす仕組みづくり</b>			
86	★子どもの育ちを支える社会教育施設等の活用	文化スポーツ課	86
87	★子どもの読書活動や調べ学習を支援できる人材育成の推進	文化スポーツ課	86
88	★三田の自然を学び、活用するジュニアスタッフの育成	文化スポーツ課	87
<b>(2) 多様な学習機会の創出</b>			
89	★「こうみん未来塾」の推進	子ども育成課	88
90	★地域の伝統文化の継承の推進	文化スポーツ課	88
91	★歴史資料を活用した体験学習の推進	文化スポーツ課	89
92	★有馬富士自然学習センターを活用した学校教育支援	文化スポーツ課	89
93	★図書館を通じた「学び」の支援の推進	文化スポーツ課	90
94	★総合文化センターでの文化芸術の普及・育成の推進	文化スポーツ課	91
基本施策10 学びを支える環境の整備		担当課	掲載頁
<b>(1) 学校の再編</b>			
95	小中学校再編の推進	学校再編課・学校教育課	92
<b>(2) 安全安心で充実した環境の整備</b>			
96	学校施設の整備・充実	教育総務課・幼児教育振興課	94
97	学校給食施設等の整備・充実	学校給食課	95
98	学校園安全体制の充実	教育総務課・危機管理課・幼児教育振興課	95
99	登下校時の安全確保	教育総務課・危機管理課・子ども育成課	96
100	ICT機器やデジタル教材の整備・充実	教育研修所	97

## 基本施策 1 「確かな学力」の育成

### (1) 子どもの可能性を拓く資質・能力の育成

子どもたちが、基礎的な知識・技能を習得するとともに、習得した知識・技能と既存の知識を組み合わせ、社会における様々な場面で主体的に判断し、他者と協働して課題を解決していくことができる力を育成します。各教科等の指導に当たっては、デジタル技術を効果的に活用しながら、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進します。

また、全国学力・学習状況調査の結果分析等を基に、各校の子どもたちの学びの実現状況を把握し、教職員の指導改善につなげることやアプリを活用した、個人のスタディ・ログ（学習履歴や学習評価、学習到達度）の蓄積や把握による個別最適な学びを支援するとともに、協働的な学びの実現を図ることにより、確かな学力を育みます。

#### 【主な取組】

1	<b>「学力向上指導改善プラン」の実践</b>		担当課	教育研修所	
目標値	全国学力・学習状況調査における平均正答率の全国との比較 (全国学力・学習状況調査)				
取組内容 基本計画 P【21頁】	全国学力・学習状況調査の調査結果や子どもの日々の学習や生活の状況に基づき、各学校が「学力向上指導改善プラン」を策定し、カリキュラム・マネジメントの充実と指導改善に向けた取組を実践する。				
全国学力・学習状況調査における平均正答率の全国との比較 (全国学力・学習状況調査)					
結果指標	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
小6国語	(+2P)	実施なし	(+1P)	(+5P)	(+3P)
小6算数	(+4P)		(+3P)	(+6P)	(+5P)
中3国語	(+6P)		(+3P)	(+5P)	(+6P)
中3数学	(+7P)		(+6P)	(+8P)	(+7P)
注記	三田市と全国との差を±で表記				
R5指導の 重点 【5頁】		種別	具体的取組【D1】		評価【C1】
	1	継続	学力向上事業(三田市学力向上推進委員会を設置し、全国学力・学習状況調査の結果概要作成とHP公開)		◎
	2	継続	各校における全国学力・学習状況調査の分析とそれに基づく学力向上指導改善プランの策定と実施		◎
	3	継続	カリキュラム・マネジメントの充実と指導改善に向けた研究推進担当者会の実施		○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容(成果)【D2】				
	1	全国学力・学習状況調査結果の分析で明らかとなった課題について整理し、「主体的・対話的で深い学び」のある授業の充実に向けた指導改善を進めた。			

	2	各校が全国学力・学習状況調査の分析とそれに基づく学力向上指導改善プランの策定を行い、それに基づいた授業改善に取り組んだ。
	3	研究推進担当者を集めた研修会を行い、カリキュラム・マネジメントを意識した教科横断的な学びの実践について理解を深めた。
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】	
改善策等 (R7 向)	課題についての対策（案）【A】	
		期待効果

2	授業改善の促進		担当課	教育研修所	
関連	5 7 市立幼稚園指定研究事業の推進（幼児教育振興課）				
取組内容 基本計画 P【21頁】	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図るとともに、各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら知識を相互に関連づけて理解するなどの学習を展開することで、新しい時代に必要な資質・能力を育成する。				
指定研究 校等	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	14校	12校	13校	12校	13校
R5 指導の 重点 【6頁】		種別	具体的取組【D1】		評価【C1】
	1	継続	ICT 機器を効果的に活用した主体的・対話的で深い学びにつながる授業の開発		△
	2	継続	探究的な学習の充実による問題発見・解決能力、情報活用能力の育成		△
	3	継続	「三田少年少女柿の実詩集」の作成や読書活動と関連付けた学習の充実などによる、全ての学習の基盤となる言語能力を育成		○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	3	くらしや自然・文化など感じたことを詩に表し、言葉で表現する楽しさを味わう取組を行い、言語能力の育成をめざした。			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】				
	1	授業における ICT 機器の活用は増えてきているが、効果的な活用等についてはさらに研究を深める必要がある。			
	2	総合的な学習の時間を活用しての探究活動が、充実したものとなっていない場面がみられる。			
改善策等 (R7 向)	課題についての対策（案）【A】				期待効果
	1	先進的な取組み事例を収集し、教科部会・担当者会等の授業研究会等で共有することで、各校での授業改善につなげる。			指定研究事業の質的改善
	2	思考ツールの活用など、探究活動を支える具体的な活動について情報交流ができる場を設定することで改善につなげる。			探究活動の充実

<b>3</b>	<b>個別最適な学びと協働的な学びの充実</b>	担当課	教育研修所		
取組内容 基本計画 P【21頁】	従前からの授業方法にデジタル技術を組み合わせ、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実し、児童生徒が自ら問いをもち、他者との対話を通し、課題解決に向かう学習の充実を図る。				
小学校3年生以上を対象とした「情報モラル教室」実施校					
情報モラル 教室実施	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	10 小学校	8 小学校	20 小学校	20 小学校	18 小学校
R5 指導の 重点 【6頁】	種別	具体的取組【D1】			評価【C1】
	1	新規	基盤的なツールとなる ICT を活用し、個々の特性等に あった学習の充実		○
	2	新規	オンライン、クラウド環境を利用して、共同編集や双 方向のやりとりをする学習活動の展開		○
	3	新規	自分のよさに気づくとともに、他者を価値のある存在 として尊重し、協働する学習活動の推進		○
特筆すべ き取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	1	デジタル教科書や情報交流ソフト等を活用しながら、主体的・対話的な授業を 構想し、個々の学びを広げていく授業の充実に向けた指導改善を進めた。			
	2	1人1台端末にインストールされているアプリケーションを活用し、共同編集 の授業の開発に取り組んでいる。			
	3	総合学習アプリを活用し、多様な意見を可視化して、自らの意見を捉えなおし たり、新たな考え方を知ったりする授業の展開を行っている。			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】				
改善策等 (R7 向)	課題についての対策（案）【A】				期待効果

<b>4</b>	<b>学力向上に向けた補充学習及び発展学習の充実</b>	担当課	教育研修所		
目標値	「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う」と答える子どもの割合（全国学力・学習状況調査）				
取組内容 基本計画 P【21頁】	朝の学習タイムやひょうごがんばり学びタイム等の実施により、兵庫型学習システム推進教員や地域人材等を活用し、補充学習及び発展学習の充実を図る。また、授業におけるデジタル技術活用を推進し、一人一人の興味関心や学習状況に応じて、主体的に学習を進め、個別最適な学びを充実する。				
ひょうごがんばり学びタイム実施校数					
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
小学校	15 校	15 校	17 校	17 校	18 校
中学校	8 校	8 校	8 校	8 校	7 校
実施時間	2,125 時間	1,992 時間	2,364.5 時間	1,891.5 時間	1,523.5 時間
延参加者	9,071 人	12,050 人	14,778 人	11,821 人	7,473 人

R5 指導の 重点 【6 頁】		種別	具体的取組【D1】	評価【C1】
	1	継続	学力向上に向けた補充学習及び発展学習の充実	○
	2	継続	がんばり学びタイムの実施	○
	3	継続	学習アプリを活用した個々の学習の習熟度に応じた課題の実施	○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】			
	1	同室複数指導等、授業形態の多様化とグループ学習の支援活動が進められた。		
	2	地域人材を活用した、個別最適な学習の充実させている。		
課題等	3	AI機能が搭載されたデジタルドリルを活用することで、習熟度に応じた課題を出題され、個々の学習に応じた取組を進めている。		
	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】			
改善策等 (R7 向)	課題についての対策（案）【A】			期待効果

5	「ひとり学びへの手引き」の活用	担当課	教育研修所		
目標値	「家で自分で計画を立てて勉強している」と答える子どもの割合 (全国学力・学習状況調査)				
取組内容 基本計画 P【21 頁】	「ひとり学びへの手引き」等を活用し、小学校6年生時に身に付けておくべき「学び方」について、段階を踏みながら育成を図る。また、デジタル技術を含め、学びに必要な学習方法を子どもたちが主体的に選択し、自分らしい学び方を模索する資質・能力を養う。				
「家で自分で計画を立てて勉強している」と答える子どもの割合（全国学力・学習状況調査）					
経年経過	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
小6	74.9%	実施なし	71.2%	66.5%	69.0%
中3	55.6%		73.0%	65.5%	65.0%
R5 指導の 重点 【6 頁】		種別	具体的取組【D1】	評価【C1】	
	1	継続	「ひとり学びへの手引き」の活用（全5年生へ冊子配布・中学校にも数冊配布、児童生徒 iPad や職員幼 iPad で閲覧、家庭学習や授業で活用）	○	
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	1	内容を共有ドライブに記載し全児童生徒や教職員が閲覧できるようにした。次年度に向けて「社会」「理科」「算数」が改訂を行った。			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】				
改善策等 (R7 向)	課題についての対策（案）【A】			期待効果	

<b>6</b>	<b>理科教育の推進</b>		担当課	教育研修所	
目標値	「理科が好き」と答える子どもの割合（全国学力・学習状況調査）				
取組内容 基本計画 P【21頁】	問題解決の力を養うため、観察・実験、ものづくり等の体験的な学習活動を充実する。有馬富士自然学習センターや人と自然の博物館と連携し、教職員の理科教育に対する指導力向上を図るとともに、子どもが科学の素晴らしさや楽しさを体験する機会を充実する。				
「理科が好き」と答える子どもの割合（全国学力・学習状況調査）					
経年経過	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
小6	設問なし	実施なし	設問なし	81.7%	設問なし
中3				64.9%	
R5指導の 重点 【6頁】		種別	具体的取組【D1】		評価【C1】
	1	継続	こうみん未来塾（さんだサイエンスフェスティバルに三田市立学校小・中学校理科・生活科作品展における優秀作品の出展）		○
	2	継続	三田市小・中学校理科・生活科作品奨励事業		○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	1	市内小学生のうち優秀作品作成者が子どもブースプロジェクトに参加した。			
	2	子どもたちの理科に対する興味関心を高め、自然事象に対して意欲的に目を向けていく姿勢や科学研究心の向上を図った。			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】				
改善策等 (R7向)	課題についての対策（案）【A】				期待効果

<b>7</b>	<b>読書活動の推進</b>		担当課	教育研修所・文化スポーツ課	
取組内容 基本計画 P【21頁】	「さんだっ子読書通帳」や「さんだ子ども読書の日（毎月23日）」の取組を推進するとともに、学校司書と教職員が連携し、学校図書館の活用を推進する。また、市立図書館と連携した取組を進めるとともに、ブックトークやビブリオバトルを通して、子どもの豊かな読書活動を充実する。				
学校図書館で100冊以上本を借りた児童生徒数（「読書賞」受賞者数）					
経年経過	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	337人	387人	700人	784人	1,092人
「読書が好き」と答える子どもの割合（全国学力・学習状況調査）					
経年経過	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
小6	77.0%	実施なし	設問なし	74.8%	73.3%
中3	70.0%			67.8%	67.2%
R5指導の 重点 【7頁】		種別	具体的取組【D1】		評価【C1】
	1	継続	「さんだ子ども読書の日（毎月23日）」の推進		○
	2	継続	さんだっ子読書通帳の配布と活用		△

	3	継続	三田市子どもの読書活動推進計画（第3次）の実施	○
	4	継続	学校司書配置事業（専門的な知識・経験を有する学校司書配置〔小学校20校10名配置〕）	△
	5	新規	三田子どもの読書活動推進計画（第4次）作成	◎
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】			
	1	毎月23日は、家庭学習に読書活動を継続して取り組んだ。		
	3	学校司書や担任の連携により目的に応じた図書館利用と読書活動に取り組んだ。		
	5	委員会を設置し「三田子どもの読書活動推進計画」（第4次）の作成に取り組んだ。		
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】			
	2	発達段階に応じた効果的な読書通帳のありかたの検討		
	4	学校司書の育成とスキルの向上		
改善策等 (R7 向)	課題についての対策（案）【A】			期待効果
	2	紙媒体の通帳に加え、アプリの併用を試行する		読書好きの児童・生徒の増加
	4	学校司書の資質向上を目指した研修の実施		読書好きの児童・生徒の増加

## (2) 育ちと学びをつなぐ教育

保幼・小・中の期間を見通し、幼児期の教育と小学校教育、さらには中学校教育の円滑な接続が図れるよう子どもの育ちと学びの連続性を重視した教育を進めます。

特に、小学校入学当初においては幼児期に遊びを通して育まれてきたことが、各教科等における学習に円滑に接続されるよう生活科を中心に合科的・関連的な指導や弾力的な時間割を設定するなど、指導の工夫や指導計画を工夫します。

### 【主な取組】

<b>8</b>	<b>小学校高学年における専科指導・教科担任制の推進</b>		担当課	教育研修所	
取組内容 基本計画 P【22頁】	教職員の専門性を活かした学力向上、多面的な児童理解や開かれた学級づくり、中学校への円滑な持続等、個に応じた多様な教育を推進するため、小学校高学年における専科指導・教科担任制に取り組む。				
優先教科における専科・教科担任制導入状況【人】					
科目	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
算数	—	—	—	3	3
理科	—	—	—	9	11
体育	—	—	—	0	0
外国語	2	3	4	6	8
合計	2	3	4	18	22
R5 指導の 重点 【7頁】	種別	具体的取組【D1】			評価【C1】
	1	継続	兵庫型学習システムの教科担任加配の配置による専門性の高い教科学習と指導体制の実施の推進		○
	2	継続	学級担任の交換授業等を組み合わせ、国が指定した教科担任制の優先教科（算数・理科・体育・外国語）の指導の充実		○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	1	該当教科の免許状保有者や指導経験が一定年数以上ある専門性の高い教員による授業が行われている。			
	2	学級担任の交換授業等により他の学級の児童に積極的に関わることで、多面的な児童理解につながっている。			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】				
改善策等 (R7 向)	課題についての対策（案）【A】			期待効果	

<b>9</b>	<b>小中一貫した教育の推進</b>	担当課	学校教育課
取組内容 基本計画	各中学校区において、学校・家庭・地域がめざす子ども像を共有するとともに、校区内の学校間で学習方法等を共有し、指導の一貫性、系統性、連続性を図り、		

P【22頁】	小学校卒業から中学校入学に向けて円滑な接続を図る。 さらに、義務教育9年間にわたる長期的な視点に立って、児童生徒の資質能力を育成するとともに、児童生徒の学習上のつまずきや生活上の課題に対してきめ細かな指導を行うための教育課程編成に関する研究を進める。			
R5 指導の 重点 【7頁】		種別	具体的取組【D1】	評価【C1】
	1	継続	小中合同の授業研究、研修会の実施等による「指導の一貫性」、「学びの連続性」の実現に向けた各中学校区での連携の推進	○
	2	新規	小中一貫カリキュラム等を活用した教育課程編成に関する研究	○
	3	継続	小学校高学年における専科指導・教科担任制の推進	○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】			
	1	各中学校区においてめざす子ども像を設定し、校区の推進計画に基づいた取組を推進した。		
	2	小学校には中学校、中学校には小学校の使用教科書を各学校に配付し、カリキュラムの研究に取り組めるようにした。担当者研修会を実施し、「小中一貫教育の9年間を見通したカリキュラムマネジメント」と題した講演会を実施するとともに、中学校区での取組について交流し、次年度に向けた取組について話し合うことができた。事後アンケートにおいて、参加者の多くが「理解できた」と回答。小中一貫したカリキュラム編成に関する研究を推進した。		
3	兵庫型学習システムを活用し、積極的な専科指導や教科担任制の導入を推進した。			
課題等	上記具体的施策に関する主な課題（主な原因）【C2】			
改善策等 (R7 向)	課題についての対策（案）【A】			期待効果

10	<b>学校園所接続の推進</b>	担当課	学校教育課・幼児教育振興課・保育振興課	
取組内容 基本計画 P【22頁】	各中学校区で保育・授業参観、連絡会等の開催、出前授業や合同授業等を通して、情報交換や子どもの育ちと学びを教職員どうしが理解共有するなど、子どもの連続した育ちと学びを支援できるよう学校園所間の接続を図る。			
R5 指導の 重点 【8頁】		種別	具体的取組【D1】	評価【C1】
	1	継続	学校園所の連携の推進	○
	2	継続	学校園所連携推進に係る「中学校区連絡会」や研修会の開催	○
	3	新規	県事業「令和5年度幼児期と児童期の円滑な接続推進事業」の実施	○
4	継続	「さんだっ子がやきカリキュラム～保幼・小接続編～」（三田市教育委員会）の活用		○

特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】	
	1	計画的な学校園所の連携を推進した。
	2	各中学校区に「中学校区連絡会」を開催し、学校園所連携を推進した。各中学校区に成果と課題を明らかにすることができた。
	3	県事業「令和5年度幼児期と児童期の円滑な接続推進事業」において、三輪幼稚園と三輪小学校で連携・協働して幼児期と児童期の接続の推進に取り組み、三輪幼稚園で開催された「令和5年度幼児期と児童期の円滑な接続推進研修会」に各校の担当者が参加し、幼児期から児童期の接続についての理解を深めるとともに、その内容を市内に啓発できた。
	4	「さんだっ子かがやきカリキュラム～保幼・小接続編～」(三田市教育委員会)の積極的な活用を啓発した。
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】	
改善策等 (R7 向)	課題についての対策（案）【A】	期待効果

### 【指標】基本施策1 「確かな学力」の育成

指 標	実績 (令和5年度)	目標 (令和8年度)	進捗 状況
全国学力・学習状況調査における平均正答率の全国との比較 (全国学力・学習状況調査)	(小6) 国語 +3 算数 +5 (中3) 国語 +6 数学 +7	すべての教科において、+6ポイント以上	○
「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う」と答える子どもの割合 (全国学力・学習状況調査)	(小6) 82.7% (中3) 80.3%	(小6) 83.0% (中3) 82.0%	△
「家で自分で計画を立てて勉強をしている」と答える子どもの割合 (全国学力・学習状況調査)	(小6) 69.0% (中3) 65.0%	(小6) 77.0% (中3) 79.0%	×
「理科が好き」と答える子どもの割合 (全国学力・学習状況調査)	(小6) 実施なし (中3) 実施なし	(小6) 92.0% (中3) 65.0%	—

※進捗状況 「◎」目標を達成(100%以上)、「○」目標に向け順調に進捗している(目標進捗率90%以上100%未満)、  
「△」目標に向け概ね順調に進捗している(目標進捗率70%以上90%未満)、「▼」目標に向け順調に進捗していない(目標進捗率70%未満)、「×」令和3年度実績を下回っている、「—」調査対象外

## 基本施策 2 「豊かな心」の育成

### (1) 道徳性を育む教育

子どもたちの規範意識、自尊感情、主体的に判断し適切に行動する力を育むため、家庭・地域と連携した道徳教育を推進します。

#### 【主な取組】

1 1	道徳科を要とした道徳教育の推進		担当課	教育研修所	
目標値	「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思う」と答える子どもの割合（全国学力・学習状況調査）				
取組内容 基本計画 P【26頁】	道徳教育推進教師を中心に、全教育活動における道徳教育の推進と、その要となる道徳科における教職員の授業力の向上を図るとともに、「兵庫県版道徳教育副読本」等を活用するなど、授業の充実を図る。				
「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思う」と答える子どもの割合（全国学力・学習状況調査）					
経年経過	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
小6	新規指標		78.7%	73.6%	79.2%
中3			84.3%	78.0%	87.2%
道徳教育推進教職員を対象とした道徳教育研修会受講者数					
経年経過	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	38人	30人	34人	28人	30人
R5 指導の 重点 【9頁】		種別	具体的取組【D1】		評価【C1】
	1	継続	主たる教材である教科書に併せ、兵庫県版道徳教育副読本や地域教材等、子どもたちに適した教材の活用		○
	2	継続	県事業「令和5年度 道徳教育実践研究事業」（八景中学校区）の実施		◎
	3	継続	市指定研究事業「特別指定（特別の教科「道徳」）」の実施		○
	4	継続	カリキュラムセンターの活用		△
	5	継続	道徳教育推進教師研修会の開催		○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	1	全小中学校において、教科書に併せて、兵庫県版道徳教育副読本を年間計画に位置付け活用した。			
	2	八景中学校区内の学校園所合同研修会を実施し、学校園所連携及び小中一貫の教育課程の検討を行うとともに、道徳教育の充実を図った。			
	3	三田小学校・三輪小学校の研究発表会には、市内小学校の教師が参加し、研究成果を共有した。			
	5	兵庫教育大学谷田教授に講演・演習を依頼し、道徳教育研修会を開催した。各			

		学校の道徳教育推進教師と希望する教員が参加し、道徳科の授業を構築する力量を高め、その専門性を養うことで、道徳教育の更なる充実を図った。	
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】		
	4	カリキュラムセンターの活用が少なかった。	
改善策等 (R7 向)	課題についての対策（案）【A】		期待効果
	4	カリキュラムセンターとしての機能を整理し、利便性向上を図る。	活用の増加 研究の推進

1 2	<b>家庭や地域と連携した道徳教育の推進</b>	担当課	教育研修所		
取組内容 基本計画 P【26 頁】	授業参観やオープンスクールなどの機会を捉え、道徳科の授業を公開し、学校における道徳教育について家庭や地域の理解を得るとともに、積極的な連携を図る。				
道徳科の授業公開実施校数					
経年経過	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
小学校	20 校	10 校	10 校	20 校	20 校
中学校	8 校	1 校	2 校	2 校	7 校
R4 指導の 重点 【9 頁】	種別	具体的取組【D1】		評価【C1】	
	1	継続	授業参観やオープンスクール等による道徳科の授業公開	○	
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	1	ほとんどの小中学校で道徳科の授業を授業参観日やオープンスクールなどで公開し、道徳教育について家庭や地域との連携を図った。			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】				
改善策等 (R7 向)	課題についての対策（案）【A】				期待効果

## (2)「共生」の心を育む教育

人権に関する理解と人権感覚の涵養を基盤に自他の人権を守り、人権課題の主体的解決に向けた教育の推進に取り組みます。

国籍や民族の違いを認め合い、共によりよく生きようとする心情や態度を育成するための学習や交流機会の充実を図ります。

### 【主な取組】

13	人権教育の充実		担当課	学校教育課	
目標値	「いじめを受けたり、嫌なことがあったりした時相談しない」と答える子どもの割合（「いじめに関する生活アンケート」調査）				
取組内容 基本計画 P【27頁】	「三田市人権を尊重し多様性を認め合う共生社会を目指す条例」を踏まえ、教育活動全体を通して、学校・家庭・地域と連携しながら人権教育を推進するとともに、人権意識の高揚や指導力向上につながる教職員研修を実施する。				
人権教育担当者研修会受講者数					
経年経過	令和元年度		令和2年度		令和3年度
	62人		53人		64人
R5 指導の 重点 【10頁】	種別	具体的取組【D1】			評価【C1】
	1	継続	人権教育の充実		○
	2	継続	人権教育担当教員等研修会の開催		○
	3	継続	児童生徒支援教員の配置（県事業）		○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	1	各校における計画的な人権教育を推進した。			
	2	人権教育担当教員を対象に部落差別問題を取り上げた研修を行い、部落差別の現状、及び教職員が当事者意識を持つことの大切さを再確認した。			
	3	配置校において、児童生徒支援教員を中心に、支援が必要な児童生徒に対して個別の指導や相談・家庭訪問等を行い、支援の充実を図った。			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】				
改善策等 (R7向)	課題についての対策（案）【A】				期待効果

14	福祉教育の推進		担当課	学校教育課	
目標値	「人が困っているときは、進んで助けている」と答える子どもの割合（全国学力・学習状況調査）				
取組内容 基本計画 P【28頁】	高齢者や障害のある人等を含むすべての人々が、地域の中で、自分らしく生活できる環境づくりの大切さを学ぶことができるよう障害者差別解消法や三田市みんなの手話言語条例、三田市障害者共生条例等の趣旨を踏まえ、体験等を交えながら福祉教育を推進する。				

R4 指導の 重点 【10 頁】		種別	具体的取組【D1】	評価【C1】
	1	継続	手話学習の推進	○
	2	継続	体験活動の実施	○
	3	継続	社会福祉協議会等との連携による福祉教育の推進	○
特筆すべ き取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】			
	1	各学校の実情に応じて、総合的な学習の時間等を通して手話学習を実施できた。		
	2	アイマスク体験等、コロナ禍で実施できなかった学習内容においても令和 5 年度においては実施することができた。		
課題等	3	社会福祉協議会と連携し、体験活動や講演会を実施し、ゲストティーチャーを招いた学習等に取り組むことができた。		
	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】			
改善策等 (R7 向)	課題についての対策（案）【A】			期待効果

1 5	多文化共生教育の充実		担当課	学校教育課	
目標値	「自分には、よいところがあると思う」と答える子どもの割合（全国学力・学習状況調査）				
取組内容 基本計画 P【28 頁】	すべての子どもが、国籍や民族の「違い」を認め合い、多様な文化や価値観を受容・尊重して、共に生きようとする意欲や態度を育てる。				
外国人等をゲストティーチャーとして招いた授業実践校					
	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
小学校	6 校	3 校	3 校	4 校	8 校
中学校			2 校	1 校	3 校
R5 指導の 重点 【10 頁】		種別	具体的取組【D1】	評価【C1】	
	1	継続	国際理解教育担当者会の開催	○	
	2	継続	多文化 WAIWAI 親子デイキャンプの開催	○	
	3	継続	三田市在住外国人教育推進委員会の開催	○	
特筆すべ き取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	1	国際理解教育担当者及び希望者を対象に研修会を実施し、3 1 人が研修会に参加。外国にルーツがある児童生徒が抱える悩み等への理解に基づいた支援に講師の方に講演いただき、支援について理解を深めることができた。			
	2	三田市研究グループ国際理解教育部会と連携し、多文化 WAIWAI 親子デイキャンプを開催し、外国人児童生徒等や保護者同士の交流を深めることができた。			
	3	三田市在住外国人教育基本方針改訂に向けて、計 3 回推進委員会を開催し、方向性を定める事ができた。			

課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】	
改善策等 (R7 向)	課題についての対策（案）【A】	期待効果

<b>16</b>	<b>帰国・外国人児童生徒への支援</b>	担当課	学校教育課		
取組内容 基本計画 P【28頁】	県の子ども多文化共生サポーターや市の外国人語学指導員の配置により、外国人児童生徒等への母語による学習支援や心のケア、日本語指導を充実させ、自己実現を支援する。				
多文化共生サポーター（県費）の派遣状況					
経年経過	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
小学校	190回（3校）	4回（1校）	31回（1校）	112回（4校）	116回（3校）
中学校	16回（1校）	27回（1校）	37回（1校）	36回（1校）	20回（2校）
外国人語学指導員（市費）の派遣状況					
経年経過	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
小学校	68回（2校）	88回（3校）	91回（4校）	90回（3校）	95回（4校）
中学校	22回（1校）	16回（2校）	55回（3校）	54回（4校）	45回（2校）
R5 指導の 重点 【10頁】		種別	具体的取組【D1】		評価【C1】
	1	継続	帰国・外国人児童生徒への支援		△
	2	継続	国際理解教育推進事業		○
	3	継続	子ども多文化共生サポーターの活用（県事業）		○
	4	継続	三田市外国人語学指導員の派遣		○
	5	継続	ボランティアティーチャーの派遣		—
	6	継続	在日外国人学校就学補助金		—
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	1	帰国・来日した外国人児童生徒等に個に応じた日本語指導の充実に努めるとともに、それぞれのルーツを尊重した取組を進めることができた。一方で、各校においては、個別に日本語指導を進める教員や指導員等の人材確保が大きな課題となっている。			
	2	民族楽器、民族衣装、民族玩具等の貸し出し等を通して、多文化との豊かな出会いの機会の創出を推進した。			
	3	来日間もない外国人児童生徒の母語支援員確保のため、兵庫県と速やかに連携し、支援員を配置することができた。			
	4	子ども多文化共生サポーター（県事業）から三田市外国人語学指導員（市事業）の接続を確実なものにするため、三田市外国人語学指導員の報償費の見直しを行った。また、児童生徒の実態に応じて、派遣回数を拡充した。			
	5	令和5年度は実施希望なし。			
	6	令和5年度は実施希望なし。			

課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】	
改善策等 (R7 向)	課題についての対策（案）【A】	期待効果

### 【指標】基本施策2 「豊かな心」の育成

指 標	実績 (令和5年度)	目標 (令和8年度)	進捗 状況
「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思う」と答える子どもの割合 (全国学力・学習状況調査)	(小6) 79.2% (中3) 87.2%	(小6) 85.0% (中3) 87.0%	△
「人が困っているときは、進んで助けている」と答える子どもの割合 (全国学力・学習状況調査)	(小6) 92.8% (中3) 91.4%	(小6) 92.0% (中3) 90.0%	◎
「自分には、よいところがあると思う」と答える子どもの割合 (全国学力・学習状況調査)	(小6) 85.8% (中3) 81.7%	(小6) 90.0% (中3) 85.0%	○
「いじめを受けたり、嫌なことがあったりした時相談しない」と答える子どもの割合 (「いじめに関する生活アンケート」調査)	(小6) 10.6% (中3) 11.3%	(小6) 0% (中3) 0%	×

※進捗状況 「◎」目標を達成(100%以上)、「○」目標に向け順調に進捗している(目標進捗率90%以上100%未満)、  
「△」目標に向け概ね順調に進捗している(目標進捗率70%以上90%未満)、「▼」目標に向け順調に進捗して  
いない(目標進捗率70%未満)、「×」令和3年度実績を下回っている、「-」調査対象外

## 基本施策 3 「健やかな体」の育成

### (1) 体力・運動能力の向上

生涯にわたり、心身共に健康で活力ある生活を送るために、体育の授業の充実を図るとともに、学校生活全般において、児童生徒の体力や運動能力の向上に向けた取組をお行います。

また、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果等を踏まえ、子どもの体力・運動能力の向上に向けた取組とともに、学校と連携した地域スポーツ活動を支援します。

子どもたちがスポーツを通じて、夢や希望をもてるよう仲間づくりや交流の機会の充実のほか、プロスポーツ、全国レベルの大会など、トップレベルのアスリートにふれることでスポーツ・運動に関心の高い子どもを育てます。

#### 【主な取組】

17	<b>★市立幼稚園における「しなやかな体と心づくり」の推進</b>			担当課	幼児教育振興課
取組内容 基本計画 P【31頁】	芝生園庭や「わくわく体操」を基盤に、友だちと一緒に取り組む中で、多様な体の動きを習得するとともに、自分なりの目標をもって取り組もうとする意欲を高め、達成感を味わうなど、「しなやかな体と心」を育む。				
「わくわく体操」実施状況					
経年経過	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	10園	10園	10園	10園	9園(1園休園)
芝生園庭の状況					
経年経過	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	10園	10園	10園	10園	10園
R5 指導の 重点 【11頁】		種別	具体的取組【D1】		評価【C1】
	1	継続	「幼児期運動指針ガイドブック」の活用		○
	2	継続	市立幼稚園における「わくわく体操」の推進		◎
	3	継続	芝生園庭を活用した運動遊びの充実		○
	4	継続	幼児の心の軸・体の軸をしなやかに育てる保育の創造		○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容(成果)【D2】				
	1	幼児期に必要な動き経験を認識し、活動に取り入れることができた。			
	2	継続的な取り組みの工夫により、多様な体の動きの習得につながっている。			
	3	裸足で思い切り遊ぶことで、たくましい体づくりや土踏まず形成につながっている。(冬場を除く)			
	4	幼児の心と体の育ちを意識し、学びに向かう力の育ちにつながった。			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題(主な原因)【C2】				
改善策等	課題についての対策(案)【A】				期待効果

(R7 向)					
18	体力向上の取組の推進		担当課	教育研修所	
目標値	「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の肯定的回答の割合（全国体力・運動能力、運動習慣等調査）				
取組内容 基本計画 P【31頁】	「さんだっ子元気アッププログラム」の取組を推進するとともに、小学校の体育授業時に専門性に優れたサポーターを派遣し、体力・運動能力の向上をめざす。また、体育授業だけでなく、「キッピー体操」など、日常生活における体力向上の取組を推進する。				
「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の肯定的回答の割合（全国体力・運動能力、運動習慣等調査）					
経年経過	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
小5	92.0%	実施なし	88.6%	94.1%	87.5%
中2	85.0%		83.0%	85.6%	83.9%
R5 指導の 重点 【11頁】		種別	具体的取組【D1】		評価【C1】
	1	継続	全国体力・運動能力、運動習慣等調査の実施（文部科学省）及び分析		○
	2	継続	中学校体力向上推進事業「さんだっ子元気アップサポーター派遣」（中学校2校、1回4時間×3回）		△
	3	新規	小学校体力育成事業「体力・運動能力サポーター派遣事業」（小学校20校：児童対象1日4時間×3回、職員対象1日4時間×1回）		◎
	4	新規	水泳モデル事業「水泳授業民間施設利用委託モデル事業」水泳授業を近隣のスポーツ施設で行い、専門指導員から泳法を学ぶ（1校）		◎
	5	継続	体力アップサポーターの活用（県事業）		◎
	6	継続	キッピー体操の実施		△
	7	継続	キッピー体操動画をタブレット端末にて、視聴できるようにアイコンを常駐		◎
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	1	体力・運動能力等の実態把握に努めるとともに、各校において体育授業の改善にデータを活用している。			
	3	小学校全校に対して、運動の専門指導員を派遣し、児童が質の高い技術指導を受ける機会を設けた。			
	4	水泳授業民間施設利用委託モデル事業の実施し、民間屋内プールと指導員のいる環境での水泳授業の効果検証を行った。			
	5	運動の専門指導員を派遣し、児童が質の高い技術指導を受ける機会を設けた。			
	7	いつでも、どこでも児童生徒が自らできる環境をつくっている。			
上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】					

課題等	2	外部指導員と連携した授業実施を進める。	
	6	積極的な活用を促す。	
改善策等 (R7 向)	課題についての対策 (案) 【A】		期待効果
	2	小学校におけるサポーター派遣の効果等も周知し、積極的な活用を進める。	生徒の運動能力の向上
	6	1人1台端末にインストールしていることを再周知し、活用を促す。	運動能力の向上

19	<b>★レベルの高い競技会等の開催と交流の機会づくり</b>		担当課	文化スポーツ課	
取組内容 基本計画 P【31頁】	トップアスリート等とふれ合う機会を設け、子どもたちに「夢や希望」をもってスポーツに取り組む意欲の向上を図るスポーツ「夢」プロジェクトを進める。				
トップアスリートとの交流やプロスポーツ大会の観戦等児童・生徒数					
経年経過	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	2回	1回	0回	1回	2回
R5 指導の 重点 【12頁】	種別	具体的取組【D1】			評価【C1】
	1	継続	スポーツ「夢」プロジェクト等の推進（トップアスリートとの交流やプロのスポーツ大会を間近で見ることなどスポーツを通して子どもたちに夢や感動を与える。）		○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	1	感染症の落ち着きもあり、3年ぶりに実施することができた。			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】				
改善策等 (R7 向)	課題についての対策 (案) 【A】		期待効果		

20	<b>★スポーツを通じたコミュニケーションの機会づくり</b>		担当課	文化スポーツ課	
取組内容 基本計画 P【31頁】	「三田市スポーツ推進基本計画」に基づき、地域のスポーツ団体を通じて、仲間づくりや子どもの健康・体力づくり、競技者の育成等を進めるとともに、地域のスポーツ活動での部活動の補完や連携を進め地域スポーツの推進に取り組む。				
R5 指導の 重点 【12頁】	種別	具体的取組【D1】			評価【C1】
	1	継続	スポーツクラブ 21 の支援（地域スポーツクラブ活動の支援と連携強化を図るなど、子どもから高齢者まで地域住民同士の多世代交流により取り組む。）		○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	1	今後のクラブ間連携強化などを推進するためミーティングを実施。			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】				

改善策等 (R7 向)	課題についての対策 (案) 【A】	期待効果

21	★地域スポーツ活動を通じたまちづくり		担当課	文化スポーツ課	
取組内容 基本計画 P【31 頁】	子どもの体力向上やスポーツに親しむ機会につなげるため、各種スポーツ教室や体験講座等に関する情報提供を一層推進し、参加者の増加を図る。				
スポーツ教室の実施状況					
経年経過	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
教室数	11 種目	5 種目	4 種目	5 種目	6 種目
R5 指導の 重点 【12 頁】	種別	具体的取組 【D1】			評価 【C1】
	1 継続	スポーツ教室等の開催（市民スポーツ教室の実施など子どもを対象としたスポーツに親しむ機会の充実）			○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	1	感染症の落ち着きもあり、少しずつ教室が再開され、参加者も増加傾向。			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】				
改善策等 (R7 向)	課題についての対策 (案) 【A】			期待効果	

## (2) 食育・健康教育

子どもたちが食事の大切さ、喜び、楽しさを知ること、心身の成長や健康の保持増進を図るとともに、食に関する正しい知識の習得と望ましい食習慣の形成につながるよう学校・家庭・地域と連携しながら、様々な食育の取組を推進します。

また、食べ残しなどの問題や食が多くの人に支えられていることを通して、食から環境を考えることは、食に関心をもち、食に対する感謝や食文化等を含めた食の大切さを知る機会となります。健全な食生活を実践することができるよう家庭や地域、関係機関と連携を図りながら、食育や学校給食（地産地消）を通じた心身の健康の保持増進を推進します。

新型コロナウイルス感染症の対応経験を踏まえ、未知のウイルスについても想定し、感染症予防のための指導やアレルギー疾患への対応について、引き続き研修や対応マニュアルを充実するとともに、教職員のアレルギー知識の周知、学校園所での感染症対策の向上、徹底を図ります。さらに、家庭・地域と連携した学校保健活動を推進し、生涯にわたる健康の基礎を培う健康教育の充実を推進します。

### 【主な取組】

22	<b>食育の推進</b>		担当課		学校教育課・ 学校給食課
目標値	「朝食を毎日食べている」と答える子どもの割合（全国学力・学習状況調査）				
取組内容 基本計画 P【32頁】	「三田市の学校・園における食育推進計画」に基づき、学校・園における食育を体系的に推進する。また、三田の食の魅力を発見し、食に対する関心を高めるため、「食べチャオさんだ！」を合言葉に郷の恵みへの感謝の心や望ましい食習慣等、食を通じた健やかな体の育成を図る。				
「朝食を毎日食べている」と答える子どもの割合（全国学力・学習状況調査）					
経年経過	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
小6	96.7%	実施なし	96.9%	96.5%	95.8%
中3	92.4%		93.5%	92.6%	93.7%
R5 指導の 重点 【13頁】	種別	具体的取組【D1】			評価【C1】
	1	新規	三田市の学校・園における食育推進計画(R6～)の策定		○
	2	継続	給食時間の食育指導の実施		○
	3	継続	食に関する作品の募集		○
	4	継続	食育イベント（食育展示等）の実施		○
	5	継続	給食センター見学会の開催		○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	1	令和6年4月に三田市の学校・園における食育推進計画(R6～)を策定した。			
	2	食事のマナーや食事の好き嫌い等日常の食生活についても指導			

	3	展示期間の延長と展示場所の増設	
	4	展示期間の延長と展示場所の増設	
	5	幼稚園、特別支援学校からの見学も受入	
	6	PTA 試食会を積極的に受入	
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】		
改善策等 (R7 向)	課題についての対策（案）【A】		期待効果

<b>2 3</b>	<b>地産地消の推進</b>	担当課	学校給食課		
目標値	地場野菜使用率				
取組内容 基本計画 P【32 頁】	市内の農産物や食文化への関心を高めるため、JA 学校給食部会の協力のもと、三田の特産品や地場野菜を学校給食に積極的に取り入れ、地産地消を推進する。				
<b>地場野菜使用率</b>					
経年経過	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
	31.4%	31.3%	31.3%	28.6%	20.4%
R5 指導の 重点 【13 頁】		種別	具体的取組【D1】		評価【C1】
	1	継続	地場野菜、母子茶など特産品を使ったふるさと給食の実施		△
	2	継続	三田米を使った給食（週 4 回）の実施		○
	3	継続	献立表や食育教材を活用した、子どもの地元食材への理解促進		○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	2	地元産米どんとこいの学校給食への恒常的な導入			
	3	栄養教諭によるきめ細やかな食育指導			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】				
改善策等 (R7 向)	1	天候不順により地場野菜の納品が困難な時期があった。また、三田肉など単価の高い特産品は予算上対応が難しく、活用が進んでいない。			
	課題についての対策（案）【A】		期待効果		
1	三田の特産品を用いた加工品（枝豆コロッケ等）の開発・導入を促進する。			特産品の活用促進	

<b>2 4</b>	<b>学校給食の安全・安心の確保</b>	担当課	学校給食課		
取組内容 基本計画 P【33 頁】	国の定めた「学校給食衛生管理マニュアル」や本市の「学校給食異物混入対応マニュアル」、「学校給食における食物アレルギー対応の手引き」等に基づき、食材の購入から調理、給食の提供に至る各工程において、施設・人の衛生面を含め、学校給食の安全管理を推進する。				
「食の安全に関する研修」の実施状況					

経年経過	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	実施	実施			
R5 指導の 重点 【13 頁】	種別	具体的取組【D1】			評価【C1】
	1	継続	食の安全に関する研修の実施		△
	2	継続	子どもたちへの適切なアレルギー対応		○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	2	アレルギーこんだて表の作成・配布			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】				
	1	学校園・保護者と連携した対応が必要			
改善策等 (R7 向)	課題についての対策（案）【A】				期待効果
	1	アレルギーこんだて表の改訂により、よりきめ細やかな安全管理を推進する			安全管理の推進

<b>25</b>	<b>学校給食の異物混入未然防止</b>	担当課	学校給食課		
取組内容 基本計画 P【33 頁】	給食センターをはじめ、食材の納入や米飯・パンの調理提供等に携わる事業者と異物混入などの事案や改善策などの情報を共有し、食中毒や異物混入等の事故の未然防止を図る。				
「委託工場等への定期・不定期査察」の実施状況					
経年経過	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	6回	4回	4回	3回	3回
異物混入等事案発生件数					
経年経過	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	20件	30件	24件	17件	19件
食中毒発生件数					
経年経過	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	0件	0件	0件	0件	0件
R5 指導の 重点 【13 頁】	種別	具体的取組【D1】			評価【C1】
	1	継続	事前ミーティングによる作業手順の確認の徹底		○
	2	継続	健康状態、衛生面、作業工程等の点検票による記録、確認		○
	3	継続	委託工場等への定期、不定期の査察と混入防止策、衛生環境の改善、強化依頼		○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	1	過去のヒヤリハット事案や異物混入報告事案から、食材の納品検収時に調理過程等での細やかな点検による異物や納品不良の事例を集積し、納品業者への指導・注意喚起を行ない異物混入の未然防止に努めている。			
	2	勤務開始時には日々個人ごとの健康状態の記録及び手指チェックし、日頃より手洗いの励行に心がけを持つように指導を行っている。			
	3	異物事例が続く場合は事業所の査察を臨時でも行い、不良箇所の見落としがな			

	いか再度確認し指導を行っている。
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】
改善策等 (R7 向)	課題についての対策（案）【A】
	期待効果

<b>26</b>	<b>感染症予防のための能力・態度の育成</b>	担当課	学校教育課
取組内容 基本計画 P【33頁】	新型コロナウイルス感染症については、「学校における新型コロナウイルス感染症予防について」を随時見直し、感染拡大防止を図るとともに、インフルエンザ、風疹、麻疹等の感染症に対しての正しい知識と理解をもとに、予防する能力や態度の育成を図る。		
R5 指導の 重点 【13頁】	種別	具体的取組【D1】	評価【C1】
	1 継続	「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル」（文部科学省）、「学校における新型コロナウイルス感染症予防について」（三田市教育委員会）、「幼稚園における新型コロナウイルス感染症予防について」（三田市幼児教育振興課）に基づく対応	○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】		
1	「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル（2023.5.8～）」に基づき、平時と感染流行時の対策を区別したことで、感染症の流行状況に応じた感染症対策と学校教育活動の両立を図ることができた。		
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】		
改善策等 (R7 向)	課題についての対策（案）【A】		期待効果

<b>27</b>	<b>健康教育の充実</b>	担当課	学校教育課		
取組内容 基本計画 P【33頁】	継続的に健康診断等を実施するとともに、喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育及び感染症やアレルギー疾患に関する教育、疾病予防等について学校医等との連携を図りながら、正しい理解と行動につながる健康教育の充実を図る。				
アレルギー研修会受講者数					
経年経過	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	73人		42人	47人	35人
関係機関や専門指導員等と連携した薬物乱用防止教室開催状況					
経年経過	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
			13校	15校	21校
R5 指導の 重点	種別	具体的取組【D1】	評価【C1】		
	1 継続	アレルギー疾患に関する研修会の実施	○		

【14 頁】	2	継続	「学校におけるアレルギー疾患対応マニュアル」（兵庫県教育委員会）、「学校園（学校給食）における食物アレルギー対応の手引き」（三田市教育委員会）による対応	○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】			
	1	新任管理職全員の参加		
	2	学校給食における誤食事故防止のために「学校園（学校給食）における食物アレルギー対応の手引き」（三田市教育委員会）を改訂するとともに食物アレルギーチェック用献立表の変更を行った。		
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】			
改善策等 (R7 向)	課題についての対策（案）【A】			期待効果

### (3) 安全・防災教育

自ら身を守る能力や態度を育成する防犯教育とともに、進んで安全で安心な社会づくりに参加し、貢献する意欲を育む安全教育に取り組みます。

また、様々な場面や状況での災害を想定し、被害を最小限に減らす減災意識の向上や災害から自らの生命を守るための知識や技能を習得し、判断力、行動力を育成するとともに、災害の経験と教訓を継承し、人間としてのあり方、生き方を考える防災・減災教育に取り組みます。

#### 【主な取組】

28	安全教育の充実		担当課	学校教育課・教育総務課	
取組内容 基本計画 P【34頁】	子どもが自ら身を守り安全を確保する能力を育成するため、防犯訓練や交通安全教育、AEDを扱う命の教育を行うなど、家庭・地域と連携して子どもの安全を確保する取組を推進する。				
防災訓練・防犯訓練・交通安全教育の実施状況					
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
幼稚園	20校	20校	20校	20校	20校
小学校	8校	8校	8校	8校	8校
中学校	1校	1校	1校	1校	1校
R5 指導の 重点 【14頁】		種別	具体的取組【D1】		評価【C1】
	1	継続	学校園遊具の整備修繕		○
	2	継続	AEDの整備点検		○
	3	継続	交通安全教室、防犯教室等の開催		○
	4	新規	三田市登下校安全見守り連絡会の開催		—
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	1	全校において遊具点検を行い、不良部分は修繕を行った。			
	2	全校においてAEDの整備点検を行った。			
	3	学校・園において交通安全教室を実施（保育園9箇所、幼稚園22箇所、小学校27箇所、中学校6箇所）			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】				
	4	令和5年度は、各小学校が地域・保護者の協力を得ながら、各地域の状況に応じた児童の登下校の見守り体制を構築できた。各地域により状況が大きく異なるため、学校運営協議会等を通して地域の実情に応じた見守りを検討し、安全体制を構築することに重点を置くことが有効であると判断したため、令和6年度については、三田市登下校安全見守り連絡会を開催しなかった。			
改善策等 (R7向)	課題についての対策（案）【A】				期待効果
	4	—			—

<b>29</b>	<b>防災・減災教育の充実</b>	担当課	学校教育課		
取組内容 基本計画 P【34頁】	震災等の教訓を踏まえ、災害から自分自身や家族の生命を守るため主体的に行動する力（自助）を培う。また、災害時、学校には安全確保のため避難所が設置されることを踏まえ、自ら地域の一員としての自覚をもって、隣人や地域の方々と助け合って行動しようとする態度（共助）を育成する。				
地域と連携した防災訓練の実施数					
経年経過	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	22校	13校	18校	24校	24校
R5指導の 重点 【14頁】	種別	具体的取組【D1】			評価【C1】
	1	継続	地域と連携した防災訓練の実施		○
	2	継続	副読本「明日に生きる」等の活用		○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	1	地域と協力する体験を積む中で、児童生徒が自らの命を守る防災意識を高めることができ、また全小中学校において1.17の集いを実施することができた。			
	2	道徳の授業等で震災について学ぶ機会を設けることができた。			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】				
改善策等 (R7向)	課題についての対策（案）【A】				期待効果

<b>30</b>	<b>生命（いのち）を大切にできる教育の推進</b>	担当課	学校教育課		
取組内容 基本計画 P【35頁】	児童生徒の発達段階に応じて、性暴力の加害者、被害者、傍観者とならないよう「生命を大切にできる」安全教育を推進する。その上で、性暴力の根底にある誤った行動、また、性暴力が及ぼす影響などを正しく理解し、自分や相手、一人一人を尊重する態度等を育成する。				
R5指導の 重点 【14頁】	種別	具体的取組【D1】			評価【C1】
	1	継続	児童生徒の発達の段階や学校の状況を踏まえた、文部科学省作成「生命（いのち）の安全教育のための教材及び指導の手引き」の活用		○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	1	各学校において、児童生徒の発達段階に応じて性教育に取り組んだ。			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】				
改善策等 (R7向)	課題についての対策（案）【A】				期待効果

【指標】基本施策3「健やかな体」の育成

指 標	実績 (令和5年度)	目標 (令和8年度)	進捗 状況
「運動（体を動かす遊びをふくむ）やスポーツをすることは好きですか」の肯定的回答の割合 (全国体力・運動能力、運動習慣等調査)	(小5) 87.5% (中2) 83.9%	(小5) 93.0% (中2) 88.0%	▼
「朝食を毎日食べている」と答える子どもの割合（全国学力・学習状況調査）	(小6) 95.8% (中3) 93.7%	(小6) 98.0% (中3) 96.0%	▼
地場野菜使用率	20.4%	35.0%	×

※進捗状況 「◎」目標を達成(100%以上)、「○」目標に向け順調に進捗している(目標進捗率90%以上100%未満)、  
「△」目標に向け概ね順調に進捗している(目標進捗率70%以上90%未満)、「▼」目標に向け順調に進捗して  
いない(目標進捗率70%未満)、「×」令和3年度実績を下回っている、「―」調査対象外

## 基本施策 4 一人一人が大切にされる教育の充実

### (1) 特別支援教育

障害のあるなしに関わらず、人格と個性を尊重し支え合い、多様なあり方を誰もが相互に認め合える共生社会の実現に向け、「共に学び、共に育つ」教育を推進します。子ども一人一人の自立と社会参加をめざし、支援を必要とする子どもの発達の状態や特性、個々の教育的ニーズを把握して効果的な指導支援の充実を図ります。そのために、ユニバーサルデザインの考えを取り入れた授業や学校環境の整備等、すべての子どもが安心して学べるよう教職員の特別支援教育に係る理解を深め、指導力の向上を図ります。

また、関係機関や専門家と連携・協働し、校種間の円滑な引き継ぎを行い、発達段階の連続性を大切にした支援体制や相談体制の充実に努めます。

さらに、医療的ケアを含む多岐にわたる教育的ニーズに応えることができるよう連続性のある「多様な学びの場」の整備と充実を図ります。

#### 【主な取組】

31	<b>就学前から卒業後までを見通した個別の指導計画等の作成と活用</b>		担当課	教育支援課	
取組内容 基本計画 P【38頁】	支援が必要な子どもについて、個別の指導計画や個別の教育支援計画を作成するとともに、医療、家庭、福祉等との横連携及び、進学、就職時等の縦連携に「サポートファイル」を活用し、切れ目ない一貫した支援の充実を図る。				
サポートファイルの活用実績数					
経年経過	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	433人	473人	532人	557人	607人
R4 指導の 重点 【16頁】		種別	具体的取組【D1】		評価【C1】
	1	継続	市様式の個別の教育支援計画等の作成と活用		○
	2	継続	サポートファイルの縦横連携への活用（特別支援教育コーディネーター等ネットワーク会議の開催、三田市教育相談支援チーム連絡会の開催、教育・家庭・福祉の連携の推進）		○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	1	特別な教育課程を編成している全児童生徒に、個別の教育支援計画を作成。			
	2	シート類を改訂し、ネットワーク会議等にて活用方法を周知。			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】				
改善策等 (R7 向)	課題についての対策（案）【A】				期待効果

<b>32</b>	<b>特別支援教育相談の充実</b>	担当課	教育支援課・幼児教育振興課		
取組内容 基本計画 P【38頁】	就学に関する早期からの相談等、より多様な相談に対応すべく、「特別支援教育サポートセンター」の専任コーディネーター並びに外部専門員や三田市教育相談支援チーム相談員の専門性を活かし、相談の充実を図る。				
特別支援教育サポートセンター相談件数					
相談種別	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
未所型	107件	187件	219件	197件	213件
訪問型	278件	185件	171件	275件	278件
合計	385件	372件	390件	472件	491件
就学説明会、学校見学会、就学相談会の実施状況					
経年経過	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	126件	121件	113件	114件	102件
R5 指導の 重点 【16頁】	種別	具体的取組【D1】			評価【C1】
	1	継続	就学支援事業の実施（三田市教育支援委員会、就学説明会、就学相談会）		○
	2	継続	特別支援教育サポートセンター相談事業の実施（電話相談、面接相談、外部専門員相談、巡回相談、療法士相談、校内委員会訪問支援）		○
	3	継続	市立幼稚園特別支援教育サポート事業の実施		○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	1	就学先校における説明会や見学会、個別相談等の丁寧な実施			
	2	専任コーディネーター2名を配置し、早期に即時的な対応により相談事業の充実を図る。			
	3	園児に対する適切な支援についての巡回相談、教職員の支援体制等の丁寧な実施を行った。			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】				
改善策等 (R7 向)	課題についての対策（案）【A】				期待効果

<b>33</b>	<b>特別支援教育研修の充実</b>	担当課	教育支援課		
目標値	特別支援教育研修講座受講者数（年間延べ人数）				
取組内容 基本計画 P【38頁】	すべての教職員の特別支援教育に係る理解を深めるとともに、特別支援学校教職員・特別支援学級担任や特別支援教育支援員等の専門性と指導力の向上を図るため、ニーズに応じたより実践的な内容の研修を実施する。				
特別支援教育研修講座受講者数（年間延べ人数）					
経年経過	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	344人	131人	158人	270人	296人
R5 指導の	種別	具体的取組【D1】			評価【C1】

重点 【17頁】	1	継続	特別支援教育研修講座の開催（基礎研修、選択課題別研修、授業・保育実践研修、教育相談実地研修、コーディネーター研修、教育相談支援チーム巡回相談員研修）	○
	2	継続	職種別特別支援教育研修の実施（自立活動実地研修、特別支援教育支援員研修、医療的ケアにかかる研修）	○
	3	継続	療法士派遣事業の実施	○
	4	継続	合理的配慮実践推進校指定事業の実施	○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】			
	1	教職員の専門性を高める資質向上事業の推進に努めることができた。		
	2	初任特別支援学級・学校担当教員対象の講座の充実のため、自立活動実地研修の受講を必須とした。		
	3	療法士の専門性により、センター的機能を有する三田市立ひまわり特別支援学校教員等に対して定期的に指導助言を行うことができた。		
4	各校における合理的配慮提供支援の体制整備の充実を図った。			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】			
改善策等 (R7 向)	課題についての対策（案）【A】			期待効果

34	<b>通常の学級における指導・支援の充実</b>	担当課	教育支援課		
取組内容 基本計画 P【38頁】	校内支援体制を整備し、共通理解のもと、発達障害等により通常の学級において、特別な支援を要する子どもに対し、実態に応じた指導支援を行うとともに、特別支援教育指導補助員による教育的支援や通級指導教室における自立に向けた指導の充実を図る。				
学校生活支援教育による通級指導の実施状況					
経年経過	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
小学校	14校	17校	17校	17校	18校
中学校	7校	8校	8校	8校	7校
R5 指導の 重点 【17頁】	種別	具体的取組【D1】			評価【C1】
	1	継続	校内支援体制整備の充実（特別支援教育コーディネーター連絡会の開催）		○
	2	継続	指導補助員の配置（小学校に配置）		○
3	拡大	学校生活支援教育の配置（県事業）（小中学校に9名配置）		○	
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	1	各校における特別支援教育校内支援体制の整備につながっている。			
2	発達障害等により行動面・学習面において困難を示す児童及び在籍する学級への教育的支援を行えた。小学校に13名配置。				

	3	小学校拠点校の1校増配置。	
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】		
改善策等 (R7 向)	課題についての対策（案）【A】		期待効果

<b>3 5</b>	<b>共に生きる教育の推進</b>	担当課	教育支援課	
取組内容 基本計画 P【38頁】	障害のある子どもとない子どもが、共に学ぶことを通して互いを理解し、協力して生きていく態度を育成する。特別支援アシスタントや指導員等の教育的支援の充実を図り、子ども一人一人の教育的ニーズに対応しながら、小中学校や特別支援学校での交流及び共同学習を充実する。			
R5 指導の 重点 【17頁】		種別	具体的取組【D1】	評価【C1】
	1	継続	交流及び共同学習の推進（特別支援学級教育課程編成に係る説明会の開催）	○
	2	継続	特別支援学級自立支援員及び指導員の配置	○
	3	継続	特別支援アシスタントの配置	○
	4	継続	三田市立学校における医療的ケア運営協議会の開催	○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】			
	1	一人ひとりの個に応じた教育課程編成の充実を図った。		
	2	各校訪問にて必要数を把握し、子どもの教育的ニーズに対応できるよう、小中学校や特別支援学校での交流及び共同学習の充実につなげている。		
	3	社会的自立につながる体験活動等の教育活動に向け、より効果的かつ安全に実施できた。		
	4	医療的ケアを必要とする児童・生徒が健康で安全な学校生活を送るための体制の充実を図った。		
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】			
改善策等 (R7 向)	課題についての対策（案）【A】		期待効果	

## (2) 生徒指導・相談体制の充実

今後も、児童生徒や保護者との信頼関係を深め、いじめの早期発見・早期対応、そして「いじめ見逃しゼロ」に向け、児童生徒理解に基づいた教育の充実に組織的に取り組みます。また、いじめを生み出す構造的な課題に目を向け、児童生徒が状況に応じて主体的に判断し、適切に行動できるよう、自己指導能力を高めることで、いじめや問題行動の未然防止をめざし、すべての子どもたちが安心して生活し、学ぶことができる学校づくりを進めます。

また、DV、ネグレクト、貧困やヤングケアラーなどの状況にある子どもたちに対して、支援の実施主体である福祉部局と密接に連携し、家庭・地域での子どもたちの環境改善に努めます。そして、不登校児童生徒に対しては、個に応じたきめ細かな指導・支援を行うとともに、初期対応を充実し不登校の予防に努めます。

### 【主な取組】

36	生徒指導の充実		担当課	学校教育課	
目標値	「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」と答える子どもの割合 (全国学力・学習状況調査)				
取組内容 基本計画 P【40頁】	組織的に、いじめ・不登校・問題行動の未然防止、早期発見、早期対応を図るとともに、予防を目的とした生徒指導と相談体制の強化、学校園所連携の充実を図る。また、教職員がSNS上のいじめやトラブルに対応できるよう情報モラルに関する指導力向上を図る。				
「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」と答える子どもの割合 (全国学力・学習状況調査)					
経年経過	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
小6	97.7%	実施なし	98.6%	97.8%	97.9%
中3	93.5%		94.6%	97.0%	95.8%
いじめの報告件数					
経年経過	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
小学校	102件	71件	87件	116件	127件
中学校	56件	56件	79件	66件	122件
R5 指導の 重点 【18頁】		種別	具体的取組【D1】		評価【C1】
	1	継続	三田市いじめ防止基本方針、学校いじめ防止基本方針に基づく取組の推進		○
	2	継続	三田市いじめ問題対策連絡協議会の開催		○
	3	継続	三田市いじめ対策ネットワーク会議の開催		○
	4	継続	三田市生徒指導等問題対策委員会の開催		○
	5	継続	学校問題サポートチームの派遣		○
	6	継続	三田市生徒指導研究会等の開催		○
7	継続	三田市不登校等に関する支援の在り方検討委員会の		○	

		開催	
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】		
	1	「いじめ見逃しゼロ」に向け、児童生徒理解に基づいた取組の推進	
	2	三田市いじめ問題対策連絡協議会を1回開催し、三田市の関係機関におけるいじめ問題について、協議をおこなった。	
	3	三田市いじめ対策ネットワーク会議を1回開催し、各学校の担当者を中心にいじめ防止の取組について話し合うことができた。	
	4	三田市生徒指導等問題対策委員会を4回開催し、三田市の生徒指導の方向性について議論。いじめの認知件数が県と比べて少ないことを受け、いじめの報告様式を変更する等の助言を頂く。	
	5	学校問題サポートチームが、新任教員・2年目教員・生徒指導担当教員配置校の訪問を実施した。	
	6	「生徒指導の記録の取り方、聴き取りの仕方」の演題で講師を招いて、各中学校生徒指導担当教員も参加する形で教頭研修会を実施した。	
	7	三田市不登校等に関する支援の在り方検討委員会を2回開催し、学校内外の不登校児童生徒への支援につなぐことができるように保護者向けの不登校相談リーフレットを作成し、配布した。	
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】		
改善策等 (R7 向)	課題についての対策（案）【A】		期待効果

37	教育相談の充実	担当課	学校教育課			
取組内容 基本計画 P【40頁】	スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、子どものサポーター、関係機関、保護者との連携により、児童生徒一人一人の思いに共感し、大切にできるようにチームとしての教育相談体制の充実を図る。					
スクールカウンセラー相談件数（市費 SC）						
経年経過	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
	740件	702件	1,042件	821件	991件	
R5 指導の 重点 【18頁】	種別	具体的取組【D1】			評価【C1】	
	1	継続	スクールカウンセラーの配置（中学校8校、小学校4校に県費カウンセラーの配置：1日6時間 年間35回）（小学校5校、特別支援学校に市費カウンセラーの配置：1日6時間 年間15～35回）			○
	2	継続	子どものサポーターの配置（中学校8校に配置：1回4時間×90日回＝年間360時間）			△
	3	新規	子どものこころの支援員の配置（小学校4校に配置：1日3時間×70回＝年間210時間）			△
	4	新規	こころとからだの自立に向けた相談会の開催（年間5回）			○

特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】		
	1	すべての市内公立小中学校・特別支援学校において、スクールカウンセラーによる児童生徒へのカウンセリングや、学校への助言を行った。	
	4	「こころとからだの自立に向けた相談会」を年間5回実施し、不登校児童やその保護者への支援を図った。	
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】		
	2	各中学校において、不登校傾向のある生徒に対して、サポーターが別室での相談活動や学習補助などの支援の充実を図った。一方で、「子どものサポーター」は、週当たり配置時間が10時間であり、継続した支援を行うことが難しい。	
	3	新規配置した学校において、支援員が不登校傾向のある児童に関わり、登校や学習への不安軽減に努めた。一方で「子どものこころの支援員」は、週当たり配置時間が6時間であり、継続した支援を行うことが難しい。	
改善策等 (R7 向)	課題についての対策（案）【A】		期待効果
	2	「子どものサポーター」配置時間の拡充を行う。	継続した支援の充実
	3	「子どものこころの支援員」配置事業を「子どものサポーター」配置事業へ統一し、配置時間の拡充を行う。	継続した支援の充実

<b>38</b>	<b>不登校対策の充実</b>	担当課	学校教育課		
目標値	不登校児童生徒・保護者が関係機関に相談・支援を受けている割合				
取組内容 基本計画 P【40頁】	不登校児童生徒の社会的自立を支援するため、三田市あすなろ教室をはじめ、民間施設（フリースクール）への通所や家庭でのデジタル技術を活用した学習を指導要録上出席として取り扱うなど、対策を充実する。				
	不登校児童生徒・保護者が関係機関に相談・支援を受けている割合				
経年経過	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	新規指標		73.7%	65.3%	55.9%
	不登校児童生徒の出現率				
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
小学校	0.58%	0.58%	0.97%	1.46%	2.05%
中学校	3.34%	3.87%	5.20%	6.14%	7.00%
R5 指導の 重点 【18頁】		種別	具体的取組【D1】		評価【C1】
	1	継続	あすなろ教室における陶芸教室、野外炊事活動、体育文化活動など体験活動の充実		○
	2	継続	カウンセラーの配置		○
	3	新規	あすなろ e-school		△
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	1	三田市あすなろ教室において、通所生を対象に各種の体験活動を行った。			
	2	三田市あすなろ教室にスクールカウンセラーを配置し、児童生徒や保護者へのカウンセリングを行った。			

課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】	
	3	あすなる e-school として、不登校児童生徒やその保護者に対して、オンラインツールを用いた支援に取り組んだが、あすなる e-school で取り組んだ支援では、対象生徒への直接的な支援を継続させることが難しかった。
改善策等 (R7 向)	課題についての対策（案）【A】	
	3	他のオンラインツールについて研究・検証を行い、不登校生徒へのアウトリーチを図ると共に、不登校児童生徒への早期支援を図る。
		期待効果
		メタバースによる不登校児童生徒への支援

<b>39</b>	<b>スクールソーシャルワーカーと連携した支援の推進</b>	担当課	学校教育課		
取組内容 基本計画 P【40 頁】	児童生徒の生活環境の課題に対し、福祉的な視点からの支援を充実するため、スクールソーシャルワーカーとの連携を推進する。				
スクールソーシャルワーカー相談件数					
経年経過	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		841 件	1,114 件	1,092 件	1,159 件
R5 指導の 重点 【18 頁】		種別	具体的取組【D1】		評価【C1】
	1	継続	スクールソーシャルワーカーと連携した支援の推進		○
	2	継続	スクールソーシャルワーカーの配置（8 中学校区にスクールソーシャルワーカーの配置：1 日 7 時間 45 分 年間 35 回）		○
	3	継続	スクールソーシャルワーカースーパーバイザーの配置（1 名配置：スクールソーシャルワーカーに指導助言及び支援、研修会等の講師等を行う。）		○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	1	スクールソーシャルワーカーを学校職員に位置付け、連携した支援を推進した。			
	2	各中学校にスクールソーシャルワーカーを配置し、児童生徒が抱える諸課題について、学校、家庭、関係機関をつなぐ支援を行った。			
	3	スクールソーシャルワーカーの要望に応じて、スーパーバイザーによる指導助言及び支援を行った。			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】				
改善策等 (R7 向)	課題についての対策（案）【A】				期待効果

<b>40</b>	<b>福祉部局と連携した効果的な支援</b>	担当課	学校教育課・教育支援課
取組内容 基本計画	福祉的な支援を要する児童生徒に対して、第2期三田市子ども・子育て支援事業計画に掲げる施策の実施等により、効果的な支援につながるようスクールソシ		

<b>P【40 頁】</b>	ヤルワーカーや福祉部局との連携を図る。				
<b>教育相談の充実に向けた研修会の開催状況</b>					
経年経過	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
	52 名	32 名	31 名	37 名	36 名
R5 指導の 重点 【19 頁】		種別	具体的取組【D1】		評価【C1】
	1	継続	教育相談の充実に向けた研修会の開催		○
	2	継続	スクールソーシャルワーカーと福祉部局との連絡会及び研修会の開催		○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	1	不登校の未然防止と早期対応を学ぶ研修を行い、各校での支援の充実を図った。			
	2	三田市地域福祉課、三田市社会福祉協議会と協働してスクールソーシャルワーカー連絡協議会を開催し、各地域における連携に向けた協議を行った。			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】				
改善策等 (R7 向)	課題についての対策（案）【A】				期待効果

### (3) 保護者の経済的負担の軽減

経済的な理由により就学困難な児童生徒や特別支援学級に在籍する児童生徒の保護者等に対して、学校教育に必要な費用の支援を継続して実施します。

また、国等の動向を注視しながら、支援内容の充実に取り組みます。

これらにより、保護者の経済的な負担の軽減を図るとともに、学校教育の円滑な実施を図ります。

#### 【主な取組】

4 1	<b>就学援助費及び高等学校等入学支援金の支給</b>		担当課	教育支援課	
取組内容 基本計画 P【41頁】	経済的な理由により就学困難な小中学校等の児童生徒の保護者に対して、新入学生用品費、学用品費、給食費、修学旅行費等を支給する。また、高等学校等入学の際に必要な費用の一部を支給する。				
就学援助費の支給状況					
経年経過	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
小学校	459人	516人	449人	546人	518人
	26,140千円	28,845千円	28,013千円	27,803千円	26,474千円
中学校	248人	272人	240人	251人	272人
	21,391千円	22,413千円	21,645千円	21,232千円	23,441千円
援助率	7.95%	8.89%	7.69%	7.35%	7.49%
就学援助費（入学準備金）の支給状況					
経年経過	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
小学校	58人	47人	27人	40人	38人
	2,355千円	1,908千円	1,379千円	2,042千円	2,054千円
中学校	71人	89人	50人	71人	65人
	3,365千円	4,218千円	3,000千円	4,260千円	4,095千円
高等学校等入学支援金の支給状況					
経年経過	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
人数	22人	25人	38人	24人	14人
金額	1,390千円	1,580千円	2,402千円	1,516千円	884千円
R5指導の 重点 【19頁】	種別	具体的取組【D1】			評価【C1】
	1	継続	就学援助費の支給		○
	2	継続	高等学校等入学支援金の支給		○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	1	就学困難な児童生徒に学用品等を援助し、義務教育の円滑な実施を図った。			
	2	中学卒業後、就学が困難な生徒に対し、自立と進学を促進を図ることができた。			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】				
改善策等	課題についての対策（案）【A】				期待効果

(R7 向)		
--------	--	--

<b>4 2</b>	<b>遠距離通園・通学費の補助</b>	担当課	教育支援課・幼児教育振興課		
取組内容 基本計画 P【41頁】	市立の幼稚園及び小中学校に遠距離通園・通学する園児・児童生徒の保護者に対して、通園・通学費を補助する。				
バス定期の支給状況（10/10 補助）					
経年経過	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
幼稚園	11人	8人	8人	8人	5人
	356千円	261千円	273千円	309千円	175千円
小学校	159人	154人	145人	140人	102人
	5,405千円	5,299千円	4,942千円	4,678千円	4,026千円
中学校	94人	94人	83人	72人	72人
	10,018千円	10,481千円	9,220千円	7,942千円	9,118千円
通学用品の支給状況（小学生5千円、中学生10千円を上限に補助）					
経年経過	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
小学校	6人	5人	4人	2人	4人
	20千円	10千円	20千円	10千円	19千円
中学校	81人	94人	70人	67人	48人
	451千円	632千円	661千円	643千円	469千円
R5 指導の 重点 【19頁】	種別	具体的取組【D1】			評価【C1】
	1 継続	遠距離通園・通学費の支給			○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	1	居住地から指定校までの距離が、小学校は3km・中学校は4km以上の児童生徒に対し補助することで、学校教育の円滑な運営と保護者負担の軽減を図ることができた。			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】				
改善策等 (R7 向)	課題についての対策（案）【A】				期待効果

<b>4 3</b>	<b>特別支援教育就学奨励費の支給</b>	担当課	教育支援課		
取組内容 基本計画 P【41頁】	市立の小中学校の特別支援学級に在籍する児童生徒の保護者に対して、新入学用品費、学用品費、給食費、修学旅行費等を支給する。				
特別支援教育就学奨励費の支給状況					
経年経過	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
小学校	109人	108人	113人	118人	122人

	3,088 千円	3,027 千円	3,551 千円	3,909 千円	4,153 千円
中学校	30 人	36 人	45 人	58 人	53 人
	1,257 千円	1,645 千円	2,026 千円	3,263 千円	3,288 千円
R5 指導の重点【19 頁】	種別	具体的取組【D1】			評価【C1】
	1	継続	特別支援教育就学奨励費の支給		○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	1	特別支援学級に在籍する児童生徒の保護者に対して、学用品費等就学に必要な経費の一部を支給することにより、経済的負担の軽減を図ることができた。			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】				
改善策等（R7 向）	課題についての対策（案）【A】				期待効果

#### 【指標】基本施策 4 一人一人が大切にされる教育の充実

指 標	実績 (令和 5 年度)	目標 (令和 8 年度)	進捗 状況
特別支援教育研修講座受講者数 (年間延べ人数)	296 人	300 人	○
「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」と答える子どもの割合 (全国学力・学習状況調査)	(小 6) 97.9% (中 3) 95.8%	(小 6) 100% (中 3) 100%	▼
不登校児童生徒・保護者が関係機関に相談・支援を受けている割合	55.9%	100%	▼

※進捗状況 「◎」目標を達成(100%以上)、「○」目標に向け順調に進捗している(目標進捗率90%以上100%未満)、  
「△」目標に向け概ね順調に進捗している(目標進捗率70%以上90%未満)、「▼」目標に向け順調に進捗して  
いない(目標進捗率70%未満)、「×」令和3年度実績を下回っている、「－」調査対象外

## 基本施策 5 社会的自立に向けた教育の推進

### (1) キャリア形成と自己実現を図る教育

子どもたちが、社会の中で、自分の役割を果たしながら自分らしい生き方を実現するために、学校・家庭・地域が連携したキャリア教育の充実に取り組み、子どもが自ら学び、自身の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力の育成を図ります。

環境体験事業や総合的な学習の時間等において、三田の豊かな自然や豊富な学習資源等を活用し、環境保全に対する理解と関心を深めます。具体的な行動に結びつけられるような環境教育を推進することで、子どもたちのコミュニケーション能力や問題解決能力の育成を図ります。

また、多様な学びの場として魅力ある持続可能な部活動を推進し、生徒自身が仲間と連携・協働することで目標達成に挑み、自己肯定感を高め生徒の自己理解・自己管理能力や課題対応能力の育成を図ります。

#### 【主な取組】

4 4	キャリア教育推進体制の整備		担当課	学校教育課
取組内容 基本計画 P【45頁】	学校におけるキャリア教育の目標を明確にし、その上で、組織的・系統的な推進体制を整備し、教育活動全体を通じて、キャリア形成と自己実現を図る。			
R5 指導の 重点 【20頁】	種別	具体的取組【D1】		評価【C1】
	1	継続	キャリア教育推進体制の整備	○
	2	継続	特別活動を要としたキャリア教育の充実	○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】			
	1	キャリア教育の目標を明確にし、組織的・系統的な推進体制を整備した。		
	2	教育活動全体を通して、キャリア形成と自己実現を図った。		
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】			
改善策等 (R7 向)	課題についての対策（案）【A】			期待効果

4 5	キャリアノート、キャリア・パスポートの活用	担当課	学校教育課
目標値	「将来の夢や目標を持っている」と答える子どもの割合 (全国学力・学習状況調査)		
取組内容 基本計画 P【45頁】	キャリア教育を通して、将来、社会的・職業的に自立し、社会の中で、自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現する能力を育成するため、「キャリアノート」「キャリア・パスポート」を活用し、小学校から高等学校まで切れ目のな		

	い指導の充実を図る。				
「将来の夢や目標を持っている」と答える子どもの割合（全国学力・学習状況調査）					
経年経過	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
小6	84.5%	実施なし	80.7%	79.2%	79.9%
中3	69.7%		68.8%	66.7%	62.7%
R5指導の重点【20頁】	種別	具体的取組【D1】			評価【C1】
	1	継続	キャリアノート、キャリア教育指導資料等の活用と評価		○
	2	継続	「キャリア・パスポート」を活用した子ども一人一人の成長の見取りと支援の充実		○
	3	継続	小学校から高等学校まで切れ目のない指導の充実		○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	1	キャリアノートを活用し、自らの取り組みを振り返ることができた。			
	2	自らの活動を振り返る中で、自分らしい生き方について考えることができた。			
	3	小中高校間でキャリアノートを引き継ぎ、自らの考え方の違い・成長について振り返ることができた。			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】				
改善策等（R7向）	課題についての対策（案）【A】				期待効果

46	<b>キャリア教育に関わる体験活動の充実</b>	担当課	学校教育課・教育研修所		
取組内容基本計画P【46頁】	「環境体験事業」、「自然学校」、「わくわくオーケストラ教室」、「トライやる・ウィーク」、「特別支援学校交流・体験チャレンジ事業」等の体験活動をキャリア教育の核として、自己の可能性や適性の理解、自己有用感等の獲得、学ぶことの意義の理解と学習意欲の向上等のため、体験活動の充実を図る。				
R5指導の重点【21頁】	種別	具体的取組【D1】			評価【C1】
	1	継続	環境体験事業（小学3年生）→（各校年間3回以上の実施）		○
	2	継続	自然学校推進事業（小学5年生）→（各校4泊5日の実施）		○
	3	継続	わくわくオーケストラ推進事業（中学1年生）		○
	4	継続	トライやる・ウィーク推進事業（中学2年生）		○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	1	問題解決的な学習による学習意欲の充実			
	2	団体生活等における、課題達成感の獲得			
	3	参加生徒の多くから「多くの楽器を知った」「迫力ある演奏に感動した」等、肯定的な感想があり、学習意欲の向上が見られた。			
	4	学ぶことの意義や、自己の可能性、適性について理解することができた。			

課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】	
改善策等 (R7 向)	課題についての対策（案）【A】	
		期待効果

<b>4 7</b>	<b>家庭・地域と連携・協働したキャリア教育の推進</b>	担当課	学校教育課
取組内容 基本計画 P【46頁】	子どもたちを取り巻く学校・地域の現状や課題について、学校と学校外の関係者で共通理解を図り、「地域の教育力」を活用して、学校と家庭・地域と連携・協働したキャリア教育を推進する。		
R5 指導の 重点 【21頁】		種別	具体的取組【D1】
	1	継続	「トライやる」アクションの推進
	2	継続	地域ぐるみで子どもを支えるコミュニティ・スクールの充実
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】		
	1	地域の行事やボランティア活動に参加することができた。	
	2	教育委員会規則に基づいて全29校の移行を完了し、連携と協働の活性化のきっかけとした。	
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】		
改善策等 (R7 向)	課題についての対策（案）【A】		期待効果

<b>4 8</b>	<b>環境教育を通じた問題解決能力の育成</b>	担当課	教育研修所
取組内容 基本計画 P【46頁】	身の周りの自然や環境問題について、体験的に関わる活動や問題解決的な学習を通して、自然環境を大切にしようとする心情を育むとともに、自然と調和のとれた社会の創造に向けて、他者と協働し多様な視点をもとに、よりよい問題解決を図る力を育成する。		
R5 指導の 重点 【21頁】		種別	具体的取組【D1】
	1	継続	環境教育、体験活動の充実
	2	継続	太陽光発電システムの環境教育への活用
	3	継続	有馬富士自然学習センター、県立人と自然の博物館等、関係機関との連携
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】		
	1	自然環境を維持・継続するための、協働学習による課題解決	
	2	SDGs を視野に入れた、環境教育の充実	
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】		
改善策等 (R7 向)	課題についての対策（案）【A】		期待効果

49	<b>部活動による個性の伸長</b>		担当課	学校教育課	
取組内容 基本計画 P【46頁】	スポーツや文化芸術等の体験活動を通じて、自分自身の可能性について自己理解・自己管理能力を深め、他者との関わりの中で、責任感、連帯感の涵養を図り、好ましい人間関係を育む。また、部活動指導員など地域の教育力を効果的に活用するとともに、学校の実状に応じ、複数の学校による合同チームの実施等、持続可能な部活動運営のための体制整備に努める。				
運動部活動、文化部活動への入部の状況					
経年経過	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		86%	84%	83%	82%
部活動指導員の配置の状況					
経年経過	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	4人（4校）	4人（4校）	10人（8校）	10人（8校）	11人（8校）
R5 指導の 重点 【21頁】		種別	具体的取組【D1】		評価【C1】
	1	継続	部活動振興事業		○
	2	拡大	部活動指導員の配置		○
	3	継続	複数校合同チームへの支援		○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	1	各中学校における部活動の支援を行った。			
	2	部活動指導員を1名増員した。			
	3	複数校合同チームを支援することで、活動の充実を図った。			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】				
改善策等 (R7 向)	課題についての対策（案）【A】				期待効果

## (2) グローバル化に対応した教育

グローバル化が進展する社会の中で、国際的な視野に立って主体的に行動するために必要な資質・能力や異なる言語や文化、価値観などを尊重する態度の育成に取り組むとともに、外国語（英語）によるコミュニケーション能力や問題解決能力を育成し、様々な分野でグローバルに活躍する人材を育てます。

日本の伝統文化を体験的に学ぶことを通して、ふるさとを大切に思う心や伝統文化を尊重する態度を育みます。

本市の地域の自然や歴史、文化、人々の営みにふれる体験活動を通じて、ふるさとに対する愛着や誇りを育むとともに、多様な文化に対する理解を深め「さんだっ子」としてのアイデンティティを育てる教育を推進していきます。

### 【主な取組】

50	<b>国際理解教育推進</b>		担当課	学校教育課	
取組内容 基本計画 P【47頁】	三田市国際交流協会等と連携を図り、様々な言語や文化にふれる機会を充実させるとともに、体験的な学習を取り入れ、国際的視野に立って持続可能な社会を実現するために必要な資質・能力を育成する教育を充実する。				
R5 指導の 重点 【22頁】		種別	具体的取組【D1】		評価【C1】
	1	継続	国際化に対応した教育の充実		○
	2	継続	三田市国際交流協会や大学と連携したボランティアティーチャーを派遣		○
	3	継続	国際理解教育教材の貸し出し		○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	1	各校における多文化共生の風土の醸成に向けて担当者会や学校訪問を通して理解啓発に向けた取組を推進した。			
	2	三田市国際交流協会と連携し、外国にルーツを持つ児童生徒の文化等への理解や「やさしい日本語」への理解を深める取組を推進した。			
	3	書籍の貸し出し、民族楽器の貸し出しを行い、各学校で体験的な国際理解教育を実施することが出来た。			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】				
改善策等 (R7 向)	課題についての対策（案）【A】			期待効果	

51	<b>外国語（英語）教育の推進</b>	担当課	教育研修所
目標値	「授業では、英語で自分自身の考えや気持ちを伝え合うことができていた」と答える子どもの割合（全国学力・学習状況調査）		
取組内容 基本計画	就学前から中学校までの期間を見通し発達段階に応じて、外国語（英語）教育を推進する。小中学校においては言語活動を通して、「聞く」「読む」「話す〔やり取		

P【48頁】	り]」「話す〔発表〕」「書く」の4技能5領域を総合的に育成する。外国語（英語）教育の一層の充実に向けて小中連携を推進する。				
「授業では、英語で自分自身の考えや気持ちを伝え合うことができていた」と答える子どもの割合（全国学力・学習状況調査）					
経年経過	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
小6	新規指標		75.3%	実施なし	実施なし
中3			70.5%		
小学校英語専科の配置状況					
経年経過	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	2人	3人	4人	6人	8人
R5 指導の 重点 【22頁】	種別	具体的取組【D1】			評価【C1】
	1	継続	三田市英語教育推進の基本方針		○
	2	継続	さんだ子ども英語教育の開催		○
	3	継続	三田市中学校英語暗唱大会の共催		○
	4	継続	ALT、小学校外国語活動サポーターの派遣（英語教育推進事業）		○
	5	拡大	小学校英語専科の配置（R5：8人）		○
	6	継続	中学校でオンライン英語授業の実施		◎
特筆すべき 取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	1	11年間を見通した教育を行うため、小中学校の担当者が集まり中学校区にて目指す子ども像を設定したり情報共有を図ったりしながら取組を進めた。			
	2	ALTが学年に応じた英語学習動画を作成し、自由に小中学生が視聴できる取組を行った。			
	3	全中学校から参加があり、各自がすばらしい暗唱を披露した。参観の方々のアンケートもたいへん好評であった。			
	4	全小中学校にALT・サポーターを配置し、実践的な外国語活動と異文化理解を深める取組を行った。			
	5	小学校英語専科を前年度より2名増やして8名とし、配置校も11校から15校と増やすことができた。			
	6	「オンライン英語授業は、学習に役立った」と肯定的に回答した生徒の割合は、88.6%(R4：87.8%)。また「オンライン英語授業では、楽しく英語を学びましたか」と肯定的に回答した生徒の割合は、85.2%(R4：80.9%)と高かった。			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】				
改善策等 (R7向)	課題についての対策（案）【A】				期待効果

52	伝統や文化に関する教育の推進	担当課	教育研修所
取組内容	古典、武道等、日本の伝統や文化にふれる学習・体験を通して、子どもの興味・		

基本計画 P【48頁】	関心を高めるとともに、国・郷土を愛する心や伝統文化を尊重する態度を育む。		
R5 指導の 重点 【22頁】	種別	具体的取組【D1】	評価【C1】
	1	継続 伝統や文化に関する教育の推進	○
	2	継続 校外学習活動支援事業	○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】		
	1	伝統芸能の歴史学習とその継続活動	
	2	伝統文化を継承するための地域学習の充実	
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】		
改善策等 (R7 向)	課題についての対策（案）【A】		期待効果

5 3	「ふるさと学習」の充実	担当課	教育研修所		
目標値	「今住んでいる地域の行事に参加している」と答える子どもの割合 (全国学力・学習状況調査)				
取組内容 基本計画 P【48頁】	三田の自然、歴史、文化、「川本幸民」や「三好達治」等の偉人を学習材として、市の学習施設等も活用しながら見学や調査等を行う体験活動を推進する。また、友好都市である鳥羽市との交流活動を通じて、互いの市の様子について理解を深めるとともに、友好の精神を育む。				
「今住んでいる地域の行事に参加している」と答える子どもの割合(全国学力・学習状況調査)					
経年経過	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
小6	70.1%	実施なし	64.8%	54.5%	63.9%
中3	47.4%		49.5%	43.4%	37.6%
R5 指導の 重点 【23頁】	種別	具体的取組【D1】			評価【C1】
	1	継続	ふるさと学習推進事業	○	
	2	継続	校外学習活動支援事業	○	
	3	継続	ふるさと読本「川本幸民物語」「明治を生きた三人の九鬼さん」「塚本稔物語」「白洲退蔵物語」「甲賀ふじ物語」「北の大地に理想郷を築いた人々～鈴木清・澤茂吉物語～」や「三好達治名詩選集」等の活用	○	
	4	継続	友好都市交流事業	○	
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	1	歴史収蔵センター、旧九鬼邸などの見学によりふるさとへの愛着を深める学習に取り組んだ。			
	2	環境体験学習として校区や市内で三田の自然の支援事業に取り組んだ。			
	3	ふるさと読本6「北の大地に理想郷を築いた人々～鈴木清・澤茂吉物語」発行浦河町立堺町小学校と三輪小学校の5年生でオンライン交流を行った。			
	4	鳥羽神島小中学校と母子小学校とオンラインでの交流学习で伝統芸能などの			

	交流を行った。
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】
改善策等 (R7 向)	課題についての対策（案）【A】
	期待効果

5 4	地域のよさを活かした体験教育の推進	担当課	教育研修所・学校教育課
取組内容 基本計画 P【48 頁】	ふるさと三田を愛する心を育て、地域の一員としての自覚を高めるために、「兵庫型体験教育（環境体験事業、自然学校推進事業、トライやる・ウィーク等）」を通じて、地域についての理解を深め、主体的に行動する力を育むとともに、ふるさと三田を愛する心を育てる。		
R5 指導の 重点 【23 頁】	種別	具体的取組【D1】	評価【C1】
	1 継続	環境教育、体験活動の充実	○
	2 継続	有馬富士自然学習センター、県立人と自然の博物館等、関係機関との連携	○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】		
	1	自然環境を維持・継続するための、協働学習による理解深化	
	2	専門施設との連携による、興味・関心を促す学習の充実	
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】		
改善策等 (R7 向)	課題についての対策（案）【A】		期待効果

### 【指標】基本施策5 社会的自立に向けた教育の推進

指 標	実績（令和5年度）	目標（令和8年度）	進捗状況
「将来の夢や目標を持っている」と答える子どもの割合 (全国学力・学習状況調査)	(小6) 79.9% (中3) 62.7%	(小6) 90.0% (中3) 80.0%	×
「授業では、英語で自分自身の考えや気持ちを伝え合うことができていた」と答える子どもの割合 (全国学力・学習状況調査)	(小6)調査項目なし (中3)調査項目なし	(小6) 78.0% (中3) 73.0%	-
「今住んでいる地域の行事に参加している」と答える子どもの割合 (全国学力・学習状況調査)	(小6) 63.9% (中3) 40.7%	(小6) 74.0% (中3) 55.0%	×

※進捗状況 「◎」目標を達成(100%以上)、「○」目標に向け順調に進捗している(目標進捗率90%以上100%未満)、  
「△」目標に向け概ね順調に進捗している(目標進捗率70%以上90%未満)、「▼」目標に向け順調に進捗していない(目標進捗率70%未満)、「×」令和3年度実績を下回っている、「-」調査対象外

## 基本施策 6 幼児期の教育の充実

### (1) 生きる力の基礎を育む教育

農村地域の市立幼稚園を集約するなどにより、保育サービスの充実や地域の子育て支援を推進し、魅力を高めることで、望ましい集団規模の確保を図るとともに、地域活性化の資源としても利活用します。

また、幼児一人一人の育ちと学びの連続性を踏まえた教育を充実するために、研修や研究等を通じて、保育士・幼稚園教諭・保育教諭の資質の向上に努めます。

さらに、小学校との円滑な接続を図るため、「さんだっ子かがやきカリキュラム」に基づき、それぞれの施設での教育課程の編成、実施、評価・改善を図ります。

#### 【主な取組】

5 5	★市立幼稚園再編の推進		担当課	幼児教育振興課
関連	9 5 小中学校再編の推進【学校再編課・学校教育課】			
取組内容 基本計画 P【51頁】	小規模化が著しい農村地域の幼稚園について、認定こども園化により多様な保育ニーズに対応することで、よりよい教育環境に向けた集団規模の確保を図るため、再編を推進する。			
R5 指導の 重点 【24頁】		種別	具体的取組【D1】	評価【C1】
	1	新規	3歳児保育の開始（松が丘幼稚園）	◎
	2	新規	（仮称）三田西認定こども園改修工事	◎
	3	新規	（仮称）三田東認定こども園改修設計	○
	4	継続	認定こども園運営方針等検討委員会の開催	◎
	5	拡大	職員研修の実施	○
	6	拡大	該当園の園児交流等	◎
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】			
	1	計画どおり開始した。		
	2	三田市立幼稚園再編計画に基づき、ソフト・ハード両面における環境整備を進めた。		
	3	よりよい保育環境を目指し、検討を進めた。		
	4	計画どおり開催し、地域関係者の意見を認定こども園開園に反映することができた。		
	5	認定こども園の運営について研修を行い、開園準備を進めた。		
6	計画的な園児交流を重ねることで、園児、保護者、職員すべてにとって認定こども園へのスムーズな移行につながった。			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】			
改善策等 (R7向)	課題についての対策（案）【A】			期待効果

5 6	<b>★幼児教育に係る教職員研修の充実</b>		担当課	幼児教育振興課・保育振興課	
取組内容 基本計画 P【51頁】	市全体の就学前施設における教育の質の向上をめざし、教職員の専門性を高めるとともに、子どもを取り巻く社会的な課題等に対応できる知識の習得を図る。				
分野別リーダー研修の受講状況（保育振興課）					
経年経過	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
受講者数	208人	123人	125人	103人	131人
テーマ	乳児保育	障害児保育	保護者支援・ 子育て支援	保護者支援・ 子育て支援	幼児教育
市立幼稚園と保育所の人事交流状況（幼児教育振興課・保育振興課）					
経年経過	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
幼稚園	2人	2人	1人	1人	1人
保育所	1人	1人	1人	1人	1人
R5 指導の 重点 【24頁】		種別	具体的取組【D1】		評価【C1】
	1	継続	幼稚園元気アップ共育事業		○
	2	継続	市内幼稚園連携推進事業		○
	3	継続	教育研修事業		○
	4	継続	研究推進委員会の開催		◎
	5	継続	市立幼稚園と保育所の人事交流の実施		○
	6	継続	市立幼稚園・保育所合同研修		—
特筆すべ き取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	1	保護者や地域の方々とともに、開かれた園づくりに取り組んだ。			
	2	市内保育園所・幼稚園・認定こども園の合同研修会を実施した。			
	3	研修会を実施し、教職員の専門性の向上と知識習得を図った。			
	4	研究についての語り合いにより、保育の充実と資質向上につながっている。			
	5	新しい視点や学びを今後の認定こども園運営に生かすことが期待される。			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】				
	6	研修時間の確保、方法の工夫			
改善策等 (R7 向)	課題についての対策（案）【A】				期待効果
	6	研修内容や形態を見直し、研修の機会を確保する。			知識取得機会 の拡大

5 7	<b>★市立幼稚園指定研究事業の推進</b>		担当課	幼児教育振興課	
関連	2 授業改善の促進（教育研修所）				
目標値	「幼稚園は子どもの主体性を育み、活動を通して友達と協力したり、粘り強く取り組む力や自己肯定感などを高めている。」と答える保護者の割合（学校評価アンケート）				
取組内容 基本計画	豊かな直接的・具体的な体験を通して、「学びに向かう力」を育む保育を創造するとともに、幼児教育の充実に向け、教職員の資質向上を目的とした研究事業を推				

P【51頁】	進する。		
R5 指導の 重点 【24頁】	種別	具体的取組【D1】	評価【C1】
	1	継続 指定研究事業	○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】		
	1	「学びに向かう力」を育む保育の創造に向けて取り組み、研究紀要として成果をまとめた。	
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】		
改善策等 (R7 向)	課題についての対策（案）【A】		期待効果

5 8	★幼児期の教育と小学校教育との円滑な接続	担当課	幼児教育振興課		
取組内容 基本計画 P【51頁】	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき、アプローチカリキュラムの活用や小学校教諭との連携を深めるなど、幼児教育・保育と小学校教育との円滑な接続を図る。				
さんだっ子かがやきカリキュラムに基づく研修（幼児教育振興課・保育振興課）					
経年経過	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
テーマ1	①	実施なし	③	⑤	⑦
受講者数	50人	実施なし	58人	55人	52人
テーマ2	②	実施なし	④	⑥	⑧
受講者数	45人	実施なし	76人	61人	56人
テーマ	①	養護にかかる研修			
	②	危機管理にかかる研修			
	③	子どもの心の育ちを支える保育者の役割について			
	④	幼児教育・保育施設の横の連携と小中学校の縦のつながりを意識して			
	⑤	乳幼児の世界と保育			
	⑥	これからの学校園所の連携			
	⑦	運動あそび			
	⑧	道徳性の芽生え			
R5 指導の 重点 【25頁】	種別	具体的取組【D1】	評価【C1】		
	1	継続	就学前教育・保育スタンダードカリキュラム「さんだっ子かがやきカリキュラム」の活用	○	
	2	継続	アプローチカリキュラムの作成と実践	○	
	3	継続	合同研修会、カンファレンス等の実施	○	
	4	継続	就学に向けた引継ぎ等の連絡会の実施	○	
	5	新規	幼児期と児童期の円滑な接続推進事業	◎	
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	1	「幼児期までに育ててほしい10の姿」をもとに、活用することができた。			

	2	育ちと学びをつなぐ接続を意識した取り組みを行った。
	3	研修会を行ったり、意見交流の機会を設けたりした。
	4	計画的な連絡会の実施を行った。
	5	県事業「令和5年度幼児期と児童期の円滑な接続推進事業」の研究会において幼稚園公開保育、研究発表を報告することができた。
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】	
改善策等 (R7 向)	課題についての対策（案）【A】	期待効果

<b>5 9</b>	<b>★市立幼稚園の子育て支援の推進</b>	担当課	幼児教育振興課			
取組内容 基本計画 P【51 頁】	芝生園庭を開放し、親子が集える場を提供したり、講師を招聘し、ベビーマッサージやヨガ等、親子で楽しめる催しを行う。					
地域子育てステーション事業（子ども政策課）						
経年経過	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
こども園	11 か所	11 か所	11 か所	11 か所	11 か所	
保育所	9 か所	9 か所	9 か所	10 か所	10 か所	
合計	20 か所	20 か所	20 か所	21 か所	21 か所	
市立幼稚園地域子育て支援事業“げんき”実施状況						
経年経過	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
	88 組（5 回）	中止	45 組（4 回）	49 組（5 回）	51 組（5 回）	
市立幼稚園芝生園庭開放実施状況						
経年経過	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
	41 回	39 回	23 回	43 回	35 回	
R5 指導の 重点 【25 頁】	種別	具体的取組【D1】			評価【C1】	
	1	継続	保育所・幼稚園等を拠点とした子育て支援の推進			○
	2	継続	市立幼稚園地域子育て支援推進事業“げんき”（市立5園で実施）			○
	3	継続	市立幼稚園芝生園庭開放（全園実施）			○
	4	継続	地域子育てステーション事業（市内保育所・保育園・認定こども園で実施）			○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】					
	1	親子が触れ合い、楽しめる時間を共有することができた。				
	2	講師を招聘し、楽しいイベントを催すことができた。				
	3	芝生の心地よさを感じながら、安心して地域の親子が集う場となった。				
	4	親子が触れ合い、楽しめる時間を共有することができた。				
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】					

改善策等 (R7 向)	課題についての対策 (案) 【A】		期待効果

60	★市立幼稚園の預かり保育の充実		担当課	幼児教育振興課	
目標値	市立幼稚園の預かり保育の実施日の拡充				
取組内容 基本計画 P【51 頁】	再編対象外の市立幼稚園においては段階的に預かり保育の充実を図る。				
市立幼稚園の預かり保育の実施状況					
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
週5日					
週3日	2園	2園	全園	全園	全園
週2日	7園	7園			
週1日	1園	1園			
R5 指導の 重点 【25 頁】	種別	具体的取組 【D1】			評価 【C1】
	1	継続	市立幼稚園全園で預かり保育週3日実施		◎
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容 (成果) 【D2】				
	1	週3日実施を行うことができた。			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題 (主な原因) 【C2】				
改善策等 (R7 向)	課題についての対策 (案) 【A】			期待効果	

### 【指標】基本施策6 幼児期の教育の充実

指 標	実績 (令和5年度)	目標 (令和8年度)	進捗 状況
「幼稚園は子どもの主体性を育み、活動を通して友達と協力したり、粘り強く取り組む力や自己肯定感などを高めている。」と答える保護者の割合 (学校評価アンケート)	88.8%	90%	○
市立幼稚園の預かり保育の実施日の拡充	週3日：全園	週5日：全園	○

※進捗状況 「◎」目標を達成(100%以上)、「○」目標に向け順調に進捗している (目標進捗率90%以上100%未満)、

「△」目標に向け概ね順調に進捗している (目標進捗率70%以上90%未満)、「▼」目標に向け順調に進捗していない (目標進捗率70%未満)、「×」令和3年度実績を下回っている、「-」調査対象外

## 基本施策 7 信頼される学校づくりの推進

### (1) 学校組織力の向上

社会に開かれた学校づくりを推進していくため、学校園所情報の積極的な発信やオープンスクールの実施により、保護者や地域住民の学校についての理解を深めるとともに、学校・家庭・地域の連携を進め、地域全体で子どもの成長を支える環境づくりに取り組めます。

また、学校経営における管理職のリーダーシップのもと、学校組織のマネジメント力の強化を図るとともに、多様な教育課題に組織的かつ迅速に対応ができる体制の構築をめざします。

さらに、多様な教育課題に対応するため、教育委員会と学校現場との連携を強化することで、学校組織運営の改善を図ります。

#### 【主な取組】

6 1	開かれた学校園所づくりの推進		担当課	教育研修所・学校教育課・幼児教育振興課		
目標値	学校ホームページの年間アクセス数が家庭数の3倍以上（月平均）の学校数					
取組内容 基本計画 P【54頁】	学校園所だよりやホームページ等、様々な媒体の活用やオープンスクール等により、学校園所運営に関する情報を積極的に発信することで、教育活動に対する家庭や地域の理解を深め、それぞれの役割と責任を果たしながら、地域全体で子どもの成長を支える環境づくりを推進する。					
学校ホームページの年間アクセス数が家庭数の3倍以上（月平均）の学校数						
経年経過	令和元年度		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
			22校	18校	27校	26校
R5 指導の 重点 【26頁】		種別	具体的取組【D1】		評価【C1】	
	1	拡大	コミュニティ・スクール推進事業		○	
	2	継続	学校園 HP 等の充実		○	
	3	継続	幼稚園元気アップ共育事業		○	
	4	継続	オープンスクールの実施		○	
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】					
	1	教育委員会規則に基づいて全29校の移行を完了し、連携と協働の活性化のきっかけとした。				
	2	学校運営に関する情報を積極的に発信し、家庭に伝えることができた。				
	3	保護者や地域の方々とともに、開かれた園づくりに取り組んだ。				
	4	様々な教育活動の公開が定着している。				
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】					
改善策等	課題についての対策（案）【A】				期待効果	

(R7 向)			
--------	--	--	--

<b>6 2</b>	<b>学校評価を活用した教育活動の改善推進</b>	担当課	学校教育課・幼児教育振興課
取組内容 基本計画 P【54頁】	P D C Aサイクルに基づく学校評価を実施し、教職員が学校園所運営の成果や課題を共有しながら、積極的に教育活動の改善を図る。また、評価結果を公表することで、家庭・地域による教育活動への理解を深め、社会に開かれた教育課程の実現を図る。		
R5 指導の 重点 【26 頁】	種別	具体的取組【D1】	評価【C1】
	1	継続 PDCA サイクルに基づく学校評価の実施と公表（学校HP による計画書と報告書の公表 全 29 校）	○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】		
	1	学校評価が定着し、具体的な改善につながっている。	
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】		
改善策等 (R7 向)	課題についての対策（案）【A】		期待効果

<b>6 3</b>	<b>学校組織運営の改善</b>	担当課	教育総務課
取組内容 基本計画 P【54頁】	管理職のリーダーシップのもと、主幹教諭等の職の活用、校務分掌の見直し、危機管理体制の整備等、教職員が協働して様々な教育課程に組織的かつ迅速に対応するとともにリスクマネジメントの研修機会や支援体制づくりを充実する。		
R5 指導の 重点 【26 頁】	種別	具体的取組【D1】	評価【C1】
	1	継続 校長面談における学校運営に係る指導・助言	○
	2	継続 新任教頭研修会の開催	○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】		
	1	校長面談において、実情に応じて適切に学校運営に係る指導及び助言ができた。	
	2	教頭職の実務がスムーズに遂行できるよう研修会を開催することができた。	
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】		
改善策等 (R7 向)	課題についての対策（案）【A】		期待効果

<b>6 4</b>	<b>教育委員会と学校の連携強化</b>	担当課	教育総務課・学校教育課
取組内容 基本計画 P【54頁】	教育委員会が学校に出向き、教育現場の実情を把握するとともに、現場の管理職や教職員、実際に学校教育に関わっている地域の方と意見交換を行い、教育現場の取組や課題を共有することで、施策への反映や学校組織運営への支援を充実する。		
R5 指導の	種別	具体的取組【D1】	評価【C1】

重点 【27 頁】	1	継続	学校訪問の実施	○
	2	継続	教育懇談会の開催	○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】			
	1	全 29 校（春期 14 校、秋期 15 校）への学校訪問を実施し、児童・生徒・教職員及び学校の状況把握、課題の共有を行った。		
	2	あすなろ教室との教育懇談会を開催した。通所児童の状況等の報告を受け、活発な意見交換が行われるなど貴重な機会となった。		
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】			
改善策等 (R7 向)	課題についての対策（案）【A】			期待効果

## (2) 教職員の資質・指導力の向上

子どもを取り巻く環境の変化に適切に対応できる教職員として求められる資質を育成するため、研修の拠点となる教育研修所の機能を充実させ、教職員のキャリアステージに応じた体系的かつ効果的な研修や専門性の向上を図る研修等の一層の充実を図ります。

また、教職員の世代交代を見据え、教職員と多様な専門性をもつ教職員でのグループ活動により、教育研究を進めるとともに、グループ員の協働的な研究によって指導経験が少ない教職員の指導力の向上を図ります。

市民から信頼され、市民の期待に応える教育を一層充実するため、自らの仕事に対する誇りを高め、教職員という職に求められる倫理観を醸成し、徹底した不祥事の防止に向けた、研修の機会をつくります。

### 【主な取組】

65	<b>教育公務員としての使命感の高揚と倫理観の確立</b>		担当課	教育総務課・教育研修所
取組内容 基本計画 P【56頁】	非違行為を許さないコンプライアンス意識やハラスメントを許さない職場風土づくりにとどまることなく、教職員として、市民からの信頼にも応える、より高い次元での倫理観・職業観の醸成をめざす校内研修や全体での研修を推進します。			
R5 指導の 重点 【27頁】		種別	具体的取組【D1】	評価【C1】
	1	継続	サービスに係る学校訪問の実施	○
	2	継続	コンプライアンス研修の実施	○
	3	継続	非違行為防止に向けた校内研修の推進	○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】			
	1	学校を訪問し、サービスに関する課題点について指摘・指導等することで、非違行為の未然防止に努められた。		
	2	校長会等にて綱紀粛正、サービス規律確保に向けた資料を提供し、具体的な事例を示しながら注意喚起することができた。		
	3	非違行為防止に係る研修資料を作成し、校内研修の実施を推進した。		
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】			
改善策等 (R7 向)	課題についての対策（案）【A】			期待効果

66	<b>教育研修所機能の充実</b>	担当課	教育研修所
目標値	「研修内容を今後の指導に役立てたい」と回答した教職員の割合 (三田市教育研修所に関するアンケート)		
取組内容	教育書・教材等を置くカリキュラムセンター、タブレット端末、大型モニター等		

基本計画 P【56頁】	を備えた ICT 研修室、相談室、会議室等、教育研修所の機能を充実する。また、学習指導要領が示す資質・能力の育成に向けた研修、教職員のニーズに応じた研修や相談の機会を広く提供し、教職員の資質・指導力の向上を図る。				
「研修内容を今後の指導に役立てたい」と回答した教職員の割合 (三田市教育研修所に関するアンケート)					
経年経過	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	新指標		98.6%	92.6%	99.2%
R5 指導の 重点 【27頁】	種別	具体的取組【D1】			評価【C1】
	1	継続	校内研究の支援、教職員の自主的研修の奨励とサポート		○
	2	継続	ICT 支援員の派遣による授業支援		△
	3	継続	指導案やワークシート、教育書・教材等を置くカリキュラムセンターの充実		△
	4	継続	タブレットパソコン、大型モニタを備えた ICT 研修室、相談室、会議室等、教育研修所の機能の充実		○
	5	継続	タブレット端末を活用したオンライン等による研修環境の整備		○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容(成果)【D2】				
	1	各校の要望に応じたアウトリーチ型研修を各校にて実施			
	4	研修会や会議等で多くの教員に利用された。			
	5	オンライン等による研修会を実施。			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題(主な原因)【C2】				
	2	定期的な ICT 支援員の授業派遣が行えていない。			
	3	カリキュラムセンターの活用が進んでいない。			
改善策等 (R7 向)	課題についての対策(案)【A】				期待効果
	2	ICT 支援員を増員し、支援体制を整える。			支援回数増加
	3	情報共有が容易に行えるシステムを検討する			追加・更新データ数増

67	<b>教職員研修の推進</b>	担当課	教育研修所		
目標値	教育研修所で研修した教職員(年間延べ人数) ※オンライン研修を含む。				
取組内容 基本計画 P【56頁】	若手教職員から、ミドルリーダー、管理職等、それぞれのキャリアステージに応じた資質・指導力の向上を図るため、各種研修会を開催する。また、様々な教育課題や教職員のニーズを踏まえた研修を推進する。				
教育研修所で研修した教職員(年間延べ人数) ※オンライン研修を含む。					
経年経過	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
総人数	5,272 人	1,524 人	3,695 人	2,958 人	3,677 人
内オンライン		931 人	2,733 人	1,451 人	1,478 人

R5 指導の 重点 【28 頁】		種別	具体的取組【D1】	評価【C1】
	1	継続	教職員研修事業（様々な教育課題に対応した共通研修、初任者、2・3年次等の若手からベテラン教職員まで、それぞれの世代に対応した研修、教科・領域等における授業づくり講座の実施など）	◎
	2	継続	三田市立学校指導員制度事業（授業づくり講座の実施、提案授業の公開等）	◎
	3	継続	教育課程研究事業（ICT 機器を効果的に活用した「主体的・対話的で深い学び」のある授業と「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実、教科横断的な学習や探究的な学習、GIGA スクール構想を受けての情報活用能力の育成、小学校プログラミング教育、外国語教育の実施等、学習指導要領が示す資質・能力の育成に関する研究）	○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】			
	1		キャリアステージに応じた様々な研修会を開催することができ、多くの参加者がスキルアップを目指し学ぶことができた。	
	2		学校指導員による「夏季授業づくり講座（全 11 講座開催）」には多くの参加者があり、各教科指導についての学びを深めることができた。	
	3		授業においてオクリンクの活用を推進することで、個々の情報を効果的に共有・発信でき「協働的な学び」「対話的で深い学び」につなげることができた。	
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】			
改善策等 (R7 向)	課題についての対策（案）【A】			期待効果

68	教育研究グループ活動の充実	担当課	教育研修所		
目標値	教育研究グループの組織率				
取組内容 基本計画 P【56 頁】	児童生徒の思考力・判断力・表現力の育成を明確に意識した授業の開発、指導内容・方法等について、教科領域ごとの部会に分かれて研究を進める。また、教育課題の解決に向けて、先導的に調査研究を進める。				
教育研究グループの組織率					
経年経過	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	20.0%	21.7%	18.3%	18.4%	17.2%
R5 指導の 重点 【28 頁】		種別	具体的取組【D1】	評価【C1】	
	1	継続	教育研究グループ研究交流会の開催	○	
	2	新規	各部の『活動報告』を職員用 iPad で閲覧	○	
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	1		6 部会が活動報告をもとに発表し講師より講評や助言をいただき今後の方向		

		性も示唆された。研修内容は後日動画配信し、多くの研究員や教職員が視聴できる機会を設けた。
	2	全部会で学習指導案と共に授業実践が紹介され検証した内容も講師より大きな評価をいただいた。
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】	
改善策等 (R7 向)	課題についての対策（案）【A】	期待効果

69	ICTを活用した指導力の向上		担当課	教育研修所	
目標値	「教育効果を上げるために、コンピュータやインターネットなどの利用場면을計画して活用することができる」と回答する教職員の割合 (教職員のICT活用指導力チェックリスト【文部科学省】)				
取組内容 基本計画 P【56頁】	教職員の授業力向上に向けデジタル技術の活用力を高める研修を実施し、タブレット端末・大型モニタ等のICT機器の活用を促進する。あわせて、児童生徒が情報を適切に扱えるよう情報モラルに関する指導力向上を図る。また、ホームページの作成、校務支援ソフトの活用、教科書事務等に係る実務研修を行い校務の効率化を図る。				
	「教育効果を上げるために、コンピュータやインターネットなどの利用場면을計画して活用することができる」と回答する教職員の割合 (教職員のICT活用指導力チェックリスト【文部科学省】)				
経年経過	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	73.0%	83.4%	83.5%	84.1%	88.7%
R5 指導の 重点 【28頁】		種別	具体的取組【D1】		評価【C1】
	1	継続	GIGAスクール構想を受けて整備されたICT機器等の活用		○
	2	継続	総合学習ソフト「ミライシード」の活用		○
	3	継続	情報教育の推進		○
	4	継続	「ICTを活用した教材研究・指導の準備・評価」「授業中にICTを活用した指導」「児童生徒のICT活用の指導」等、教員の指導力の向上の推進		○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	1	全国学調で、「前年度までに授業でPC、タブレット等のICT機器を使用した」と回答した児童生徒の割合が増加			
	2	デジタルドリルの活用による個別最適な学び、学習ソフトによる意見の可視化での協働的な学びを進めている。			
	3	「教育効果を上げるために、コンピュータやインターネットなどの利用場면을計画して活用することができる」と回答する教職員の割合が増加			
	4	「教育効果を上げるために、コンピュータやインターネットなどの利用場면을			

	計画して活用することができる」と回答する教職員の割合が増加	
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】	
改善策等 (R7 向)	課題についての対策（案）【A】	期待効果

### (3) 教職員の働き方改革

教職員の働き方改革の目的は、教育の質の向上です。教職員の勤務時間の適正化に向けた取組や校務におけるデジタル技術の活用を推進するとともに、教職員一人一人のメンタルヘルスの意識改革をするなど、学校における働き方改革を推進します。

さらに、これまでの働き方を見直し、自らの技量を磨くとともに、ワークライフバランスの充実につなげ、日々の質や教職員人生を豊かにして、自らの人間性や創造性を高められる、教職員にとって働きがいのある学校づくりを進め、子どもたちに対してよりよい教育活動を行うようにします。

#### 【主な取組】

70	<b>勤務時間適正化の推進</b>	担当課	教育総務課	
取組内容 基本計画 P【57頁】	勤務時間の適正化推進委員会を組織し、各学校の業務量の見直しの取組についての情報を共有し、各学校や地域の実情を踏まえた取組を進める。また、定時退勤日やノー部活デーの完全実施、自動応答メッセージ機能付留守番電話の導入など校務の負担軽減に向けた取組等、対策を講じていく。			
R5 指導の 重点 【29頁】		種別	具体的取組【D1】	評価【C1】
	1	継続	勤務時間適正化推進委員会（年3回）の開催	◎
	2	継続	ワーク・ライフ・バランスの推進	○
	3	継続	専門家による研修会の実施	△
	4	継続	定時退勤日（マイ定時退勤日含む）、ノー会議デー、ノー部活デーの完全実施	○
	5	継続	留守番電話（自動応答メッセージ型）を全校導入済 適切な運用の徹底	○
	6	継続	書類の簡素化	○
特筆すべき 取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】			
	1	勤務時間適正化推進委員会を年3回実施し、委員から意見を聴取するとともに、課題となる状況等を把握し今後の取組について協議することができた。		
	2	学校訪問を行うことにより、勤務時間の適正化と学校業務改善の進捗状況を確認し、今後の方針を協議できた。また、学校教職員安全衛生協議会を年3回実施し、教職員の安全及び健康を確保するとともに、各学校が快適な職場環境となるよう推進できた。		
	4	定時退勤日（マイ定時退勤日含む）、ノー会議デー、ノー部活デーの完全実施に努めるよう推進できた。		
	5	令和4年度から全校へ導入しており、適切に運用できた。		
	6	押印を廃止し、電子化を進めるなど書類の簡素化に努めた。		
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】			
	3	他の研修との調整がつかず、専門家による研修会を開催することはできなかったが、各学校の実情に合わせて研修を行うよう呼びかけた。		

改善策等 (R7 向)	課題についての対策 (案) 【A】		期待効果
	3	学校の夏季休業中に「学校の働き方改革」をテーマに研修を計画している。	教職員の意識改革

7 1	<b>校務におけるデジタル技術の活用推進</b>	担当課	教育研修所	
取組内容 基本計画 P【57 頁】	出欠情報や成績情報などの一元管理、電子化を行う校務支援システムの充実を図る。また、教職員間の情報共有やオンライン会議の開催により、校務の効率化を進め、子どもと向き合うための時間を確保するとともに、教職員の負担の軽減を図る。			
R5 指導の 重点 【29 頁】		種別	具体的取組 【D1】	評価 【C1】
	1	継続	校務の情報化の推進	○
	2	継続	校務支援システムバージョンアップ	○
	3	拡大	グループウェアおよび校内共有データ、市内共有データ、クラウドの共有ドライブを活用した情報交換と情報共有の推進	○
	4	継続	総合健康管理ソフトの運用による子どもの健康データの管理	△
	5	継続	Web 会議ツールや研修動画配信の活用によるオンライン会議や研修の充実	○
	6	新規	アンケートの電子化	○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容 (成果) 【D2】			
	1	校務支援システムや汎用クラウドを活用に関する研修会を実施		
	2	校長会等の意見を参考にバージョンアップを検討・実施		
	3	汎用クラウドを活用した情報共有を推進		
	5	オンラインによる研修会を実施		
	6	電子アンケートに係る研修会を実施		
課題等	上記具体的取組に関する主な課題 (主な原因) 【C2】			
	4	校務支援システムと総合健康管理ソフトが別システムで稼働しているため、データを一元管理できない。		
改善策等 (R7 向)	課題についての対策 (案) 【A】		期待効果	
	4	校務支援システムと総合健康管理ソフトを同一システムとする。	データの一元管理	

7 2	<b>教職員のメンタルヘルスの保持増進</b>	担当課	教育総務課	
取組内容 基本計画 P【57 頁】	教職員の心身の健康管理に配慮するとともに、研修や相談体制の充実を図ることで、教職員の精神・神経系疾患を未然に防止する。また、ストレスチェックの実施率を上げ、セルフケアやラインケアの推進、高ストレス者へのサポートを行う。			
R5 指導の 重点		種別	具体的取組 【D1】	評価 【C1】
	1	継続	メンタルヘルス研修の実施	○

【29 頁】	2	継続	ストレスチェック（年 2 回）の実施	○
	3	継続	長時間勤務者に対する産業医等による面接指導の推進	○
	4	継続	臨床心理士による「こころの健康相談」の開催	○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】			
	1		三田市主催の研修に教育委員会が共催し、ストレス対処能力の向上とメンタルヘルス疾患の防止を目的とし、睡眠と心身の健康の関わりについて動画視聴により学ぶ研修を実施した。	
	2		年 2 回ストレスチェックを実施し、全教職員が積極的にセルフチェックに努められるよう推進できた。	
	3		記録簿で長時間勤務者の把握し、学校長と連携し産業医等による面接指導の推進に努めた。	
	4		教職員の心の健康状態を把握し、三田市主催の臨床心理士による「こころの健康相談」を受けられるよう推進できた。	
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】			
改善策等 (R7 向)	課題についての対策（案）【A】			期待効果

### 【指標】基本施策 7 信頼される学校づくりの推進

指 標	実績 (令和 5 年度)	目標 (令和 8 年度)	進捗 状況
学校ホームページの年間アクセス数が家庭数の 3 倍以上（月平均）の学校数	26 校	小中特別支援学校全校	○
教育研修所で研修した教員数（年間延べ人数）※オンライン研修を含む	3,677 人	2,000 人	◎
「研修内容を今後の指導に役立てたい」と回答した教職員の割合（三田市教育研修所に関するアンケート）	99.2%	85%	◎
教育研究グループの組織率	全教職員の 17.8%	全教職員の 20%以上	×
「教育効果を上げるために、コンピュータやインターネットなどの利用場面を計画して活用することができる」と回答する教職員の割合（教職員の ICT 活用指導力チェックリスト【文部科学省】）	88.7%	100%	△
ICT 支援員の数	3 人	7 人(4 校に 1 人)	▼

※進捗状況 「◎」目標を達成(100%以上)、「○」目標に向け順調に進捗している(目標進捗率 90%以上 100%未満)、「△」目標に向け概ね順調に進捗している(目標進捗率 70%以上 90%未満)、「▼」目標に向け順調に進捗していない(目標進捗率 70%未満)、「×」令和 3 年度実績を下回っている、「-」調査対象外

## 基本施策 8 地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり

### (1) 学校・家庭・地域の連携と協働

学校・家庭・地域が相互に連携し、それぞれの役割を果たす中で、子どもの成長を支える活動を推進するとともに、校区の実情に合ったコミュニティ・スクールを充実させていきます。

また、青少年の健全育成や世代間交流、体験活動等、学校・家庭・地域・関係機関等との連携により、子どもの育成活動を推進します。

#### 【主な取組】

73	★学校・家庭・地域の連携による事業の推進		担当課	子ども育成課		
目標値	★学校支援ボランティアの年間延べ活動日数					
取組内容 基本計画 P【60頁】	学校支援ボランティアや放課後子ども教室を地域や学校に周知し、未来を担う子どもの成長を地域と学校が連携・協働して、地域全体で支えていく活動を推進する。					
<b>★学校支援ボランティアの年間延べ活動日数</b>						
経年経過	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
	3,424日	2,608日	3,252日	4,414日	4,984日	
学校支援ボランティア登録者数						
経年経過	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
	411人	489人	443人	438人	465人	
活動ボランティア数						
経年経過	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
	20,275人	17,985人	32,387人	18,195人	30,277人	
こうみん未来塾開催状況						
経年経過	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
	回数	39回	34回	26回	39回	38回
①	人数	1,053人	882人	798人	870人	1,035人
	回数	9回	6回	9回	14回	19回
②	人数	506人	217人	323人	563人	843人
	回数	12回	13回	22回	27回	33回
③	人数	2,139人	1,405人	1,570人	1,886人	1,094人
	回数	/			1回	1回
④	人数	/			2,302人	2,267人
	回数	/			34回	24回
⑤	人数	/			2,411人	1,711人
	回数	60回	53回	57回	115回	115回
合計	人数	3,698人	2,504人	2,691人	8,032人	6,950人

講座	① 地域が主役コース、②地域でお試しコース、③全市版みんなで体験コース、 ④ サイエンスフェスティバル ⑤学校向けプログラム			
R5 指導の 重点 【31 頁】		種別	具体的取組【D1】	評価【C1】
	1	継続	学校支援活動促進事業	◎
	2	継続	放課後子ども教室推進事業	○
	3	継続	こうみん未来塾（地域版）	○
特筆すべ き取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】			
	1	学校からの支援に対するニーズの高まりと地域の活動への関心向上		
	2	地域の実情や子どもの環境に沿った活動内容の多様化		
	3	開催日数及び参加者数は一定数で安定		
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】			
改善策等 (R7 向)	課題についての対策（案）【A】			期待効果

7 4	コミュニティ・スクールの充実	担当課	学校教育課	
取組内容 基本計画 P【60 頁】	地域ぐるみで子どもの育ちを支えるコミュニティ・スクールをさらに充実し、家庭・地域との持続的な連携と協働による「社会に開かれた教育課程」の実現を図る。また、地域学校協働活動との一体的推進により、地域とともにある学校づくりを推進する。			
R5 指導の 重点 【31 頁】		種別	具体的取組【D1】	評価【C1】
	1	拡大	法に基づくコミュニティ・スクールへの移行 (小学校 19 校、中学校 7 校、特別支援学校 1 校)	○
	2	継続	法に基づくコミュニティ・スクール先行研究 (小学校 1 校、中学校 1 校 2 年目)	○
	3	継続	小規模特認校支援事業（母子小学校）	○
特筆すべ き取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】			
	1	教育委員会規則に基づいて全 29 校の移行を完了し、連携と協働の活性化のきっかけとした。		
	2	先行研究の成果や課題解決の取組について研修会等を通して還元し、各校の実践の活性化に貢献した。		
	3	特認校支援事業を実施し、放課後子ども教室を実施した。		
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】			
改善策等 (R7 向)	課題についての対策（案）【A】			期待効果

75	PTA活動の支援		担当課	学校教育課
取組内容 基本計画 P【61頁】	本市内の各PTAが一層充実した活動を展開できるよう継続的な研修の実施を支援するとともに、定期的な情報提供や意見交換を行うなど、家庭での子どもたちの心身の健全育成に向けた取組の充実を支援する。			
R5指導の 重点 【32頁】	種別	具体的取組【D1】		評価【C1】
	1	継続	三田市PTA連合会代表者会（情報交換会）を開催	○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】			
	1	年間2回の情報交換会を実施し、各PTAの取り組みについて情報交換することができた。		
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】			
改善策等 (R7向)	課題についての対策（案）【A】			期待効果

76	地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」の推進		担当課	学校教育課
目標値	「来年度以降も、協力したい」と答える事業所の割合 (地域も学ぶ「トライやる・ウィーク」の実施に関するアンケート調査)			
取組内容 基本計画 P【61頁】	学校・家庭・地域が育てたい力を共有しそれぞれの役割を果たすことにより豊かな感性や創造性、自ら考え主体的に行動し問題を解決する力を育む。また、「トライやる」アクション等において、生徒が地域で活躍し、貢献することによりふるさと意識の醸成を図る。			
	「来年度以降も、協力したい」と答える事業所の割合 (地域も学ぶ「トライやる・ウィーク」の実施に関するアンケート調査)			
経年経過	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	91.7%	実施なし	96.2%	97.2%
R5指導の 重点 【32頁】	種別	具体的取組【D1】		評価【C1】
	1	継続	トライやる・ウィーク推進事業（県事業）	○
	2	継続	三田市トライやる・ウィーク推進協議会及び三田市トライやる・ウィーク検討委員会の開催	○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】			
	1	学校・家庭・地域が連携し、生徒の主体性や問題を解決する力を育むができた。		
	2	地域全体で子どもの教育に関心を持ち、教育活動に参画する契機となった。		
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】			
改善策等 (R7向)	課題についての対策（案）【A】			期待効果

77	<b>★子どもたちが安心して過ごせる地域づくりの推進</b>	担当課	子ども育成課	
取組内容 基本計画 P【61頁】	学校・家庭・青少年健全育成関係団体等の地域が連携し、地域全体での見守り活動や声掛けなどにより、子どもたちが健やかに成長し、安心して過ごせる地域づくりを進める。また、デジタル技術が急速に進展する社会において、子どもたちが安全にかつ適切にインターネットを利用できるよう啓発を進める。			
R5 指導の 重点 【32頁】		種別	具体的取組【D1】	評価【C1】
	1	継続	青少年補導員による街頭補導・啓発活動	○
	2	継続	有害図書類の回収	○
	3	継続	地域青少年健全育成推進事業補助	○
	4	継続	青少年問題協議会の開催	△
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】			
	1	各地域における青少年補導員の巡回等が非行防止の啓発につながった。		
	2	白ポストにより有害図書類を回収した。		
	3	コロナ禍の収束を受け、各地域で事業が実施された。		
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】			
	4	令和4年度の協議会の結果を受け、こども110番の家の普及とSNSトラブルの防止について取り組みを推進したが、協議会自体の開催は見送った。		
改善策等 (R7向)	課題についての対策（案）【A】			期待効果
	4	令和6年度に協議会を開催し、取り組みの成果についての報告と今後に向けた取り組み方針を議論する予定。		多方面からの意見の聴取

78	<b>余裕教室の活用</b>	担当課	教育総務課	
取組内容 基本計画 P【61頁】	学校の余裕教室を活用し、地域の大人が子どもに関心を持ち、世代間の交流を深め、学校と地域の連携を図るとともに、良好な地域コミュニティづくりに向けた取組を推進する。 また、地域イニシアチブ制度に基づく余裕教室について、学校、地域等との連携を図り有効活用していく。			
R5 指導の 重点 【32頁】		種別	具体的取組【D1】	評価【C1】
	1	継続	市民へ余裕教室活用の周知	○
	2	継続	余裕教室ガイドラインに基づき指定校を市ホームページに掲載	○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】			
	1	ホームページに公表し周知を図った。		
	2	つつじが丘小学校を指定し、ホームページに掲載した。		
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】			
改善策等 (R7向)	課題についての対策（案）【A】			期待効果

79	<b>★新・放課後子ども総合プランの推進</b>		担当課	子ども育成課	
取組内容 基本計画 P【61頁】	子どもが放課後等を安全・安心に過ごし、多様な体験活動等を行うことができるよう放課後児童クラブと放課後子ども教室の連携を推進する。				
目標値	<b>★放課後子ども教室の年間延べ開催日数</b>				
<b>★放課後子ども教室の年間延べ開催日数</b>					
経年経過	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	1,481日	1,042日	918日	1,355日	1,377日
放課後児童クラブ利用者数（15小学校区 31クラブ）					
経年経過	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	981人	1,025人	985人	1,035人	1,036人
放課後子ども教室（委託事業）					
経年経過	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
開催校区	16小学校区	15小学校区	15小学校区	15小学校区	16小学校区
開催日数	1,481日	1,042日	918日	1,355日	1,377日
活動者	6,796人	4,285人	4,111人	5,965人	6,028人
参加者	26,520人	15,074人	13,584人	22,978人	25,813人
R5指導の 重点 【32頁】	種別	具体的取組【D1】			評価【C1】
	1	継続	放課後児童クラブ		○
	2	継続	放課後子ども教室		○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	1	同一小学校内で開催される子ども教室への参加			
	2	地域の実情や子どもの環境に沿った活動の多様化及び児童クラブとの連携			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】				
改善策等 (R7向)	課題についての対策（案）【A】				期待効果

## (2) 家庭・地域の教育支援

子育てやしつけについて学ぶ機会や様々な悩みや心配事への相談体制を充実するとともに、多世代交流の場を提供することで家庭の教育力の向上を図ります。

また、子どもの権利を守るため、地域における人権研修や学習機会を充実することで、子どもの人権やいのちの大切さについてより多くの市民が理解を深めることができるよう努めます。

### 【主な取組】

80	<b>★家庭教育学級の充実</b>		担当課	子ども育成課	
取組内容 基本計画 P【62頁】	子どもを中心に、保護者どうしが交流を深め、自らの学びの機会や地域参画への機会と位置づけ、家庭・地域の教育力の向上に努める。				
家庭教育学級の実施状況					
経年経過	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
実施校区	15校	8校	13校	16校	17校
講座数	65講座	19講座	24講座	31講座	45講座
フォーラム	2回	3回	2回	1回	2回
R5指導の 重点 【33頁】	種別	具体的取組【D1】			評価【C1】
	1	継続	家庭教育充実事業（家庭教育学級事業補助、合同運営委員会の開催、合同フォーラム（全市版）の開催など）		
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	1	保護者同士の学びと交流に加え、学校教師の参画・定着も見られた			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】				
改善策等 (R7向)	課題についての対策（案）【A】				期待効果

81	<b>★子育て世帯に対する包括的な支援のための体制強化及び事業の拡充</b>		担当課	子ども家庭課	
取組内容 基本計画 P【62頁】	家庭児童相談室に設置する「三田市子ども家庭総合支援拠点」を中心に、子育てする上での様々な悩みや心配事等の養育相談の充実を図る。また、要保護児童対策地域協議会、保健及び福祉、教育における関係機関との連携強化を図り、養育支援を必要とする家庭を早期に発見し、速やかに必要なサービスや地域リソースに有機的につなぐなど適切な支援の充実を図る。				
R5指導の 重点 【33頁】	種別	具体的取組【D1】			評価【C1】
	1	新規	子ども家庭センターの設置		◎
	2	継続	家庭児童相談（24時間・365日対応）		◎
	3	新規	要支援家庭等へのサポートプランの作成		○

	4	新規	未就園児等全戸訪問・アウトリーチ事業	◎
	5	新規	要支援家庭への家事ヘルパー派遣事業	◎
	6	継続	親子関係形成支援事業（ペアレントトレーニング等）	◎
	7	拡充	子育て負担軽減事業（レスパイト利用のための子育てショートステイ等）	◎
	8	継続	要保護児童地域対策協議会の運営	◎
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果物）【D2】			
	1	子ども家庭センター設置により、母子保健機能と児童福祉機能の一体的相談体制を作ることができた。		
	2	1, 287件の家庭児童相談に応じることができた。		
	3	妊産婦向けサポートプランについては、ガイドラインに沿って見直しを行った。要支援家庭等へのガイドラインは、令和6年3月に改正されることとなった為、改正以降作成・手交に取り掛かる。		
	4	対象者全員の状況把握を行うことができた。		
	5	要支援家庭への家事ヘルパーを調整し、支援を行うことができた。		
	6	延べ300人以上を対象にペアレントトレーニングを実施することができた。		
	7	利用体制を整えることができた。		
	8	昨年に引き続き関係機関との連携を行うことができた。		
課題等	上記具体的施策に関する主な課題（主な原因）【C2】			
改善策等 (R7 向)	課題についての対策（案）【A】			期待効果

82	<b>★青少年相談の充実</b>		担当課	子ども育成課	
取組内容 基本計画 P【62頁】	青少年期における友人関係や学校生活、進路、親子関係等の悩みについて、解決に向けての相談業務を行う。学校や関係機関との連携を強化して、より適切な対応や健全な心の成長に関する支援の充実を図る。				
青少年相談件数					
経年経過	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	217件	129件	214件	167件	199件
R5 指導の 重点 【33頁】	種別	具体的取組【D1】			評価【C1】
	1	継続	青少年相談事業		○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	1	不登校に関する相談が大半を占め、民間支援者との連携を深めたことにより、相談者への情報提供等を強化した。			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】				
改善策等	課題についての対策（案）【A】			期待効果	

(R7 向)		
--------	--	--

<b>8 3</b>	<b>★世代間交流活動の支援</b>	担当課	子ども政策課
取組内容 基本計画 P【62頁】	若い世代やシニア世代等が集う「多世代交流館シニア・ユースひろば」で、中高生が乳幼児とその保護者との交流を通じ、家庭や子育ての大切さを学ぶ機会を提供する。 また、小中高生と、同世代から高齢者までの多様な世代や地域ボランティアとの交流を促進する事業の実施とひろばの運営を行う。		
R5 指導の 重点 【34頁】	種別	具体的取組【D1】	評価【C1】
	1 継続	多世代交流館シニア・ユースひろば	○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】		
	1	夏休みに小学生児童 28 人を対象に、自主学习、絵画教室、調理実習、認知症サポーター養成講座、工作などの事業を実施し、高校生から高齢者まで 14 人のボランティアが参加し交流した。	
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】		
改善策等 (R7 向)	課題についての対策（案）【A】		期待効果

<b>8 4</b>	<b>★子どもの人権やいのちの大切さの啓発</b>	担当課	人権共生推進課
取組内容 基本計画 P【63頁】	子どもの人権やいのちの大切さの理解を深めるため、「三田幸せプロジェクト」において、「子どもの人権について考える」分科会の設置など子どもの自尊感情を育み人権を尊重する研修の充実に取り組む。		
R5 指導の 重点 【34頁】	種別	具体的取組【D1】	評価【C1】
	1 拡充	「三田幸せプロジェクト」において、「子どもの人権について考える」分科会の設置	○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】		
	1	分科会：子どもの人権について考える「地域ぐるみで子どもの居場所づくりを～子ども食堂の取り組みを通して～」を実施。参加者数 143 人	
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】		
改善策等 (R7 向)	課題についての対策（案）【A】		期待効果

<b>8 5</b>	<b>★人権に関する研修や学習機会の充実</b>	担当課	人権共生推進課
取組内容 基本計画 P【63頁】	部落差別をはじめ、あらゆる差別を解消し、誰もが幸せと感じる人権尊重のまちを実現するため、「人権と共生社会を考える市民のつどい」や地域で市民参画の啓発講座等の充実に図るとともに、性的マイノリティ等の新たな課題についての啓		

	発に取り組む。				
「人権と共生社会を考える市民のつどい」の開催状況					
経年経過	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	376人	中止	482回(オンライン開催)	176人(オンライン415回)	211人
性的マイノリティ研修の受講者状況					
経年経過	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	なし	なし	482人(市民のつどいにて開催)	14人	21人
R5 指導の 重点 【34頁】	種別	具体的取組【D1】			評価【C1】
	1	継続	「人権と共生社会を考える市民のつどい」の開催		○
	2	継続	「人権啓発企画講座」の充実		○
	3	継続	性的マイノリティ支援の具体的取り組み		○
	4	継続	人権に関する相談窓口の充実		○
	5	継続	インターネット差別書き込みモニタリング等の取り組み		○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容(成果)【D2】				
	1	部落差別に関する講演や、市内小・中・高校生による人権作文発表を実施			
	2	4講座を開催。参加者数のべ155人			
	3	人権啓発誌「人権さんだ10月号」で、特集「性はグラデーション」を掲載			
	4	くらしの人権相談を実施。令和5年度相談件数271件			
	5	モニタリング実施回数66回。削除依頼件数8件、うち削除済5件			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題(主な原因)【C2】				
改善策等 (R7向)	課題についての対策(案)【A】				期待効果

### 【指標】基本施策8 地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり

指標	実績 (令和5年度)	目標 (令和8年度)	進捗 状況
学校支援ボランティアの年間延べ活動日数	4,984日	4,350日	◎
「来年度以降も、協力したい」と答える事業所の割合(地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」の実施に関するアンケート調査)	97.2%	95.0%	◎
放課後子ども教室の年間延べ開催日数	1,377日	2,040日	△

※進捗状況 「◎」目標を達成(100%以上)、「○」目標に向け順調に進捗している(目標進捗率90%以上100%未満)、  
「△」目標に向け概ね順調に進捗している(目標進捗率70%以上90%未満)、「▼」目標に向け順調に進捗していない(目標進捗率70%未満)、「×」令和3年度実績を下回っている、「-」調査対象外

## 基本施策 9 子どもと大人の「学び」が循環する関係づくり

### (1) 学習成果を活かす仕組みづくり

青少年期からの自主的な「学び」を支援するとともに、地域の大人が培ってきた学習の成果を子どもたちに活かすため、地域人材の育成や仕組みづくりに取り組み、循環型の生涯学習社会の実現をめざします。

#### 【主な取組】

86	<b>★子どもの育ちを支える社会教育施設等の活用</b>			担当課	文化スポーツ課
取組内容 基本計画 P【64頁】	地域の生涯学習の拠点としての社会教育施設等を積極的に活用し、市民の自主的な学びを支援しながら、地域の人材育成を推進するとともに学びの成果が次世代に還元されるよう仕組みづくりを進める。				
施設来場者数					
経年経過	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
有馬富士	112,438人	65,996人	74,253人	75,947人	89,244人
野外活動	31,075人	27,969人	29,747人	32,744人	(上半期)23,897人
ガラス館	11,271人	8,417人	10,166人	14,540人	13,668人
R5 指導の 重点 【35頁】		種別	具体的取組【D1】		評価【C1】
	1	継続	野外活動センターの運営（野外活動を通じて自然に親しむ場を子どもたちに提供）		○
	2	継続	有馬富士自然学習センターの運営（自然と親しみ学ぶことで、ふるさと意識を高める）		○
	3	継続	ガラス工芸館の運営（子どもの文化教育のため創作活動の場を提供）		○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	1	自然体験プログラムを実施し、多くの参加者に自然に触れる機会を提供（なお、令和5年度はつどい橋の改修工事があり、4月～9月の開所であった。）			
	2	来館者向けのワークショップや学校向けプログラムの実施、ジュニアスタッフ等の人材育成を実施。			
	3	季節等に応じた子ども向けの講座を実施			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】				
改善策等 (R7向)	課題についての対策（案）【A】				期待効果

87	<b>★子どもの読書活動や調べ学習を支援できる人材育成の推進</b>			担当課	文化スポーツ課
取組内容	図書館を拠点に、ボランティア希望者、保護者、学校関係者等を対象として、子				

基本計画 P【64頁】	どもの読書活動や調べ学習を支援できる人材の育成に取り組む。			
R5 指導の 重点 【35頁】		種別	具体的取組【D1】	評価【C1】
	1	継続	市立図書館の運営（小・中学生、大人別の「調べる学習教室」を開催）	○
	2	継続	生涯学習カレッジの運営	—
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】			
	1		調べる学習コンクール作品の作成にあたり、調べ学習の方法やレポート作成の方法の助言を行った。	
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】			
	2		読書クラブを選択する受講生がおらず開講できなかった	
改善策等 (R7 向)	課題についての対策（案）【A】			期待効果
	2		読書クラブの魅力をアピールし参加勧誘に努める	再開講できる

88	<b>★三田の自然を学び、活用するジュニアスタッフの育成</b>		担当課	文化スポーツ課
取組内容 基本計画 P【64頁】	県立有馬富士公園の豊かな自然環境を活かし、人と自然の博物館と連携した、自然を学び活用するジュニアスタッフの育成を進める。			
R5 指導の 重点 【35頁】		種別	具体的取組【D1】	評価【C1】
	1	継続	三田市生涯学習サポートクラブによる子ども向け体験学習（カモン・キッズ）	○
	2	継続	有馬富士自然学習センターの運営（三田市有馬富士自然学習センターの仕事を体験しながら自然について学ぶジュニアスタッフを育成）	○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】			
	1		木工体験講座を実施。	
	2		生き物調査、展示物の制作、ワークショップの準備・実施等を月1回行った。	
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】			
改善策等 (R7 向)	課題についての対策（案）【A】			期待効果

## (2) 多様な学習機会の創出

子どもたちに様々な学びと体験の機会を提供することで、「科学技術に親しみを感じる子」、「グローバルに活躍する気概をもつ子」、「チャレンジ精神旺盛な子」の育成を推進します。

また、地域の豊富な物的・人的な学習資源を積極的に活用し、多様な学習機会を創出することで、地域の自然、歴史・文化や芸能活動に親しみ、理解を深め、ふるさとを愛する心をもつ子どもを育てます。

### 【主な取組】

89	<b>★「こうみん未来塾」の推進</b>		担当課	子ども育成課	
目標値	<b>★こうみん未来塾探究コースの小中学生の年間修了者数</b>				
取組内容 基本計画 P【65頁】	本市の豊かな教育資源・地域資源（大学、博物館等）とデジタル技術を活かし、子どもたちが本物にふれる機会をもてる「こうみんプログラム」を通して、子どもたちの探究心を刺激する体系的で連続した学びを創出し、感性や好奇心、創造力を育み、新しい発想をもって活躍できる力を育成する。				
<b>★こうみん未来塾探究コースの小中学生の年間修了者数</b>					
経年経過	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	新規指標			45人	36人
R5指導の 重点 【36頁】	種別	具体的取組【D1】			評価【C1】
	1 継続	こうみん未来塾の実施（全市版・探究コース・さんだサイエンスフェスティバル）			○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	1	知識の享受～発表まで一連の学びの充実した体験を提供			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】				
改善策等 (R7向)	課題についての対策（案）【A】				期待効果

90	<b>★地域の伝統文化の継承の推進</b>		担当課	文化スポーツ課	
取組内容 基本計画 P【65頁】	子どもたちに地域の伝統芸能などへの理解を進め、「知り・守り・育てる」機会を創出する。伝統文化の継承を進め、周知することでふるさと意識の醸成を図る。				
郷土学習プログラムの運営状況					
経年経過	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
出前講座		64人（1校）	64人（1校）	219人（3校）	194人（3校）
出前展示		3回（3校）	2回（2校）	2回（2校）	2回（2校）
R5指導の 重点	種別	具体的取組【D1】			評価【C1】
	1 継続	郷土学習のプログラム運営（出前講座・郷土学習など）			○

【36 頁】			
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】		
	1	小学校の要請により、川本幸民や戦争、三田藩陣屋等について出前講座を実施した。	
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】		
改善策等 (R7 向)	課題についての対策（案）【A】		期待効果

9 1	<b>★歴史資料を活用した体験学習の推進</b>		担当課	文化スポーツ課	
取組内容 基本計画 P【65 頁】	市の所蔵する数多くの歴史資料を活用し、文化財施設や学校への出前講座・展示、体験学習を通じて、ふるさと意識や郷土への愛着心を育む機会を提供する。				
ふるさと学習館、旧九鬼家住宅資料館					
経年経過	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
来館	1,279 人(19 校)		346 人(6 校)	404 人 (8 校)	382 人 (7 校)
アウトリーチ		471 人(2 校)	290 人(4 校)	実施なし	実施なし
体験学習（三輪明神窯史跡園）					
経年経過	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
来館	427 人(30 回)	145 人(14 回)	92 人(10 回)	156 人(13 回)	138 人(5 回)
アウトリーチ	2,266 人(51 回)	1,260 人(30 回)	1,343 人(36 回)	1,134 人(38 回)	606 人(10 回)
R5 指導の 重点 【36 頁】	種別	具体的取組【D1】			評価【C1】
	1	継続	ふるさと学習館、旧九鬼家住宅資料館、三輪明神窯史跡園の運営（文化財の展示・出土品の公開・体験学習の実施など）		△
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	1				
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】				
	1	施設見学やアウトリーチは小学校主体の事業のため、小学校の事情等により来館者数、参加者数が増減する。			
改善策等 (R7 向)	課題についての対策（案）【A】			期待効果	
	1	校長会で施設案内やアウトリーチ等の事業内容について周知する。(R6 年度向から)		小学校の利用が増加する。	

9 2	<b>★有馬富士自然学習センターを活用した学校教育支援</b>		担当課	文化スポーツ課	
取組内容 基本計画 P【65 頁】	県立有馬富士公園の豊かな自然環境を活かし「有馬富士公園生態園（林の生態園・草地の生態園・水辺の生態園）」を学習の場とする学校教育支援を進める。				

有馬富士自然学習センタースクールサポート事業プログラム運営の参加者数											
経年経過	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		
		2,030人		1,615人		1,103人		1,913人		2,082人	
R5 指導の重点【36頁】	種別	具体的取組【D1】								評価【C1】	
	1	継続	有馬富士自然学習センタープログラム運営（県立人と自然の博物館のプログラム事業において、有馬富士公園内のフィールドワークを実施）								○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】										
	1	来館者向けのワークショップや学校向けプログラムの実施、ジュニアスタッフ等の人材育成を実施。									
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】										
改善策等（R7向）	課題についての対策（案）【A】									期待効果	

93	★図書館を通じた「学び」の支援の推進		担当課	文化スポーツ課								
目標値	★図書館見学及び移動図書館サービス（定期巡回以外）を利用した小中学校の数											
取組内容基本計画P【66頁】	子どもたちに本に親しむ機会や自主的な学びを行えるよう資料の提供及び人的支援を行う。また、調べる学習コンクールやイベントの開催、電子図書館の活用、移動図書館による館外サービスの実施等、多様な読書活動の機会づくりを行う。											
★図書館見学及び移動図書館サービス（定期巡回以外）を利用した小中学校の数												
経年経過	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度			
	4校		1校		2校		2校		3校			
R5 指導の重点【37頁】	種別	具体的取組【D1】								評価【C1】		
	1	継続	市立図書館の運営								○	
	2	継続	子どもの読書活動支援								○	
	3	継続	「図書館を使った調べる学習コンクール」三田市大会の開催								○	
	4	継続	図書への団体貸出の推進								○	
	5	継続	移動図書館を活用した、学校支援活動の充実								○	
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】											
	1	本館、ウッディタウン分館、藍分室、移動図書館において児童書の貸出、イベント等を実施し、子どもの読書支援、読書機会づくりを行った。										
	2	おはなし会、児童書の展示、イベント等を実施。										
	3	コンクール開催とともに、作品制作を支援する調べる学習教室を実施。										
	4	学校における調べ学習や地域等における読書活動を推進するため、1団体200冊2カ月の団体貸出を実施。										
	5	移動図書館で学校を訪問し、おはなし会や本の貸出を実施。										

課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】	
改善策等 (R7 向)	課題についての対策（案）【A】	期待効果

9 4	<b>★総合文化センターでの文化芸術の普及・育成の推進</b>		担当課	文化スポーツ課	
目標値	<b>★学校訪問コンサート（アウトリーチ活動）を利用した小学校</b>				
取組内容 基本計画 P【66 頁】	総合文化センターでは、学校等において、文化芸術の鑑賞機会を設ける（アウトリーチ活動）ことで学齢期からの豊かな人間性を育む機会を創出する。				
<b>★学校訪問コンサート（アウトリーチ活動）を利用した小学校</b>					
経年経過	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
	19 校	18 校	17 校	19 校	19 校
R5 指導の 重点 【37 頁】	種別	具体的取組【D1】			評価【C1】
	1 継続	総合文化センターの運営			○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	1	うち 1 校で国外郭団体と連携した邦楽の学校訪問コンサートを実施した			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】				
改善策等 (R7 向)	課題についての対策（案）【A】			期待効果	

【指標】基本施策 9 子どもと大人の「学び」が循環する関係づくり

指 標	実績 (令和 5 年度)	目標 (令和 8 年度)	進捗 状況
★こうみん未来塾探究コースの小中学生の年間修了者数	36 人	200 人	▼
★図書館見学及び移動図書館サービス（定期巡回以外）を利用した小中学生の数	3 校	7 校	○
★学校訪問コンサート（アウトリーチ活動）を利用した小学校	19 校	小学校全校	○

※進捗状況 「◎」目標を達成(100%以上)、「○」目標に向け順調に進捗している(目標進捗率 90%以上 100%未満)、  
「△」目標に向け概ね順調に進捗している(目標進捗率 70%以上 90%未満)、「▼」目標に向け順調に進捗して  
いない(目標進捗率 70%未満)、「×」令和 3 年度実績を下回っている、「-」調査対象外

(1) 学校の再編

農村部においては学校の小規模化がさらに進行することが予測されます。ニュータウンなどの都市部でも学校の小規模化に伴う課題が顕在化していることから、市全体における学校再編について、一定の考え方を示し、これら課題の解消のため、具体的な手法等も含め保護者、地域と協議していきます。また、小中一貫教育をより効果的に展開する場合の学校の形態として、小中一貫型小学校・中学校や義務教育学校などについても検討を進め、小規模化に伴う課題を解消する方法を幅広く検討していきます。

学校再編に際しては、子どもたちが安全安心に通学できるよう十分配慮するとともに、余裕をもって子どもに教育指導ができる教職員配置を行い、学習指導の充実を図ります。

【主な取組】

95	小中学校再編の推進		担当課	学校再編課・学校教育課
関連	55 市立幼稚園再編の推進【幼児教育振興課】			
取組内容 基本計画 P【68頁】	三田市立学校のあり方に関する基本方針をもとに、児童生徒の教育環境の充実を図るため、保護者や地域住民の意見を踏まえ、小中学校の再編に取り組む。また、小中一貫教育をより効果的に展開する場合の学校の形態として、小中一貫型小学校・中学校や義務教育学校などについても検討を進め、小規模化に伴う課題を解消する方法を幅広く検討していく。			
R5 指導の 重点 【38頁】		種別	具体的取組【D1】	評価【C1】
	1	継続	上野台中学校と八景中学校の統合に伴う、新中学校建設のための候補地について、客観的、専門的な見地から、慎重に検討を進めるため、外部専門機関に調査を委託し、その報告に基づき、内部で絞り込みを行っていく。	○
	2	新規	富士小学校及び弥生小学校再編地域協議会で両校の再編について、保護者や地域と協議していく。	△
	3	継続	その他の校区についても、学校のあり方に関する基本方針（平成30年7月）に示す適正規模（小学校は12～18学級、中学校は9～18学級）に満たない学校を対象に順次、保護者等と協議していく。	△
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】			
	1		上野台中学校と八景中学校の統合に伴う、新中学校建設のための候補地について、R4年度の庁内プロジェクトチームでの検討を経て、R5年度に外部専門機関へ委託し調査を行った。この調査報告を受け、候補地の最終決定に向けて関係機関との調整を開始している。関係機関との事前の相談、協議を経	

		て、見通しを持って地元地権者等へ説明していくことが必要であり、候補地の決定、公表にいたるまでには、なお相当の期間を要すると想定しているが、候補地の早期確定に向け取り組みを進めていく。
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】	
	2	<p>フラワータウンでは、若年層の誘致、子育て層の移住促進など、まちの再生に向けた取り組みが進められてきており、現段階では、その状況を見定める必要があるため、協議を一時中断している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ R5. 2. 1 三田市立富士小学校及び弥生小学校再編地域協議会（第1回全体会）</li> <li>・ R5. 2. 20, 21 地域協議会 第1回部会（各校区 計2回）</li> <li>・ R5. 3. 21～5. 13 説明会実施（計6会場、173人参加）</li> <li>・ R5. 6. 3, 11 地域協議会第2回部会（各校区 計2回）</li> <li>・ R5. 8. 23 地域協議会第3回部会（各校区）開催を延期（一時中断）</li> </ul>
	3	<p>藍、長坂校区においては、両中学校の再編計画の取り下げ以降においても、PTA役員等を中心として、小学校も含めて、小規模な単位での意見交換や学校長への聞き取りなどを継続して実施してきており、今後も引き続き保護者、地域と学校の小規模化に伴う課題を共有し、理解を深めるとともに、今後は、その解消に向けた様々な方策について、幅広く検討していく。</p> <p>また、上野台・八景中学校区の小学校についても、適切な時期に検討を始めしていく。</p>
改善策等 (R7 向)	課題についての対策（案）【A】	
	2	<p>フラワータウン再生の取り組み状況等について保護者、地域住民と情報共有し、改めて、今後の学校のあり方等について検討していく。</p>
	3	<p>学校の小規模化に伴う課題を共有し、理解を深める取り組み等を継続していく。</p>
		期待効果
		学校の小規模化に伴う課題の共有、教育環境の向上

## (2) 安全安心で充実した環境の整備

学校施設について、学校再編の全体像を示す中で、施設の老朽化・劣化状況等も総合的に勘案し、大規模改修等を計画的に行うなど、安全で魅力ある学校施設環境を維持していきます。

また、学校給食施設、設備の保全を図るとともに、児童生徒数の減少に伴う学校給食の提供体制のあり方について検討を進めます。

子どもたちが安全安心に通学ができるよう、三田市通学路交通・防犯安全プログラムに基づき、関係機関等が連携して通学路の合同点検等を実施するなど、通学路の安全性の向上を図ります。また、防犯カメラや警備システム等の活用、地域や関係機関と連携した見守りの推進など、子どもたちの安全を確保する体制の充実に努めます。

新型コロナウイルス感染症の流行により得た経験から、いかなる状況においても子どもたちが持続的に教育を受けることができるよう ICT 機器の整備、充実など、教育環境の整備に取り組みます。

### 【主な取組】

96	学校施設の整備・充実		担当課	教育総務課・幼児教育振興課	
目標値	校舎の洋式便器 1 基あたりの児童生徒数				
取組内容 基本計画 P【69 頁】	学校施設の大規模改修等について、施設の老朽化・劣化状況等も総合的に勘案し、計画的に改修を行う。また、エレベーター、階段手すりの設置やトイレの洋式化等バリアフリー化を進めるとともに、省エネ、防災等にも配慮した施設整備を行う。				
<b>校舎の洋式便器 1 基あたりの児童生徒数</b>					
経年経過	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
女子	15.3 人	14.3 人	14.4 人	12.5 人	11.1 人
男子	21.1 人	20.9 人	20.8 人	19.6 人	17.1 人
R5 指導の 重点 【39 頁】		種別	具体的取組【D1】		評価【C1】
	1	拡大	学校園施設の教育環境改善整備事業 小学校大規模改修工事【R4～5 すずかけ台小：エレベーター工事、R5 三輪小：工事設計、R6～三輪小：工事】、LED 化【R5 武庫小、けやき台小、八景中（アリーナ）】		○
	2	新規	（仮称）三田西認定こども園改修工事		◎
	3	新規	（仮称）三田東認定こども園改修設計		○
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	1		トイレの洋式化工事、すずかけ台小に EV を設置しバリアフリー化を進めた。また、武庫小、けやき台小、八景中（アリーナ）の LED 化を行い省エネ化に取り組んだ。		
	2		市立幼稚園再編計画に基づき、ソフト・ハード両面における環境整備を進めた。		

	3	よりよい保育環境を目指し、検討を進めた。	
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】		
改善策等 (R7 向)	課題についての対策（案）【A】		期待効果

<b>9 7</b>	<b>学校給食施設等の整備・充実</b>	担当課	学校給食課	
取組内容 基本計画 P【70 頁】	持続的で安全安心な学校給食の提供に向け、定期的なメンテナンスに加え、職員による日常点検を実施し、施設設備の保全を図り、良好な状態に保つとともに、児童生徒数の動態等の変化も注視しながら、学校給食施設及び提供体制のあり方について検討を進める。			
R5 指導の 重点 【39 頁】		種別	具体的取組【D1】	評価【C1】
	1	継続	複数人での調理器具、設備等の点検の徹底	○
	2	継続	計画的な施設設備メンテナンスの実施	△
	3	継続	適時に施設整備、及び修繕の実施	△
	4	継続	将来的な給食提供のあり方検討	△
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】			
	1	1人で完結出来る事でも使用した機械を組み立てた後は、必ず他人の手と目視による点検で再確認を行っている		
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】			
	2	竣工後 34 年目を迎える施設であるため、大規模改修を行なうには多額の費用を要するため、今後の施設維持管理のあり方について検討が必要である。		
	3	竣工後 34 年目を迎える施設であるため、大規模改修を行なうには多額の費用を要するため、今後の施設維持管理のあり方について検討が必要である。		
	4	竣工後 34 年目を迎える施設であるため、大規模改修を行なうには多額の費用を要するため、今後の施設維持管理のあり方について検討が必要である。		
改善策等 (R7 向)	課題についての対策（案）【A】		期待効果	
	2	「給食センター基本構想支援等業務委託」に取り組み、学校給食センターのあり方を検討する	施設計画の方向性の決定	
	3	「給食センター基本構想支援等業務委託」に取り組み、学校給食センターのあり方を検討する	施設計画の方向性の決定	
	4	「給食センター基本構想支援等業務委託」に取り組み、学校給食センターのあり方を検討する	施設計画の方向性の決定	

<b>9 8</b>	<b>学校園安全体制の充実</b>	担当課	教育総務課・危機管理課・幼児教育振興課
取組内容 基本計画 P【70 頁】	学校において、災害に備えた適切な施設設備の整備・点検を行うとともに、避難所となる場合の対応を含め、防災体制の充実に努める。 また、犯罪の抑止、万が一の事案発生時の対応のため、学校・幼稚園に設置している防犯カメラの更新、増設など、安全管理に関する施設面の充実を図る。		

R5 指導の 重点 【39 頁】		種別	具体的取組【D1】	評価【C1】
	1	継続	学校園遊具の点検及び整備修繕	○
	2	継続	AED の整備点検	○
	3	継続	地域と連携した防災訓練の実施	○
	4	継続	防災倉庫資機材の維持管理	○
	5	継続	防犯カメラの点検及び更新	◎
特筆すべ き取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】			
	1	全校において遊具点検を行い、不良部分は修繕を行った。		
	2	全校において AED の整備点検を行った。		
	3	市主催の総合防災訓練を地域住民参加のもと志手原小学校で実施		
	4	市指定避難所にある防災倉庫の資機材の整備・点検を実施（40 箇所）		
	5	防犯カメラを幼稚園全園に設置、認定こども園に増設を行った。		
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】			
改善策等 (R7 向)	課題についての対策（案）【A】			期待効果

9 9	登下校時の安全確保	担当課	教育総務課・危機管理課・子ども育成課		
目標値	★こども 110 番の家年度末設置箇所数				
取組内容 基本計画 P【70 頁】	通学路の安全点検や防犯カメラの設置などにより、安全で安心な通学環境の整備を行う。また、学校・PTA・地域・関係機関の連携による見守りを推進するとともに、「こども 110 番の家」の状況を点検し、通学路周辺の家庭や店舗のさらなる登録を推進する。				
★こども 110 番の家年度末設置箇所数					
経年経過	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
	852 箇所	889 箇所	898 箇所	767 箇所	767 箇所
R5 指導の 重点 【40 頁】		種別	具体的取組【D1】	評価【C1】	
	1	継続	「こども 110 の家」推進事業	△	
	2	継続	防犯カメラ整備事業（通学路等見守り用防犯カメラ H29：200 台、R2：8 台）	○	
	3	継続	交通安全教室の開催	○	
特筆すべ き取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	2	通学路の見守り用防犯カメラは、既に整備済（208 台）			
	3	希望があった学校・園に対して実施（保育園 9 箇所、幼稚園 22 箇所、小学校 27 箇所、中学校 6 箇所）			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】				
	1	地域特性に合わせて青少協等の地元団体と連携を図る必要がある。			
改善策等	課題についての対策（案）【A】			期待効果	

(R7 向)	1	地域での取組方法等について、青少年問題協議会で議論する。	地域における取組主体確立
--------	---	------------------------------	--------------

100	ICT 機器やデジタル教材の整備・充実		担当課	教育研修所	
目標値	学習の中でコンピュータなどの ICT 機器を使うのは勉強に役に立つと答える子どもの割合（全国学力・学習状況調査）				
取組内容 基本計画 P【70 頁】	子どもの学習意欲を高め、わかりやすい授業づくりを推進するため、タブレット端末や大型モニタの活用を促進し、デジタル教材の導入・整備・活用を図る。				
学習の中でコンピュータなどの ICT 機器を使うのは勉強に役に立つと答える子どもの割合（全国学力・学習状況調査）					
経年経過	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
小 6	新規指標		71.1%	70.2%	67.8%
中 3			64.2%	58.3%	60.2%
R5 指導の 重点 【40 頁】	種別	具体的取組【D1】			評価【C1】
	1	継続	GIGA スクール構想を受けて整備された ICT 機器等の整備・活用		○
	2	継続	校内通信ネットワークの整備・活用		△
特筆すべき取組	特筆すべき取組の内容（成果）【D2】				
	1	全国学調で、「前年度までに授業で PC、タブレット等の ICT 機器を使用した」と回答した児童生徒の割合が増加			
課題等	上記具体的取組に関する主な課題（主な原因）【C2】				
	2	児童数の多い学校の通信回線が集約型になっている。			
改善策等 (R7 向)	課題についての対策（案）【A】				期待効果
	2	小学校 2 校でローカルブレイクアウト工事実施			ネットワークの安定化

### 【指標】基本施策 10 学びを支える環境の整備

指 標	実績 (令和 5 年度)	目標 (令和 8 年度)	進捗 状況
「前年度までに受けた授業で、コンピュータなどの ICT をほぼ毎日使う」と答える子どもの割合（全国学力・学習状況調査）	(小 6) 22.7% (中 3) 40.7%	小学校・中学校 ともに 90.0%	▼
校舎の洋式便器 1 基あたりの児童生徒数	(女子) 11.1 人 (男子) 17.1 人	(女子) 10 人以下 (男子) 20 人以下	○
学習の中でコンピュータなどの ICT 機器を使うのは勉強の役に立つと答える子どもの割合（全国学力・学習状況調査）	(小 6) 67.8% (中 3) 60.2%	(小 6) 90.0% (中 3) 85.0%	×
★こども 110 番の家年度末設置箇所数	767 箇所	1,040 箇所	×

※進捗状況 「◎」目標を達成(100%以上)、「○」目標に向け順調に進捗している(目標進捗率90%以上100%未満)、  
「△」目標に向け概ね順調に進捗している(目標進捗率70%以上90%未満)、「▼」目標に向け順調に進捗して  
いない(目標進捗率70%未満)、「×」令和3年度実績を下回っている、「－」調査対象外

### (1) 令和5年度三田市教育委員会の活動状況について

定例教育委員会や協議会など22回の会議が滞りなく行われている。また、対外的な会議・研修会なども通常開催になり、他の市町とも顔の見える意見交流がなされるようになったことは意義深い。

特に学校訪問は、春期と秋期に分け全校を回り把握したり研究発表会や音楽会・運動会・体育大会など学校行事に積極的に参加されたりするなど直に児童生徒や教師の姿に触れ、現場把握に努められている。

はからずも、直近の1年間で教育委員の交代が2度あったが、男女比の偏りは改善された。

不登校、教員不足、統廃合など大きな課題が山積しているが、これからも現場の声に耳を傾け子どもたちが教育に夢と希望を持ち続けることができるよう三田市教育委員会の積極的な活動を期待している。

### (2) 『さんだっ子かがやき教育プラン』令和5年度施策事業の取組について

#### ① 「確かな学力」の育成

研修所指導の下「学力向上指導改善プラン」のPDCAサイクルが着実に実施され三田の子どもたちの確かな学力の育成に大きく寄与している。ただ、「自ら課題を見つけ自分で計画を立てて勉強する」姿には若干課題がみられる。小中合同の授業研究や教育課程編成に関する研究の際にも意識して、子ども主体の学習目標の設定や課題解決型の授業の工夫をすることなど一貫した授業になるよう日々の取り組みを大切にされたい。教科担任制の推進で教材研究が深くなり、探究活動を重視した授業になることがその後押しになるよう期待している。

学校司書の配置と指導力向上も上記課題を支えるものである。さらに司書の増員と教科内容を熟知した読書案内ができるように質の向上研修をはかられたい。

#### ② 「豊かな心」の育成

道徳教育実践研究事業を契機に八景中学校区の学校園所合同研修会を市内道徳教育の核として位置づけ、道徳の授業力向上に大きな成果がみられた。成果を着実に蓄積・整理し、カリキュラムセンターが現場で使いやすいものになるよう更なる取り組みを期待している。

いじめを受けたとき「相談しない」児童・生徒の数が微増し小・中共に1割を超えている点を懸念する。話しやすい先生や親・友達関係の構築と共に「いじめ110番」などを子どもたちに一層身近なものにすることが急務である。

14人の在住外国人に対する7か国語の対応はほぼなされている一方、日本語指導は担任任せで不十分である。外国から来られて、日本で暮らす中で日本語がわからないことへの不安は大きい。個別に対応できる人的体制を作る必要がある。

#### ③ 「健やかな体」の育成

芝生園庭での「わくわく体操」は心と体をのびやかにし、成長が顕著である。

小・中学校における体力・運動能力調査に基づく体育授業改善、運動の専門指導員から質の高い技術指導を受ける機会、水泳授業民間施設利用委託モデル事業の実施等、専門性をもった指導が受けられるようになり、運動能力の向上が期待できるようになった。体育の大きな転換点を迎えているともいえる。目標値を見据え安全面に配慮しつつ着実に全校にその事業を行き届かせてもらいたい。

「薬物乱用防止教室」は社会的な情勢をみると全校で取り組むべき課題といえる。

ふるさと給食の割合は下がったが、自然を相手の地場野菜を使った給食の不安定さはやむを得ないともいえる。新開発の「枝豆コロッケ」も子どもたちに歓迎されることだろう。応援したい。安全で美味、まさに「三田ふるさとの味」としてこれからも工夫を重ねて届けてほしい。当たり前のことであるがそれが尊い“事故なく安全な給食”を提供された現場の御苦勞に感謝したい。

#### ④ 一人一人が大切にされる教育の充実

特別支援教育でサポートファイル、ネットワーク会議等縦横に連携し個別の相談、支援を充実させている。個別の相談の結果、人員配置の必要性や転籍の必要が生じた時の柔軟な対応ができることも大切にされたい。特に特別支援教育は専門性を高める教職員研修も重要で続けて充実されると共に、先輩教師の若手への技術継承は教育現場の課題として意識的に取り組まれるよう職場風土を醸成されたい。

不登校児童生徒の出現率がかつてないほど高くなっている。「いじめられた時に相談しない」三田の子どもたち（前述）はここでも「子どものサポーター」「子どものこころの支援員」の身近な存在を求めている。不登校、いじめ対策のためにも全校配置、時間増を目指してほしい。不登校児童生徒の半分近くが関係機関に相談支援を受けていないが、あすなる教室ではメタバースの活用がきっかけとなって効果を上げていることから、メタバース等のオンラインツールを積極的に活用して支援をいき届かせてほしい。

#### ⑤ 社会的自立に向けた教育の推進

「将来の夢や希望を持っている」子どもの割合が低い。そのことと関係しているのか「地域行事に参加している」割合も低い。故郷の祭りや神社等の行事の思い出は成長の基盤となる。子ども達には大いに参加して楽しんでほしい。そして、可能か否かの計算抜きで夢を語り希望にあふれた未来を描いてほしいと願う。

オンライン英語授業が生徒の高い評価を得ている。生きて働く英語力は自信にもつながる。できれば学期ごとなど拡大を目指してほしい。

#### ⑥ 幼児期の教育の充実

認定こども園への移行が順調に行われ子ども達に活気が出てきたことは大きな成果と言える。保育士・幼稚園教諭・保育教諭の三者がそれぞれの立場から良さを出し合い、幼児教育に携われる貴重な時期。そんな時に、どこの園所でも「幼児期までに育てほしい10の姿」を具体的にし、幼児期と児童期の円滑な接続がはかれたことは貴重な実践で保護者の信頼も高い。

## ⑦ 信頼される学校づくりの推進

教職員研修の機会も多くもたれ授業の活性化につながっている。一方、ICT 支援員の数やカリキュラムセンターの整備が遅れている。支援員の増員を図るとともに、総合健康管理ソフトと校務支援ソフトの同一化を早急に進め現場が動きやすい体制作りに努められたい。

勤務時間の適正化については委員会を作ったり定時退勤日の設定をしたり書類の電子化を進めるなどの工夫がされてはいるが、いずれも抜本的な解決策にはなっていない。授業時数の持ち時間を減らしたり欠員補充などを確実に成し遂げたりすることが喫緊の課題といえよう。教育現場には何といてもマンパワーが必要だ。

学校訪問では、子どもたちと教師の関係、地域との関係が、直に感じ取れる場であり、そこから課題を把握したり特色をつかんだりすることができる。学校に寄り添い地域の信頼を高める機会としてほしい。

## ⑧ 地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり

学校支援ボランティアの数やこうみん未来塾の参加人数も順調に増加している。

新規事業として子ども家庭センターができ、終日体制での家庭児童相談など子育て世帯に対する包括的な支援のための体制が整い手厚い取り組みがなされている。

青少年相談では不登校に関する相談が大半を占め、民間支援者との連携を深められ相談者への情報提供等を強化できたことは相談者にとって心強い。進路先などの情報や追跡事例を蓄積し対応するなどさらにあと一步踏み出した取り組みが求められている。

「法に基づくコミュニティ・スクール」が全校で実施されたこの年に実践交流研修会を開き各校の実践が活性化したのは効果的であった。地域の個性が反映される学校が育つことが楽しみでもある。余裕教室の活用は、これからの大きな課題で、つつじが丘小学校だけでなく、広く活用方法を募る必要がある。そのための規制緩和の検討を一步進められたい。

## ⑨ 子どもと大人の「学び」が循環する関係づくり

市内のどの社会教育施設も来場者数が多く活用されていることが伺える。時間の取りにくい中学生や小学生高学年が対象となっているにも関わらず、こうみん未来塾探求コースの修了者数も目標値には達してはいないが増えており、学びの循環の素地が育ちつつある。

地域の伝統文化の継承には地域差があり、その体制もまちまちであるが、子ども達がしっかり受け継ぎ、繋いでいけるように、それを支える学校であってほしい。

文化センターの学校訪問コンサートも多くの学校が鑑賞し意義ある取り組みとして定着しつつある。

## ⑩ 学びを支える環境の整備

上野台中学校と八景中学校の統合に伴う新中学校建設について候補地選定の作業などが、着実に進められている。その他の統廃合についても現状の把握に努めながら慎重に進められている。静かに見守りたい。

限られた予算の中でも優先順位をつけ、トイレの洋式化が進んだことは評価したい。

給食センターの老朽化については、計画的に予算措置をして対策を講じてほしい。三田の給食の良さは子どもたちの誇りであり JA や農家さんと顔の見える関係が結べている。「給食センター基本構想支援等業務委託」をすると、市の手が届かなくなるのではないか。子どもの直接口に入る給食は、安全・安心を守るためにも業務委託せず、市の責任で提供してほしい。いったん手を離すと元に戻るの難しい。

「ICT をほぼ毎日使う」と「ICT を使うのは勉強の役に立つ」子どもの割合が目標値よりかなり低い。ネットワーク環境の安定化に向けた対策の実施に期待する。

**(1) 令和5年度三田市教育委員会の活動状況について**

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが令和5年5月から第5類になったとはいえ、季節性であったインフルエンザが通年で流行していること等も考慮しながら、教育委員が各学校行事等に出席され、子ども達を間近で感じる事が出来ていることは評価すべき点である。

また、教育委員に若年層の方が就任されており、幅広い意見交換が期待出来て良い。

**(2) 『さんだっ子ががやき教育プラン』 令和5年度施策事業の取組について**

**① 「確かな学力」の育成**

「ひとり学びへの手引き」等を活用し、段階を踏みながら育成を図っている。

タイムマネジメント能力の育成も評価する。

読書活動の推進においても、学校司書の配置については評価するが、未配置の学校については、図書館運営にかかる司書教諭の負担を危惧する。

**② 「豊かな心」の育成**

多様性を認め合う共生社会の現在、道徳教育は重要である。計画的で充実した内容になっている。ただ、グローバルな社会に対応していくべき語学の支援が遅れているため、現場の負担軽減を望む。

**③ 「健やかな体」の育成**

食料自給率の低い日本で、食育を含めた地産地消を推進している取り組みは評価する。給食に提供している植物の生長観察等を積極的に行うなど、学習機会の充実を望む。

**④ 一人一人が大切にされる教育の充実**

不登校児童生徒への支援としてデジタル技術（メタバース空間）を活用して子ども達の学習意欲を高める活動は評価できる。

また、別室登校の生徒についても、生徒・保護者への情報提供を今以上に提供することを望む。

**⑤ 社会的自立に向けた教育の推進**

「トライやる・ウィーク」での地域企業との取り組みは、よく出来ている。ただ、「期間が短い」「希望の場所ではない生徒が無理に来ているのでは」等の意見にも対応を望む。

**⑥ 幼児期の教育の充実**

ある程度の集団規模の確保の為に幼稚園が統合されたことは現状仕方ない事であ

ると考える。園児の通う地域の行事を把握し、思い出作りを積極的に行って頂きたい。

#### ⑦ 信頼される学校づくりの推進

教職員への研修の実施についてはよく努力されており、素晴らしい。  
地域自治会と連携していけば、より信頼が得られると確信している。

#### ⑧ 地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり

P T Aが任意加入となっているので、学校づくりと重複することではあるが地域の力を借りて、学校行事を積極的に地域に開放する事により、地域ぐるみで子どもを育てる環境となる。また、P T C A【Parent（親）、Teacher（先生）、Community（地域）、Association（会）】という形で地域を巻き込む検討も必要である。

#### ⑨ 子どもと大人の「学び」が循環する関係づくり

こうみん未来塾等の講座による学習機会の提供及びそれらを通じた地域との関係醸成については評価する。

#### ⑩ 学びが支える環境の整備

学校再編に関し、少子化が統計よりも早く迫っているように感じられる。小・中学校一貫校も早期に検討すべきである。登下校時の安全確保などのため、スクールバスの活用などを検討すべきである。

## (1) 令和5年度三田市教育委員会の活動状況について

子ども達を「どう育てたいのか」という目標が定まっており、それを関係者に伝える意識が高いことが分かる。事業ごとの「ねらい」の明確化と、具体的な策が提案されており、計画・進捗も客観的に評価されている。複数の課・地域・学校とのつながりや、連携を活用した事業の展開も良い。前年度の結果を踏まえ、目の前の課題と向き合い、実践し、評価・改善を継続して行っている点も評価できる。

新しい価値観、新しい学びなど、求められることが多様化している中で、柔軟かつ緻密に学校の環境整備・人員配置に配慮されていることが心強い。子ども、家庭、また教育現場を包括的に支える教育委員会の存在は大きい。この活動が、多くの人に伝わり、今後も協働して三田市の教育に携わってくれることを願う。

## (2) 『さんだっ子かがやき教育プラン』令和5年度施策事業の取組について

### ① 「確かな学力」の育成

学校司書の小学校全校配置は評価できる。その上で、学校司書の資質向上を目指す研修の実施、児童生徒の実態に合う図書室運営を期待する。学校司書と教職員の連携と同じように、学校支援ボランティアとの協働についても理解が深められ、子ども達の読書活動をより豊かにするような研修の実施を望む。

### ② 「豊かな心」の育成

日本語指導が必要な児童生徒に対する支援の充実が必要だが、母語支援は多言語に渡っている。県と市が連携して、個に応じた支援を進めていること及び活動の充実のための報償費の見直しについては評価できる。日本語指導者の確保など、課題は増えていくが、目の前の児童生徒の不安を払拭できるよう、支援に尽力されることを期待する。

### ③ 「健やかな体」の育成

学校給食は、厳しい条件（気候変動、予算等）の中で、「市」単位での地産地消率は低くない。さらに給食全体を地域の食材にしたい意欲に満ちている点が評価できる。三田市の給食は子ども達の評価も高い。物価高騰の中ではあるが、財源を確保し、引き続き子ども達の期待に応える「ふるさとの味」の充実を望む。

三田市で制作された「キッピー体操」が、体を動かす習慣づくりに繋がっているため、引き続き周知を行い、積極的に活用されることを望む。

### ④ 一人一人が大切にされる教育の充実

教職員の人員配置の適正化を希望する。財源を確保し、子ども達の安全を守るために適切な人員の確保を望む。

別室など教室以外の学ぶ場所が準備され、登校に不安のある児童生徒に心の拠り所があることは安心できる。しかしながら、登校に困難を抱えた生徒やその保護者

は情報に対し受け身になりがちな場合もあるため、主体的に情報収集が必要であると知らせる必要がある。情報不足が生徒や保護者の不安を煽り、状況の悪化を招くことのないよう願う。

#### ⑤ 社会的自立に向けた教育の推進

兵庫県独自の体験教育（自然学校、わくわくオーケストラ、トライやる・ウィーク）の取り組みが再開していることは素晴らしい。地域の教育力を活用できており、評価できる。これらの活動は、ふるさとを愛する心を育むことが期待できる。また、いずれの体験教育も、事前から事後の学習の必要があり、学校の内外との連携も求められる。子ども達のキャリア教育のために今後も活動の継続を望む。

#### ⑥ 幼児期の教育の充実

ニーズが高い「預かり保育」が順調に実施されており評価できる。

複数の課が協力し、子どもの学びを支えていることが分かる。

市立幼稚園の再編が、計画に基づき推進されており評価できる。その際、検討委員会での意見が反映されており良い。園児交流や、保護者や職員への丁寧な説明、公開保育・研究発表開催など、準備は多岐に渡る中での教職員の努力と成果が評価できる。

#### ⑦ 信頼される学校づくりの推進

教職員のニーズに応じた研修事業や研究グループの活動が活発で、成果が出ていることが評価できる。これらの報告にアクセスしやすい工夫があり、教職員の資質向上、指導への活用が期待できる。市内の授業案を一極に集約し、教職員が容易にアクセスして、指導・授業に活用できるシステムを構築中とのことで、今後の実践に期待する。デジタルツールを活用するためにも、ICT支援員の増員、情報や教材の共有が容易に行えるシステムの充実を求める。

#### ⑧ 地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり

学校支援ボランティアの高齢化が進み、活動の難しい学校もある。一方、保護者を「地域の一員」として取り込み、持続的に協力を得ている学校もある。学校・家庭・地域が情報を共有し、地域ぐるみで子ども達の育ちを支えるコミュニティ・スクールの良さが認知され、助力を得る工夫は必要である。

「トライやる・ウィーク」に学校支援ボランティアが必要である。中学校と人員確保の方法を共有・活用し、適宜、中学校がサポートを受けられることを期待する。

#### ⑨ 子どもと大人の「学び」が循環する関係づくり

身近にある施設の見学や体験学習は、多くの小学校で活用できている。三田市の歴史や体験学習の良さは、成長する中で振り返り「貴重だった」「有意義だった」と知ることになる。このような経験は、確実に「ふるさと意識」を育んでおり、今後も施設・資料が活用されるよう、校長会などで事業が周知され、学習の機会に活かされることを望む。

## ⑩ 学びを支える環境の整備

担当する複数の課が連携して、環境の整備をされていて良い。

小中一貫校、義務教育学校は、その良さと課題がある。学ぶ環境が整わないことで、子ども達が不利益を被ることのないよう、地域・保護者の理解を得られる協議が進むことを望む。

学校のローカルブレイクアウト工事に期待する。安定したネット環境、アクセスの容易さは学びを止めないために必要である。

## VI 参考資料

### 1 令和5年度三田市教育委員会会議(議案)

番号	件名	議決月日		
1	16 令和5年度三田市立学校教科用図書採択に関する基本方針及び三田市教科用図書選定委員会への諮問について	5	4	26
2	17 令和5年度一般会計6月補正教育予算案に関する原案の決定について	5	4	26
3	18 令和5年度三田市教科用図書選定委員会委員の委嘱と任命について	5	4	26
4	19 三田市在住外国人教育推進委員会の委員の委嘱について	5	5	29
5	20 三田市立学校医、学校歯科医及び学校薬剤師の公務災害補償に関する条例の一部を改正する条例の制定に関する原案を決定すること	5	6	28
6	21 令和5年度一般会計9月補正教育予算案に関する原案の決定について	5	7	26
7	22 三田市立認定こども園条例の制定に関する原案の決定について	5	7	26
8	23 三田市立認定こども園条例施行規則の制定について	5	7	26
9	24 令和6年度使用三田市立学校教科用図書の採択について	5	7	26
10	25 令和5年度教育委員会の事務に関する点検・評価報告書について	5	8	25
11	26 三田市学校給食運営協議会委員の委嘱について	5	8	25
12	27 令和6年度使用三田市立特別支援学校高等部教科用図書の採択について	5	8	25
13	28 三田市立図書館のシステム更新にかかる休館及び特別整理期間について	5	8	25
14	29 令和5年度一般会計12月補正教育予算案に関する原案の決定について	5	10	25
15	30 令和6年度公立学校教職員異動方針について	5	11	27
16	31 令和6年度一般会計当初教育予算案(要求)に関する原案の決定について	5	12	21

17	1	三田市教育委員会会議における議席の指定について	6	1	2 4
18	2	令和5年度一般会計3月補正教育予算案に関する原案の決定について	6	1	2 4
19	3	三田市学校給食費徴収条例の一部を改正する条例の制定に関する原案を決定することについて	6	1	2 4
20	4	三田市高等学校等入学支援金支給規則の一部を改正する規則について	6	2	2 6
21	5	校園長等人事について	6	3	1 8
22	6	「三田市の学校・園における食育推進計画」の改定について	6	3	2 6
23	7	三田市子どもの読書活動推進計画（第4次）の策定について	6	3	2 6
24	8	三田市学校給食費徴収条例施行規則の一部を改正する規則の制定について	6	3	2 6
25	9	三田市立認定こども園条例施行規則の一部を改正する規則の制定について	6	3	2 6
26	10	三田市教育委員会事務局の組織及びその事務管理に関する規則の一部を改正する規則の制定について	6	3	2 6
27	11	三田市教育委員会の権限に属する事務の補助執行に関する規程の一部を改正する訓令の制定について	6	3	2 6
28	12	学校園医、園歯科医及び学校園薬剤師の解嘱と委嘱について	6	3	2 6
29	13	三田市教育委員会事務局及び学校その他の教育機関の職員の職名に関する規則の一部を改正する規則の制定について	6	3	2 6
30	14	三田市教育委員会事務処理規程の一部を改正する規程の制定について	6	3	2 6